福 岡 市

埋蔵文化財年報 Vol. 7　1992年度

1 9 9 4

福岡市教育委員会

表紙は早良区クエゾノ遺跡調査区全景および１号墳主体部

福岡市の概要

位置

この表は建設省国土地理院の２万５千分の１の地図から測定したものです。

方　位	地　点	東　経	北　経
市役所（本庁）	中央区天神一丁目８－１	130° 24′ 15″	33° 35′ 14″
極東	東区大字蒲田字別府の浦	130° 29′ 50″	33° 38′ 34″
極西（陸部）	西区大字西の浦字外蒔	130° 12′ 00″	33° 38′ 11″
極西	西区大字小呂島字向	130° 02′ 06″	33° 51′ 49″
極南	早良区大字板屋字苦笑	130° 25′ 13″	33° 42′ 33″
極北（陸部）	東区大字三苫字牧山	130° 22′ 50″	33° 25′ 17″
極北	西区大字小呂島字向	130° 02′ 17″	33° 52′ 17″

※福岡市勢要覧－平成４年度－による

平成４年度福岡市当初予算

一般会計	5,448億8,900万円
特別会計	6,775億504万３千円
企業会計	2,288億5,954万１千円
合　計	１兆4,512億5,358万４千円

教育・文化に683億円

平成４年度埋蔵文化財関係予算

開発事業審査費	1,301万６千円
公共事業関係費	６億3,970万９千円
民間・国庫補助関係調査費	４億5,317万円
合　計	11億589万５千円

面積、人口、土地利用状況（有租地面積など）

区	面積(㎢)	世帯数	人　口	有租地総面積(千㎡)	宅地				農地		山林	原野その他	免税点未満
					総数	商業地	工業地	住宅地	田	畑			
全　市	336.40	504,886	1,252,296	187,373	75,876	8,432	8,963	58,481	28,914	10,838	50,597	21,148	8,418
東　区	63.20	98,677	251,863	34,207	17,176	432	4,317	12,426	3,935	2,465	5,031	5,600	1,084
博多区	31.40	73,936	166,842	17,453	11,745	3,035	3,540	5,170	1,298	632	1,224	2,554	216
中央区	15.14	68,134	138,931	7,979	7,491	3,049	753	3,689	2	7	205	273	2
南　区	30.98	92,885	236,597	18,804	12,925	657	175	12,093	1,387	396	2,153	1,943	257
城南区	16.02	54,282	124,257	9,653	6,545	282	－	6,263	471	207	1,699	731	122
早良区	95.88	69,356	190,762	47,081	10,534	604	－	9,930	7,954	750	24,798		2,237
西　区	83.78	47,616	143,044	52,197	9,197	373	178	8,910	13,869	6,382	15,486		4,499

※人口は平成４年度１月１日現在の推計人口。福岡市勢要覧－平成４年度－による

序

平成４（1992）年度は、日本経済が下降線をたどり不安定な社会的状況のなかで、埋蔵文化財は脚光を浴びた年だったといえるでしょう。

そのような状況とはいえ、大形の公共プロジェクトおよび民間による中小規模の開発はとどまることなく、これに伴う発掘調査は昨年より増加しました。

本書は、平成４年度の埋蔵文化財行政の概要を示しています。本書が文化財理解の一助となり活用されることを希望いたしますとともに、調査費負担をはじめとする関係者各位のご協力に謝意を表します。

平成６年３月
福岡市教育委員会
教育長　　尾　花　　剛

例　　言

１．本書は、教育委員会文化財部埋蔵文化財課が平成４年度に行なった事業のうち、各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査業務について概要を記したものである。

２．本書の作成は、平成５年度の事前審査担当（井澤洋一、山口譲治、長家伸、菅波正人）で行なった。なお、発掘調査の概要は各調査担当者が分担執筆し、文化財調査の概要については、同部文化財整備課の三木隆行の執筆である。

目　　次

Ⅰ　開発事前審査 …… 1
　1）　平成４（1992）年度の概要 …… 1
　2）　試掘調査一覧 …… 3
Ⅱ　発掘調査の概要 ……17
　1）　平成４（1992）年度の概要 ……17
　2）　発掘調査一覧 ……19
　3）　各調査の概要 ……21
Ⅲ　文化財調査の概要 ……87
附　平成４（1992）年度刊行報告書一覧 ……89

平成４年1992年度の組織

- 文化財部
  - 埋蔵文化財課
    - 第　1　係：公共事業に係わる埋蔵文化財の発掘調査
    - (主任文化財主事)：公共事業に係わる埋蔵文化財の事前調査
    - 第　2　係：民間事業に係わる埋蔵文化財の発掘調査
    - (主任文化財主事)：民間事業に係わる埋蔵文化財の事前調査
  - 埋蔵文化財センター
    - 管　理　係：考古学的資料の収集・保存・展示
    - (主任文化財主事)：考古学資料の調査・収集・整理
  - 文化財整備課
    - 文化財管理係：考古学的資料の収集・保存・展示
    - 文　化　係：芸術・文化の振興・普及、文化団体との連絡
  - 少年科学文化会館
    - 管　理　係：施設の管理運営
    - 学　芸　係：児童図書の閲覧・貸出し、プラネタリウム等
- 博物館
  - 庶務課
    - 庶　務　係：博物館の庶務、連絡調査、施設の管理運営
    - 計画管理係：施設の管理運営、渉外
  - 学芸課 — 主　査：博物館資料の収集・保存・展示・調査研究

埋蔵文化財課の構成

課　　長：折尾　学

第　一　係　長：飛高憲雄

主任文化財主事：井澤洋一、濱石哲也、山崎龍雄、松村道博

係　　員：（技術）小林義彦、吉武　学、吉留秀敏、池田祐司、長家　伸、榎本義嗣、
屋山　洋、中村啓太郎

（事務）中山昭則、吉田麻由美、寺崎幸男

第　二　係　長：塩屋勝利

主任文化財主事：横山邦継、山口譲治

係　　員：（技術）田中寿夫、大庭康時、下村　智、常松幹雄、佐藤一郎、
加藤良彦、荒牧宏行、宮井善朗、菅波正人

Ⅰ　開発事前審査

本市において、土木工事など各種開発にかかわる埋蔵文化財の開発事前審査は、昭和52年度から同57年度までの６年間にわたって実施した分布調査の成果（福岡市文化財分布地図）と昨年度までの発掘調査地をもとにして行なっている。

文化財分布地図は、市役所各開発部局および関係公社・公団などに配布し、事業計画策定段階での活用をお願いしている。また、民間の各種開発関係、不動産取引関係者などには埋蔵文化財課窓口での分布地図閲覧や各種の相談にのっている。この際に文化財保護法の主旨および手続きなどの説明をするとともに、文化財保護についての協力をお願いしている。

1)　平成４（1992）年度の概要

平成４年度中に埋蔵文化財課に提出された公共および民間開発事業に伴う事前調査の申請（『埋蔵文化財事前審査願い』および『事業計画書』）は、下表に示すように公共事業709件、民間開発事業443件の計1,152件であった。また、事前審査窓口に備え付けた『文化財分布地図』の閲覧数は年間1,488件となり、昨年度より557件と減少しているが、電話などによる問い合わせを含めると文化財にかかる社会的要求はますます増大してきているといえよう。

事業別割合では、民間事業は昨年比３％減少し、公共事業開発では同９％弱増加している。

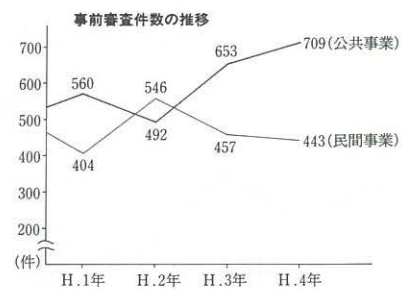
民間事業では、旧博多市街（博多遺跡群）および博多駅南（比恵遺跡群）、那珂・東光寺・竹下（那珂遺跡群）の開発が主体となっている。また、公共事業関係では幹線道路建設、都市公園建設、圃場整備事業、区画整理事業、下水道建設などが主要なものとなっている。

事業審査の内訳では、総件数の60％ほどが書類による審査であり、ついで試掘調査が29％と多く、工事立会、踏査と続く。また、試掘調査は昨年比36％と増加している。

開発事前審査件数の推移

（件）

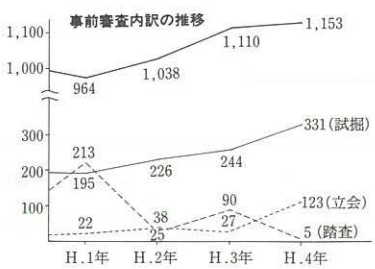
	H.１年	H.２年	H.３年	H.４年
民間	404	546	457	443
公共	560	492	653	709
計	964	1,038	1,100	1,152

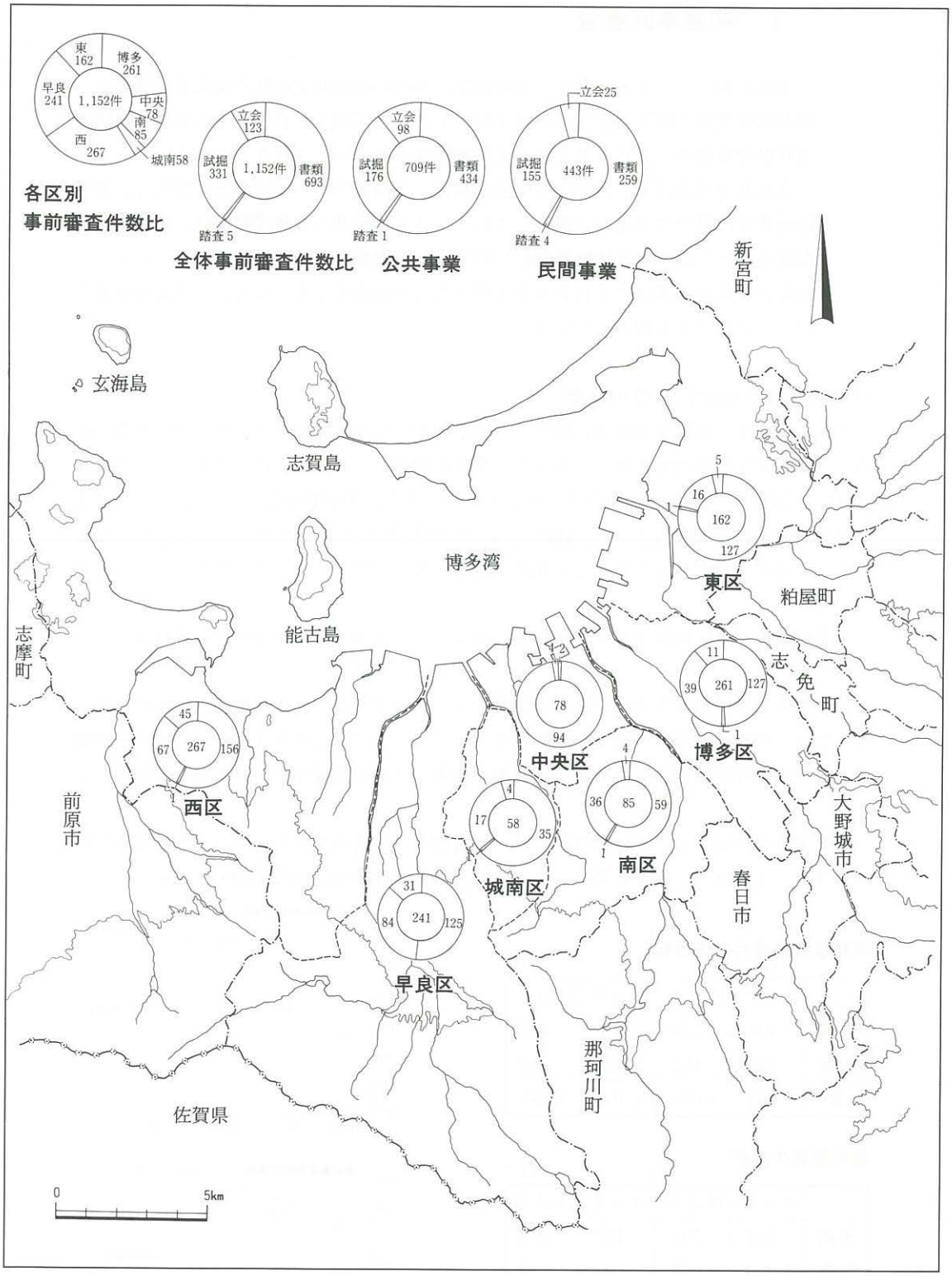


事前審査の内訳

（件）

	H.１年	H.２年	H.３年	H.４年
書類	534	546	457	693
踏査	213	25	90	5
試掘	195	225	244	331
立会	22	38	27	123





平成４年度開発事業事前審査状況

各区の円内訳は、図上円グラフと一致する。

試　掘　調　査　一　覧

ここに掲載する試掘調査は、平成４年度（1992年４月１日～1993年３月31日）に行なったものである。

東　区

※面積は指定以外は㎡

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1		大字香椎字生水寺熊	19920902	宅地造成	35,000	有	発掘調査	16唐原	戦国時代集落跡	2-2-231
2		大字蒲田字部木原397外4筆	19920623	資材置場	4,378	有	発掘調査	2蒲田	古墳～奈良時代集落跡	3-2-410
3	香椎A隣接	香椎二丁目813-1外15筆	19920805	マンション	5,175	有	工事立会	17浜男	4世紀後半包含層	4-2-133
4		大字蒲田字六ツ田786外1筆	19920909	事務所、倉庫	3,697	有	工事立会	2蒲田		4-2-179
5	香椎A	香椎三丁目884-4	19921013	共同住宅	231	無	試掘ナシ	17浜男		4-2-242
6	香住ヶ丘隣接	香住ヶ丘一丁目4-1	19921015	モデル住宅展示場	20,869	無	試掘ナシ	16唐原		4-2-263
7		御島崎二丁目702	19920624	共同住宅	6,404	無	試掘ナシ	31御島崎		4-1-690
8		名島三丁目地内	19921218		320	無	試掘ナシ	32名島		4-1-708
9		西戸崎五丁目119-7	19921013	公民館	743	無	試掘ナシ	69西戸崎		5-1-143
10		大字勝馬地内	19930308	圃場整備	7.1ha	無	試掘ナシ	96勝馬		5-1-573

博多区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	比恵	博多駅南六丁目9-3･4	19921029	倉庫事務所	464	無	工事立会	37東光寺		3-2-251
2	笹原	諸岡六丁目19	19920511	共同住宅	12,065	無	試掘ナシ	25井尻		3-2-354
3	博多	綱場町58	19920512	商業ビル	178	不明	工事立会	49天神		3-2-356

4	諸岡	諸岡三丁目142	19920515	倉庫	407	無	試掘ナシ	24板付		3-2-367
5	博多	対馬小路10-22	19920401	テナントビル	438	有	発掘調査	49天神		3-2-431
6	吉塚本町	千代一丁目569-2	19920421	専用住宅	101	無	試掘ナシ	35吉塚		3-2-452
7	博多	奈良屋町5-10	19920507	社屋新築	277	無	工事立会	48千代博多		3-2-456
8	博多	上呉服町3-3	19920624	住居	116	有	工事立会	49天神		3-2-461
9	比恵	博多駅南六丁目34-2	19920410	事務所共同住宅	1,037	有	発掘調査	37東光寺		3-2-470
10	那珂	那珂二丁目8-3	19920401	マンション	1,103	有	発掘調査	24板付		3-2-472
11	博多	博多駅前二丁目126・125	19920507	賃貸ビル	578	無	試掘ナシ	49天神		3-2-473
12	豊	豊二丁目74-1	19920421	倉庫付事務所	660	無	試掘ナシ	36博多駅		3-2-476
13	比恵	博多駅南六丁目13-2	19920421	畑	932	有		37東光寺	5／7取り下げ	3-2-477
14	那珂	東光寺一丁目332・333	19920422	社屋新築	154	有	発掘調査	37東光寺	中世末大形溝遺構など	3-2-479
15	那珂	竹下五丁目19-27	19920622	共同住宅	1,689	無	試掘ナシ	38塩原		3-2-480
16	比恵	博多駅南五丁目11	19920924	店舗併用住宅	182	有	発掘調査	37東光寺		4-2-1
17	博多	奈良屋町29-1・2・3・30	19920512	ビル	365	有	工事立会	48千代博多		4-2-6
18	板付	板付五丁目1-7	19920421	店舗	264	有	慎重工事	24板付		4-2-7
19	那珂	那珂六丁目314番地外	19920422	果物卸業 倉庫・加工場	11,850	有	工事立会	38塩原		4-2-9
20	南八幡・麦野C	竹丘町一丁目2-3	19920616	駐車場	331	有	慎重工事	12麦野		4-2-11
21	新池・隣地	大字東平尾字久保園367-1	19920527	共同住宅	778	有	慎重工事	23雀居		4-2-16
22	比恵	博多駅南三丁目11-3	19920528	仮本社	2,443	有	慎重工事	37東光寺		4-2-20
23	博多	須崎町55番1・2	19920703	事務所ビル	101	無	発掘調査	49天神	中世の湿地帯	4-2-36
24	麦野	麦野一丁目29番3	19920528	専用住宅	330	無	試掘ナシ	25井尻	既削平	4-2-37
25	比恵	博多駅南六丁目77-1・8	19920616	建物	450	有	発掘調査	37東光寺		4-2-41
26	那珂	那珂一丁目362	19920515	宅地	493	有	発掘調査	23雀居		4-2-42
27	那珂	那珂六丁目314外	19920630	青果加工場	11,850	有	発掘調査	38塩原		4-2-43
28	麦野	南本町二丁目31-1,32-1	19920625	店舗駐車場 遊技場	1,704	有	発掘調査	12麦野		4-2-49
29	那珂	竹下五丁目334	19920720	宅地	518	不明	慎重工事	38塩原		4-2-57
30	比恵	博多駅南四丁目9-27	19920520	宅地	200	有	工事立会	37東光寺		4-2-59

31	比恵	博多駅南六丁目24-1	19920528	倉庫事務所	344	有	発掘調査	37東光寺		4-2-73
32		東平尾一丁目177	19920601	共同住宅 集会所	852	有	試掘ナシ	22上臼井		4-2-74
33	那珂	東光寺町一丁目27-1外	19920601	オートガス スタンド用地	1,110	有	工事立会	37東光寺		4-2-77
34	比恵	博多駅南六丁目6-28	19920709	鉄骨２階建 倉庫新築	456	有	工事立会	37東光寺		4-2-104
35	影ヶ浦	大字金隈字長浦391-1外	19920723	貸倉庫付 事務所	1,171	無	試掘ナシ	11金隈	既削平	4-2-109
36	博多	御供所町8-31	19920625	専用住宅	510	不明	慎重工事	35吉塚		4-2-115
37		諸岡三丁目299-1,296-1外1筆	19920709	共同住宅 事務所	268	無	試掘ナシ	24板付		4-2-116
38	博多	奈良屋町31-1・2・3	19920729	事務所ビル	193	有	発掘調査	48千代博多		4-2-120
39	豊	豊二丁目44	19920715	貸倉庫	3,052	無	試掘ナシ	35吉塚		4-2-123
40		井相田二丁目10-1	19920714	車庫付事務所	695	無	試掘ナシ	12麦野		4-2-125
41	那珂	那珂二丁目122-1	19930126	賃貸共同住宅	1,230	有	発掘調査	38塩原		4-2-132
42	比恵	博多駅南四丁目86	19920722	バス営業所	3,288	有	発掘調査	37東光寺	弥生中～後期集落	4-2-137
43	博多	須崎町4-23	19920911	事務所	193	不明	慎重工事	49天神		4-2-139
44	博多	須崎町221-2	19920729	専用住宅	132	無	試掘ナシ	48千代博多	近世以降の河川堆積	4-2-149
45	諸岡A隣接	諸岡四丁目648	19920827	専用住宅	198	不明	試掘ナシ	24板付		4-2-162
46	青木	青木一丁目250-2	19920804	共同住宅	7,463	無	試掘ナシ	22上臼井		4-2-164
47	板付	板付四丁目9-4	19851209	共同住宅	1,425	有	発掘調査	24板付	弥生後期包含層	4-2-172
48	井相田A	井相田三丁目4-5	19920910	共同住宅	1,448	有	慎重工事	12麦野		4-2-174
49	諸岡A	諸岡四丁目524の一部	19920827	倉庫	198	無	試掘ナシ	24板付		4-2-175
50	影ヶ浦	大字金隈字丸山576-5外	19920929	倉庫事務所	2,529	無	試掘ナシ	11金隈		4-2-184
51	那珂	那珂一丁目639-1の一部	19920914	共同住宅	769	有	慎重工事	37東光寺		4-2-197
52	豊	東光二丁目117・118・134外1筆	19920917	事務所付倉庫	1,936	無	試掘ナシ	36博多駅		4-2-206
53	博多	博多駅前二丁目141～143	19920916	車庫	1,618	無	試掘ナシ	48千代博多		4-2-207
54	比恵	博多駅南五丁目56-2	19921006	事務所	495	無	試掘ナシ	37東光寺		4-2-208
55	那珂	竹下五丁目509	19921008	共同住宅	893	有	発掘調査	38塩原		4-2-229
56	諸岡A隣接	那珂六丁目24-14	19921008	ビル	238	無	試掘ナシ	24板付		4-2-232
57		麦野二丁目5-3	19921013	住宅	1,317	無	試掘ナシ	11金隈		4-2-235

58	麦　野　C	麦野一丁目28-16～18	19921013	診療所付住宅	201	有	工事立会	12麦野		4-2-239
59	博　　多	冷泉町216外3筆	19921029	ビジネスホテル	1,068	有	発掘調査	49天神		4-2-253
60	那　　珂	那珂二丁目5	19921110	倉庫付事務所	545	有	発掘調査	23雀居		4-2-264
61	堅　　粕	吉塚一丁目462-1	19921117	共同住宅	136	無	試掘ナシ	35吉塚		4-2-283
62	諸　岡　A	諸岡一丁目3-1～3	19930224	店舗	2,731	有	慎重工事	24板付		4-2-328
63	青　　木	青木一丁目314外	19930120	共同住宅	5,474	有	発掘調査	22上臼井		4-2-337
64	麦　野　B	三筑二丁目11-6	19930127	共同住宅	882	無	試掘ナシ	25井尻		4-2-338
65	比　　恵	博多駅南五丁目65	19930310	事務所	305	無	試掘ナシ	37東光寺		4-2-391
66	雑　餉　隈	新和町2-1-35	19930310	共同住宅	688	有	発掘調査	13雑餉隈		4-2-395
67	吉塚本町	吉塚本町130-5	19920526	公園	4,351	無	試掘ナシ	35吉塚		4-1-142
68		東那珂二丁目～西月隈三丁目	19920511			有		23雀居		4-1-225
69	雀　　居	福岡空港内	19920423	空港内整備		無	試掘ナシ	23雀居		4-1-682
70	下月隈天神森	大字下月隈字正手517	19921119	公園	10,992	有	発掘調査	10下月隈		4-1-685
71		南八幡一丁目23-1	19920602	庁舎新営	1,209	無	試掘ナシ	25井尻		4-1-686
72	那　　珂	那珂五丁目236-44	19920707		200	無		37東光寺		4-1-692
73	博　　多	住吉四丁目18-1	19920805	遊技場	91	無	試掘ナシ	50平尾	既設建物による撹乱	4-1-698
74	那　　珂	那珂二丁目42-2	19920924	緑地	173	有	発掘調査	23雀居		4-1-700
75	中尾隣接	東平尾公園一丁目地内	19921112	駐車場	30,000	無	試掘ナシ	50平尾		4-1-701
76	大浦廃寺	大井地区	19921215	再開発	20,000	有	発掘調査	21下臼井		4-1-702
77		半道橋～金隈地内	19920921	共同溝		有	発掘調査	10下月隈		4-1-704
78	博　　多	上川端町地内	19930113	再開発	10,000	有	発掘調査	49天神		4-1-705
79	吉塚本町	吉塚本町130-2	19921105	道路	1,193	有	発掘調査	35吉塚		51-40

中央区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1		笹丘二丁目70-2	19920629	公園建設	403	無	試掘ナシ	62小笹		4-1-128
2	福岡城堀	赤坂一丁目6-19	19930329	職業安定所	893	無	工事立会	60舞鶴		4-1-709

城南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1		梅林三丁目106-16	19920409	専用住宅	141	無	試掘ナシ	74七隈		3-2-451
2	飯倉G	干隈二丁目427-11	19920709	住宅	454	不明	慎重工事	74七隈		4-2-105
3	東油山	東油山六丁目110外10筆	19921001	老人保護施設	5,000	不明	慎重工事	65山田		4-2-187
4	片江A	片江三丁目56・57	19921209	宅地	1,235	無	試掘ナシ	63長尾		4-2-300
5	飯倉E	七隈五・六丁目地内	19921111	道路舗装	1,700	無	試掘ナシ	74七隈		4-1-236
6	片江B	片江一丁目983-3	19920623	公園	1,300	有	発掘調査	63長尾		4-1-688
7	長尾	樋井川二丁目889-15・18・19	19920820	いこいの家	536	無	試掘ナシ	63長尾	既削平	4-1-694

南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1		三宅二丁目949-3外	19920402	未定	426	無	試掘ナシ	39三宅		3-2-478
2		老司二丁目3-2	19920507	住宅	118	無	試掘ナシ	40老司		4-2-8
3	野間A	野間二丁目192外10筆	19920729	共同住宅	1,061	無	試掘ナシ	38塩原	既削平	4-2-70
4	東油山古墳	桧原六丁目896-7・32外	19920707	宅地分譲	2,727	無	試掘ナシ	64東油山	既削平	4-2-80
5	三宅A	南大橋一丁目1144-3	19920819	共同住宅	173	無	試掘ナシ	39三宅		4-2-170
6	太平寺	太平寺二丁目327外6筆	19921006	共同住宅	2,236	有	発掘調査	64東油山		4-2-204

7	井尻大塚	井尻五丁目234-13外5筆	19921112	共同住宅	1,451	有	工事立会	25井尻		4-2-255
8	井尻B	井尻一丁目747-1	19930311	マンション	995	有	発掘調査	25井尻		4-2-303
9	野多目C	老司一丁目392-1	19930112	分譲マンション	1,064	無	試掘ナシ	40老司		4-2-319
10	警弥郷B	弥永四丁目13-4	19930209	共同住宅	1,916	有	慎重工事	41警弥郷		4-2-349
11	野多目C	老司三丁目1-3	19920708	公民館	470	無	試掘ナシ	40老司		4-1-110
12		横手三丁目104	19920618	公園	985	無		25井尻		4-1-129
13	桧原古墳群	桧原五丁目地内	19920825	運動公園	16.6ha	有	発掘調査	64東油山		4-1-140
14	和田B隣接	野多目五丁目904-3	19920825		1,400	無		40老司		4-1-687
15		柳河内二丁目317-205外2筆	19921015	いこいの家	266	無	試掘ナシ	52皿山		4-1-695
16	野間A隣接	野間一丁目407	19920820	グラウンド	695	無	試掘ナシ	39三宅	旧溜池か	4-1-699
17	井尻B隣接	高木三丁目17-1外	19930222	公園	3,441	無	試掘ナシ	25井尻		5-1-100
18	日佐隣接	柳瀬一丁目11-3	19930323	市営住宅	2,989	無	試掘ナシ	40老司		5-1-151

早良区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1		南庄三丁目212-1	19920311	専用住宅	858	有	工事立会	81室見		3-2-427
2		大字田781-1	19920501	店舗付共同住宅	923	有	工事立会	84重留		3-2-437
3		重留1070-1の一部	19920929	共同住宅	971	無	試掘ナシ	84重留		3-2-439
4	藤崎	高取二丁目15～19	19920916	共同住宅	423	有	発掘調査	81室見		3-2-444
5		飯倉八丁目579-3,585-1	19920402		2,203	無	試掘ナシ	82原		3-2-454
6		原七丁目15-3	19920414	専用住宅	165	無	試掘ナシ	82原		3-2-458
7	原	原五丁目1235-3	19920414	共同住宅	375	無	試掘ナシ	82原		4-2-5
8	有田	小田部二丁目48・52	19920501	事務所・倉庫	1,205	有	発掘調査	82原		4-2-17
9	原	原八丁目1037-3,1036-5	19920714	専用住宅	151	無	試掘ナシ	82原	自然流路か	4-2-18
10	四箇	大字四箇字亀丸504-1・3	19920512	専用住宅	281	不明	慎重工事	84重留		4-2-26
11	ヒワタシ	東入部1774-3・4	19920514	駐車場	528	無	試掘ナシ	85入部		4-2-31

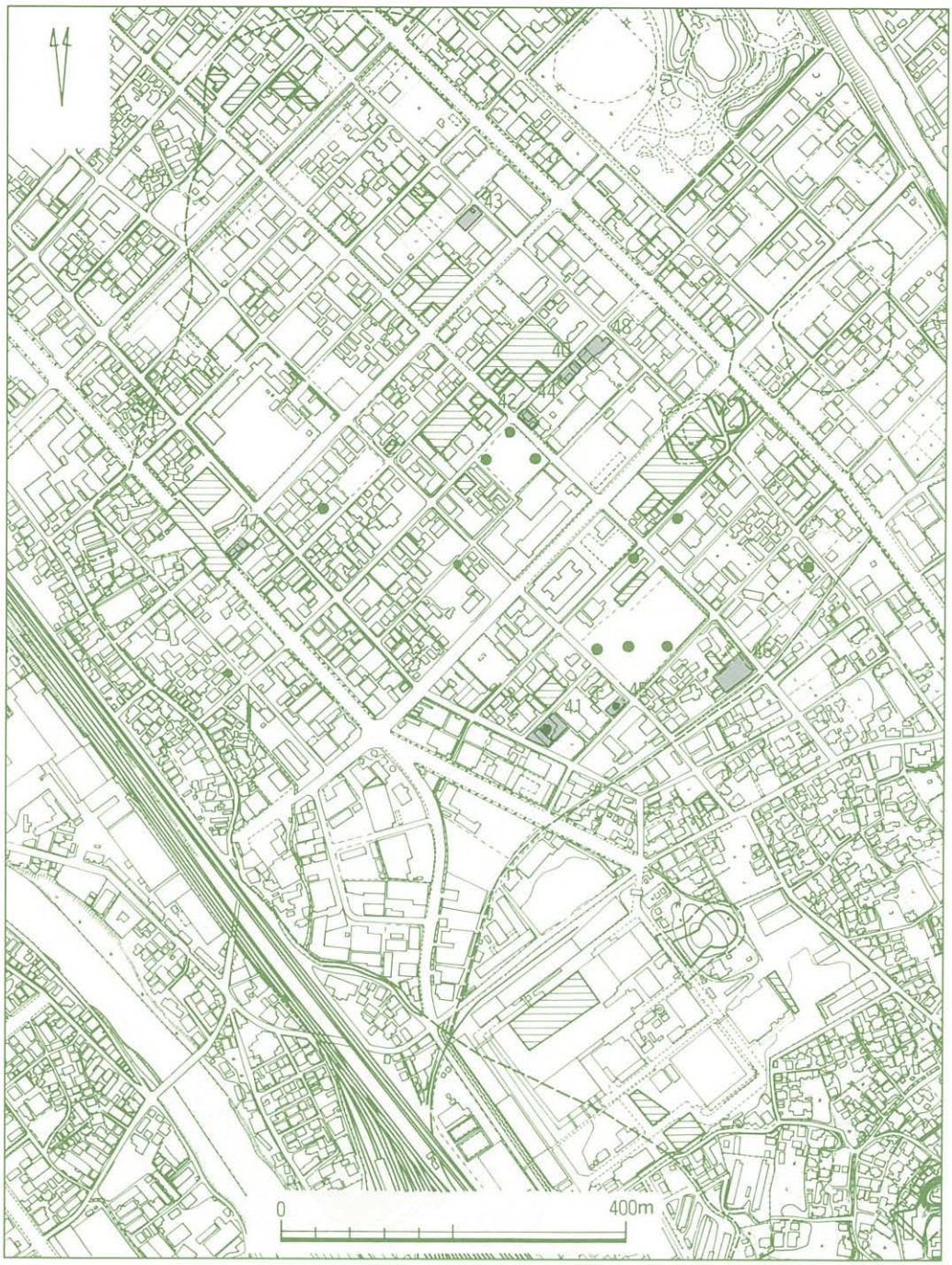
12	原	原六丁目809・810	19920618	専用住宅増築	1,179	有	慎重工事	82原		4-2-48
13	ヒワタシ	大字東入部字大門1770-2	19920618	田	648	有	慎重工事	85入部		4-2-52
14		大字東入部字長志庵350-8	19920624	専用住宅	109	無	試掘ナシ	85入部		4-2-79
15	有田	有田一丁目25-1	19920618	宅地	447	有	工事立会	82原		4-2-88
16	有田	小田部五丁目131-2	19920618	専用住宅	167	有	慎重工事	81室見		4-2-90
17	有田	小田部三丁目20-11	19920710	宅地	259	無	試掘ナシ	82原	谷地形	4-2-91
18	有田1号墳	小田部一丁目242	19920804	宅地	199	無	工事立会	81室見		4-2-95
19	有田	小田部三丁目165外6筆	19920624	専用住宅	194	有	慎重工事	82原		4-2-99
20	東入部	大字東入部字ブシヤ1221-1外4筆	19920630	給食施設	1,197	有	試掘ナシ	85入部		4-2-107
21	ヒワタシ	大字東入部ノマ1439-2	19920723	店舗	754	無	試掘ナシ	85入部	開析谷	4-2-127
22		大字東入部字ノマ1440-8	19920924	店舗	463	無	試掘ナシ	85入部		4-2-128
23	西新町隣接	西新五丁目14-45	19920627	医院	479	無	試掘ナシ	72荒江		4-2-138
24	藤崎A	百道一丁目807-8	19920929	共同住宅	279	無	試掘ナシ	81室見		4-2-196
25	柿木原	内野六丁目122-1	19920916	専用住宅	445	無	試掘ナシ	17早良		4-2-199
26		梅林七丁目551-1外	19921029	共同住宅	910	無	試掘ナシ	75西油山		4-2-214
27	四箇	大字四箇亀丸526-1	19920924	共同住宅	754	無	試掘ナシ	84重留		4-2-216
28	山崎古墳群	野芥五丁目459-1外	19930127	専用住宅	3,312	有	発掘調査	84重留		4-2-226
29	有田	有田一丁目34-5・6	19921112	専用住宅	255	有	工事立会	82原		4-2-249
30	有田	有田二丁目15-11・12外3筆	19921112	専用住宅	176	無	試掘ナシ	82原		4-2-266
31	内野	内野五丁目270-1の一部	19921208	住宅	1,654	無	試掘ナシ	17早良		4-2-273
32	有田	小田部一丁目24	19921112	専用住宅	184	有	工事立会	82原		4-2-275
33	原	原八丁目11-9	19921209	専用住宅	146	不明	試掘ナシ	82原		4-2-280
34		西新一丁目252-1外	19930114	事務所	598	無	試掘ナシ	71西新		4-2-311
35		次郎丸五丁目246	19920710	道路	544	無	発掘調査	92戸切		3-1-660
36		賀茂二丁目172・175・183	19920710		2,786	無		83野芥		3-1-660
37	四箇八郎丸	大字四箇字八郎丸455-1外4筆	19920415	体育館	6,833	無	試掘ナシ	93都地		4-1-2
38	東入部隣接	大字東入部	19920617	道路改良	2,300	有	発掘調査	16一ッ家		4-1-5

39		大字西油山字野中326外	19920603	公園	38,000	有		84重留		4-1-141
40	内　　野	内野地内	19921113	道路改良	1,350	無	試掘ナシ	17内野		4-1-180
41		内野地内	19921019	下水道	450	無	工事立会	17内野		4-1-196
42	原	原七丁目地内	19921113	道路改良	520	無	試掘ナシ	82原		4-1-191
43		内野地内	19921019	下水道	450	無		17内野		4-1-196
44	小　　爪	大字椎原字小爪1423	19921127	下水道	75	無	工事立会	19小爪		4-1-199
45	原　隣　接	原三・五丁目地内	19920617	道路舗装	2,300	無	試掘ナシ	82原		4-1-240
46	原　隣　接	次郎丸一・二・四丁目地内	19920416	道路舗装	1,500	無	試掘ナシ	92戸切		4-1-242
47		東入部329-1～16,353-1	19920708	築造工事	555	有	発掘調査	85入部		4-1-384
48		拾六町417-2外	19921022	集合住宅	約7,000	無	試掘ナシ	104拾六町		4-1-526
49	有　　田	小田部三丁目179-1外	19921006	市住改良	約7,000	有	発掘調査	82原		4-1-528
50	広　　瀬	大字西下広瀬1739-1	19920513	分団車庫	168	無	試掘ナシ	17内野		4-1-683
51	藤　　崎	百道二丁目807-151・156	19920506	分団車庫	43	無	試掘ナシ	81室見		4-1-684
52		大字田字上古川461-1外	19920615		1,316	無		93都地		4-1-689
53		荒江三丁目389-2	19920820	いこいの家	200	無	試掘ナシ	81室見	旧河川堆積か	4-1-693
54	原　隣　接	原八丁目1103-1,1102-4	19930323		160	無	試掘ナシ	82原		4-1-708
55	脇　山　B	大字小笠木地内	19921127	圃場整備	71,000	有	発掘調査	10脇山他		5-1-572

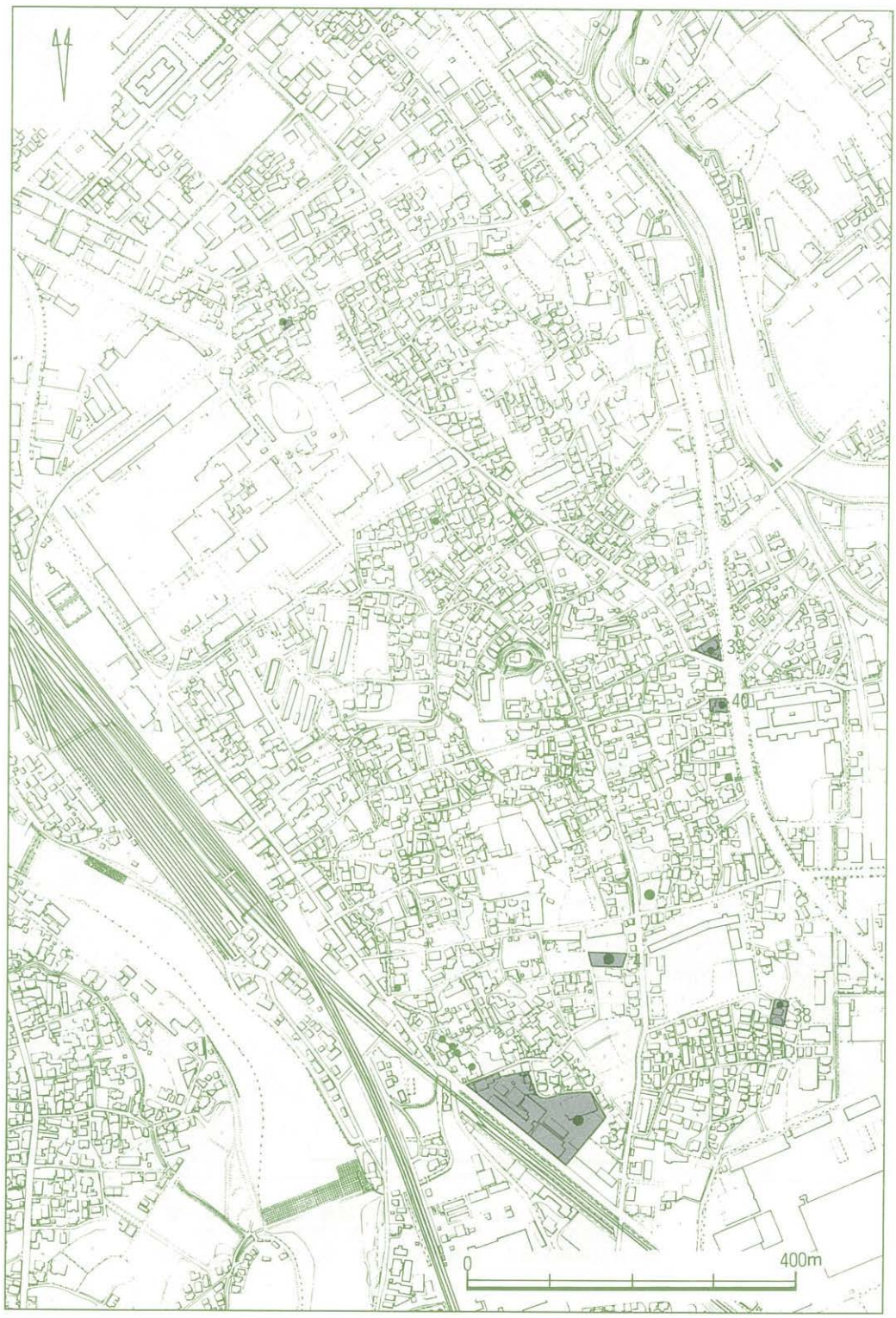
西区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1		下山門四丁目781	19920427	共同住宅	1,183	無	試掘ナシ	103長垂		3-2-464
2	吉武	大字飯盛字キシノ上238-4外2筆	19920422	事務所	3,088	有	工事立会	93都地		4-2-2
3	城ノ原廃寺	上山門二丁目1505-1	19920512	宅地	276	有	慎重工事	103長垂		4-2-28
4	青木	今宿東一丁目92-1	19920520	田	618	有	慎重工事	112今宿		4-2-53
5	大林	拾六町五丁目977-1	19920715	宅地分譲	486	無	試掘ナシ	103長垂	沖積層	4-2-83
6	野方久保	野方一丁目525-1	19921022	共同住宅	1,145	無	試掘ナシ	91橋本		4-2-85
7		下山門三丁目363-1,362-3	19921110	倉庫付事務所	1,901	無	試掘ナシ	90石丸		4-2-86
8	青木隣接	今宿東一丁目542-4	19920723	共同住宅	90	無	試掘ナシ	112今宿		4-2-146
9		拾六町二丁目218-1	19921118	共同住宅	907	有	工事立会	91橋本		4-2-215
10	周船寺（？）	大字千里字シビナ445-1の一部	19921118	共同住宅	978	無	試掘ナシ	132千里		4-2-257
11	周船寺	泉二丁目1051-2	19921208	共同住宅	488	無	試掘ナシ	120周船寺		4-2-271
12		石丸二丁目61-1,62-1	19921209	店舗	2,008	無	試掘ナシ	90石丸		4-2-272
13	青木隣接	今宿青木字小毛田537-1外1筆	19921216	共同住宅	1,111	無	試掘ナシ	112今宿		4-2-299
14	今宿	今宿町地内	19930603	下水道		有	工事立会	111横浜		3-1-308
15	大原A	大原字柳ヶ浦	19920603	道路建設	3,387	有	発掘調査	128大原		3-1-663
16	野方中原	野方地内	19930121		674	無	工事立会	104拾六町		4-1-49
17	牛丸B隣接	吉武地内	19930126	道路改良	1,440	無	工事立会	93都地		4-1-78
18	浦江A	金武地内	19930224	道路改良	22	無	工事立会	94金武		4-1-80
19	戸切	戸切三丁目	19930125		1,535	有	工事立会	92戸切		4-1-88
20	大原C	大字今津3546-1	19920604	公園	3,258	無		128大原		4-1-135
21	姪浜	姪浜二・三丁目	19921023	道路改良	2,360	有	発掘調査	89姪浜		4-1-243
22		大字桑原字下ノ谷	19920721	道路建設	190	無	試掘ナシ	129桑原	湿地堆積	4-1-464
23	桑原	大字桑原字飛櫛	19920604	道路建設	492	有	発掘調査	129桑原		4-1-464
24	元寇防塁今津	大字今津地内	19921130	整備	約3,000	有	慎重工事	118今津		4-1-467

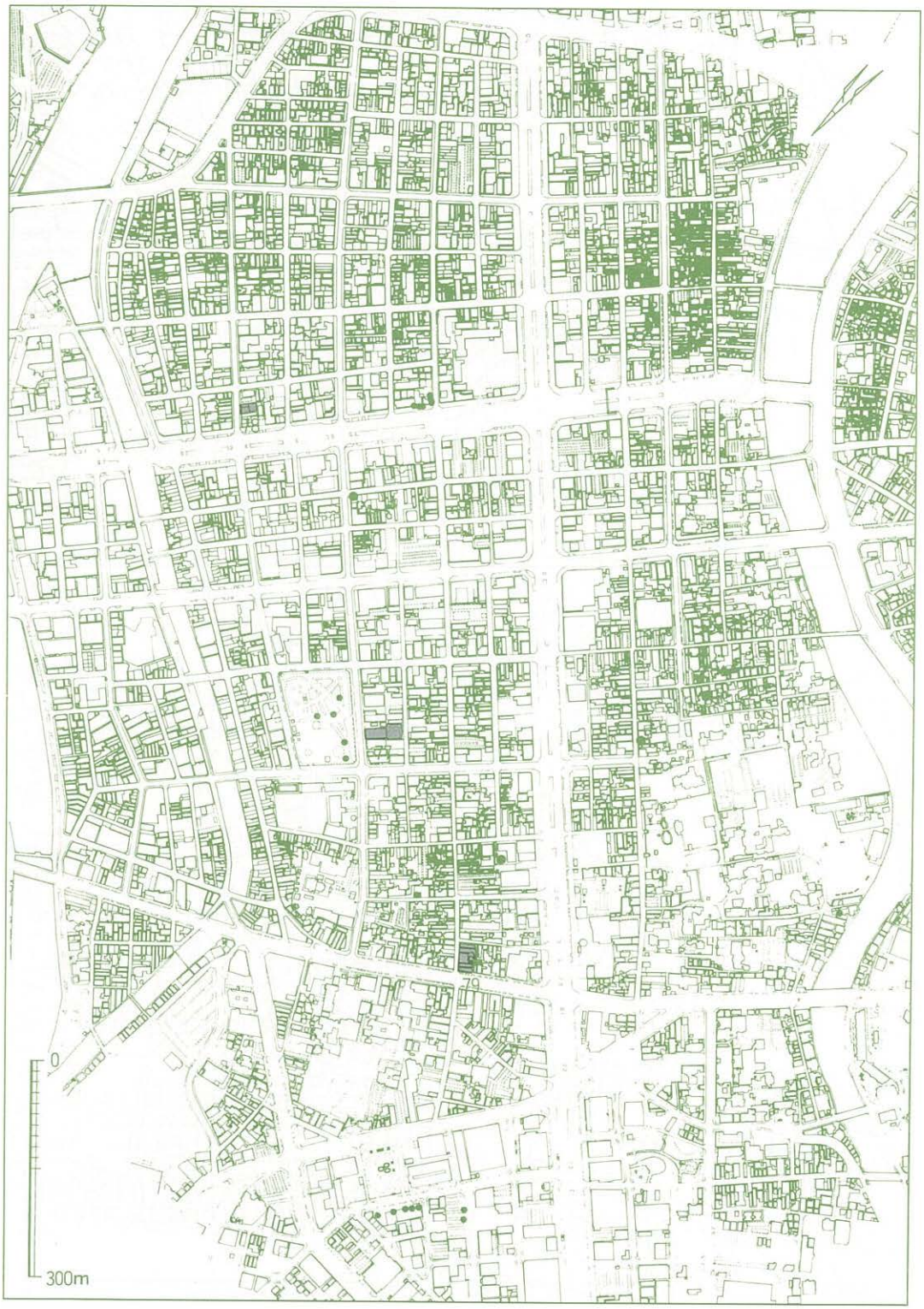
25	今　　宿	今宿町1217-1,横浜一丁目2-1外	19920506	集合住宅	11,000	無	試掘ナシ	111横浜		4-1-527
26	今　　宿	今宿町1217-1,横浜一丁目2-1外	19920722	集合住宅	1,500	無	試掘ナシ	111横浜		4-1-527
27	飯　　氏	大字飯氏地内	19920430	水路改良	9	無	工事立会	121飯氏		4-1-669
28		女原地内	19930219	下水道埋設	290	無		112今宿他		4-1-679
29	野 方 平 原	野方六丁目703-1	19920708	公園	1,495	有		104拾六町		4-1-680
30		大字小田池ノ浦地内	19920513	海釣り公園	8,734	無	試掘ナシ	127小田ノ浜		4-1-691
31	城ノ原隣接	上山門二丁目1575-1外	19921124	納骨堂	50	無	試掘ナシ	103長垂		5-1-5
32	吉　　武	大字飯盛457外	19930222	公園	1,800	有	慎重工事	93都地		5-1-110
33	都　　地	大字金武2028-1	19930210	体育館	1,200	有	発掘調査	93都地		5-1-670



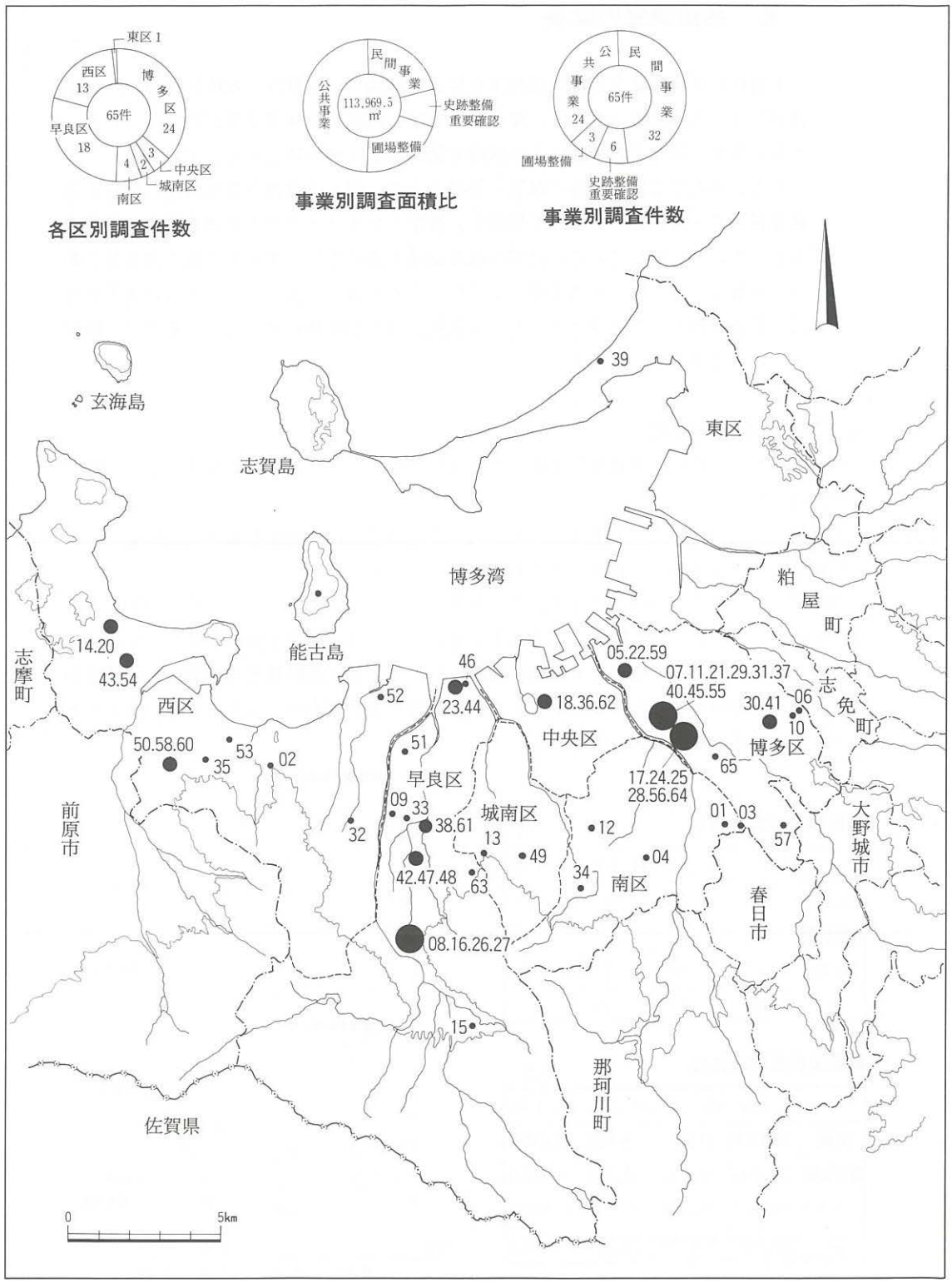
博多区比恵遺跡　平成４（1992）年度試掘・発掘調査地点一覧
・は試掘調査地点（番号は試掘調査一覧〈博多区〉に一致）
　　は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧－19～20P－に一致）



博多区那珂遺跡　平成４（1992）年度試掘・発掘調査地点一覧



博多区博多遺跡　平成４（1992）年度試掘・発掘調査地点一覧



平成４年度発掘調査状況と調査地点の位置

調査地点の番号は発掘調査一覧　19～20と一致する。

平成４（1992）年度埋蔵文化財発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	遺跡略号	調査原因	調査種類	原因者	調査地所在地	対象面積 ㎡	調査面積 ㎡	調査面積 古墳	調査期間	担当者	分布地図番号
9201	井尻Ｂ遺跡群	3	ＩＺＢ	共同住宅建設	民受	都市総合開発研究所	南区井尻一丁目293-1外	966	1,060		920406～920715	宮井善朗	井尻025-A-3
9202	鋤崎遺跡	1	ＳＵＺ	共同住宅建設	民受	斉藤正信	西区今宿青木1021-1外	1,719	710		920404～920514	長家　伸	今宿112-A-8
9203	笹原遺跡群	1	ＳＮＨ	公団住宅建設	公受	住宅都市整備公団	南区井尻三丁目16外	7,292	2,614		920413～920731	佐藤一郎	井尻025-A-7
9204	野多目Ｂ遺跡群	4	ＮＭＢ	市営住宅建設	公受	住宅供給公社	南区野多目三丁目595-7外	6,000	1,900		920416～920724	吉留秀敏	三宅040-A-2
9205	博多遺跡群	77	ＨＫＴ	倉庫建設	民受	㈱フカヤ	博多区店屋町156	531	349		920406～920619	大庭康時	天神049-A-1
9206	席田青木遺跡	1	ＭＡＫ	区画整理事業	民受	区画整理組合	博多区空港前五丁目および青木二丁目	42,000	5,360		920406～921015	下村　智	上臼井022-A-2
9207	比恵遺跡群	40	ＨＩＥ	倉庫改築	民受	玉屋リネン	博多区博多駅南四丁目72外	4,390	540		920413～920624	田中寿夫	東光寺037-A-1
9208	東入部遺跡群	4	ＨＧＩ	公民館建設	公受	土地開発公社	早良区大字東入部字飛松329-1	1,319	1,319		920506～920810	池田祐司	入部085-A-4
9209	次郎丸遺跡群	1	ＪＲＭ	道路建設	公受	九州地方建設局	早良区次郎丸二・三丁目	1,640,000	3,192		920519～921228	山口譲治	戸切092-A-1
9210	大谷遺跡群	4	ＯＴＮ	公園建設	令達	都市整備局	博多区東平尾公園二丁目20-1外	30,000	1,437	1	920511～920809	加藤良彦	東平尾009-B-3
9211	比恵遺跡群	41	ＨＩＥ	ビル建設	民受	第一電工株式会社	博多区博多駅南六丁目34-2	1,037	633		920506～920811	山崎龍雄	東光寺037-A-1
9212	長尾遺跡群	1	ＮＧＯ	市営住宅建設	公受	建築局	城南区樋井川四丁目323-3外	9,118	797		920515～920711	小林義彦	長尾063-A-1
9213	クエゾノ遺跡	1	ＫＥＺ	宅地造成	民受	東洋開発株式会社	早良区梅林七丁目149-9外	3,688	3,600		920518～921228	常松幹雄	西油山075-A-2
9214	大原Ｄ遺跡	2	ＯＢＤ	埋め立て場建設	令達	環境局	西区今津字小浦他	27,000	15,000		920428～930331	松村・加藤	大原128-B-1
9215	脇山遺跡群	7	ＷＫＡ	圃場整備事業	令達・補	土地改良組合	早良区大字脇山地内	140,000	7,900		920413～921016	榎本・屋山	早良010-A-2
9216	東入部遺跡	3	ＨＧＩ	圃場整備事業	令達・補	土地改良組合	早良区大字東入部	140,000	13,832		920420～930131	浜石・長家	入部085-A-8他
9217	那珂遺跡群	36	ＮＡＫ	事務所建設	民受	東邦重建㈱	博多区東光寺一丁目332外	154	154		920608～920610	荒牧・横山	東光寺037-A-3
9218	鴻臚館	8	ＫＲＥ	確認調査	補・市単	福岡市教育委員会	中央区城内1	2,500	1,680		920615～931030	山崎・瀧本	舞鶴060-E-1
9219	能古島遺跡	1	ＮＯＯ	遺跡発掘事前総合調査	補	福岡市教育委員会	西区能古	2,930,000	600	2	920401～930331	菅波正人	能古099他
9220	大原Ａ遺跡	1	ＯＨＡ	道路建設、圃場整備	令達・補	環境局・西区農林	西区大字今津字柳ノ浦	40,000	3,600		920625～921031	長家　伸	大原128-A-1
9221	比恵遺跡群	42	ＨＩＥ	工場建替	民受	玉屋装工	博多区博多駅南四丁目6-23	4,025	756		920706～921113	田中寿夫	東光寺037-A-1
9222	博多遺跡群	78	ＨＫＴ	事務所ビル建設	民受	勤労者財形住宅センター	博多区古門戸町28・29	286	227		920713～921002	大庭康時	天神049-A-1
9223	藤崎遺跡群	22	ＦＵＡ	事務所付共同住宅	民受	石橋誠一	早良区藤崎一丁目6	261	178		920713～920831	小林義彦	室見081-A-1
9224	那珂遺跡群	37	ＮＡＫ	倉庫建設	民受	福岡大同青果	博多区那珂六丁目314外	11,850	1,215		920720～920905	吉留秀敏	塩原038-A-3
9225	那珂遺跡群	38	ＮＡＫ	共同住宅建設	民受	吉村ヨシエ他	博多区那珂六丁目80-1	1,104	566.5		920720～920908	宮井善朗	板付024-A-1
9226	東入部遺跡	5	ＨＧＩ	下水道建設	公受	下水道局	早良区大字東入部329-1	318	351		920721～920820	井澤・吉武	入部085-A-4
9227	東入部遺跡	6	ＨＧＩ	道路改良工事	令達	土木局	早良区大字東入部地内	4,800	380		920809～920904	池田祐司	早良016-A-1
9228	那珂遺跡群	39	ＮＡＫ	共同住宅建設	民受・補	広田利勝	博多区那珂一丁目362	493	493		920810～921003	佐藤一郎	那珂023-A-1
9229	比恵遺跡群	43	ＨＩＥ	立体駐車場建設	民受	総合警備保障株式会社	博多区博多駅南四丁目154-3外	1,579	354		920820～921130	山崎龍雄	東光寺037-A-1
9230	雀居遺跡	3	ＳＡＳ	空港整備	公受	第4港湾建設局	博多区大字雀居地内	20,000	3,590		920803～930322	松村道博	上臼井022-A-7
9231	比恵遺跡群	44	ＨＩＥ	油貯蔵タンク建設	民受	玉屋リネン	博多区博多駅南四丁目	60	60		920827～920905	田中寿夫	東光寺037-A-1
9232	野方久保遺跡	4	ＮＫＵ	宅地造成	民受	西鉄不動産	西区野方一丁目517-3外	3,127	450		920907～921030	小林義彦	橋本091-A-7
9233	次郎丸高石遺跡	2	ＪＲＴ	外環状線建設	公受	九州地方建設局	早良区次郎丸一丁目地内	1,904	1,503		920731～921103	山口譲治	野芥083-A-8

9234	桧原古墳群	1	HBK	南部運動公園建設	令達	都市整備局	南区桧原五丁目地内・同大字桧原	1,830	2,500	2	920921～930130	吉留秀敏	東油山064-A-5
9235	徳永古墳群H群	2	TKK	造成・植林	補	武石勝久	西区大字女原377	6,766	940	6	920909～930303	池田祐司	飯氏121-B-18
9236	鴻臚館	9	KRE	重要遺跡確認調査	補・市単	福岡市教育委員会	中央区城内1	500	430		920910～930331	瀧本・山崎	舞鶴060-E-1
9237	比恵遺跡群	45	HIE	倉庫建設	民受	高見征義	博多区博多駅南六丁目241	344	344		920928～921031	佐藤一郎	東光寺037-A-1
9238	免遺跡群	3	MEN	外環状線建設	公受	九州地方建設局	早良区賀茂三丁目	14,269	7,955		920924～930329	山口・中村	野芥083-A-4
9239	奈多砂丘B遺跡	1	NTB	自然崩壊	補	福岡市教育委員会	東区奈多字小瀬祓1302-50	1,000	70		921014～921130	宮井善朗	奈多043-A-2
9240	比恵遺跡群	46	HIE	倉庫建設	民受	八尋正彦	博多区博多駅南六丁目13-2	932	388		921022～921212	大庭康時	東光寺037-A-1
9241	雀居遺跡	4	SAS	空港整備	公受	防衛施設庁	博多区大字雀居地内	2,983	2,560		921019～930331	下村　智	雀居023-A-4
9242	田村遺跡群	12	TMR	道路建設	令達	土木局	早良区大字田804-1外	773	800		921026～921214	榎本義嗣	都地093-A-21
9243	桑原遺跡	1	KWM	搬入道路建設	令達	環境局	西区大字桑原字立浦	300	300		921105～930123	井澤・吉武	桑原129-A-2
9244	藤崎遺跡群	23	FUA	共同住宅建設	補・民受	由宇宏貴	早良区高取二丁目15～19	423	250		921026～921118	中村啓太郎	室見081-A-1
9245	比恵遺跡群	47	HIE	店舗付住宅建設	補・民受	生田俊明	博多区博多駅南五丁目11	182	120		921106～921125	佐藤一郎	東光寺037-A-1
9246	西新町遺跡	5	NSJ	病院建設	民受	吉村医院	早良区西新三丁目606-4	303	230		921102～921114	池田・長家	西新071-A-1
9247	田村遺跡	13	TMR	道路建設	令達	早良区土木農林	早良区大字田	750	580		921201～930130	榎本義嗣	戸切092-A-14
9248	田村遺跡	14	TMR	市営住宅建設	令達	建築局	早良区大字田	3,038	1,500		921130～930131	常松幹雄	重留084-A-1
9249	片江B遺跡	2	KEB	片江東公園建設	令達	都整備局	城南区片江一丁目983-3	17	17		921204～921209	吉武　学	長尾063-A-4
9250	伊都区画整理地区内遺跡	2		伊都区画整理試掘	令達	都整備局	西区周船寺地内	180,000	2,600		921214～930331	小林義彦	周船寺120
9251	有田遺跡群	170	ART	市営住宅改良事業	令達	建築局	早良区小田部三丁目179-1	2,150	750		930105～930331	吉武　学	原082-A-1
9252	姪浜遺跡群	3	MNH	道路改良事業	令達	土木局	西区姪浜二・三丁目地内	2,360	1,330		930201～920520	長家　伸	姪ノ浜089-A-2
9253	今宿五郎江遺跡	4	IZG	鉄塔立て替え	民間受託	九州電力株式会社	西区今宿	77	77		930208～930220	榎本・浜石	今宿112-A-5
9254	東桑原遺跡	1		道路改良事業	令達	環境局	西区大字桑原字下ノ谷865-1	15	15		921102～921104	井澤洋一	桑原129
9255	比恵遺跡群	48	HIE	工場改築	民受	玉屋リネン	博多区博多駅南四丁目9-8	4,390	850		930106～930331	田中寿夫	東光寺037-A-1
9256	那珂遺跡群	40	NAK	倉庫兼事務所	民受	伊藤フミ	博多区那珂二丁目5	545	496		930208～930413	山崎龍雄	雀居023-A-1
9257	麦野B遺跡	2	MGB	パチンコ店建設	民受	親和	博多区南本町二丁目31-1外1筆	1,704	1,364		930215～930409	佐藤一郎	麦野012-A-3
9258	飯氏二塚古墳	1	IJK	重要遺跡確認調査	補	福岡市教育委員会	西区飯氏字鏡原	3,500	3,500	1	930207～930616	常松幹雄	飯氏121-B-1
9259	博多遺跡群	79	HKT	商業ビル建設	民受	松下興産	博多区冷泉町46外	1,096	610		930222～931029	大庭康時	天神049-C-1
9260	飯氏遺跡群	5	IIJ	自然観察園建設	民受	法林寺	西区飯氏字上松3筆外	8,480	600		930215～930220	常松幹雄	飯氏121-A-1
9261	免遺跡群	4	MEN	外環状線建設	公受	九州地方建設局	早良区賀茂三丁目	3,000	2,543		930106～930921	山口・中村	野芥083-A-4
9262	花見櫓	21	FUE	確認調査	市単	福岡市教育委員会	中央区城内1	200	200		930301～930331	瀧本・山崎	舞鶴060-E-1
9263	山崎古墳群B群	2	YSK-B	住宅造成	民受	大井不動産	早良区野芥五丁目459-1外	3,312	2,100	3	930307～930520	浜石哲也	重留084-B-8
9264	那珂遺跡群	41	NAK	共同住宅建設	民受	山根久雄	博多区竹下五丁目509	893	550		930315～930521	菅波正人	塩原038-A-3
9265	板付遺跡		ITZ	確認調査	市単	福岡市教育委員会	博多区板付五丁目7-1-1		1,000		920410～920730	力武卓治	板付024-A-8

9201　井尻Ｂ遺跡群第３次調査（IZB－３）

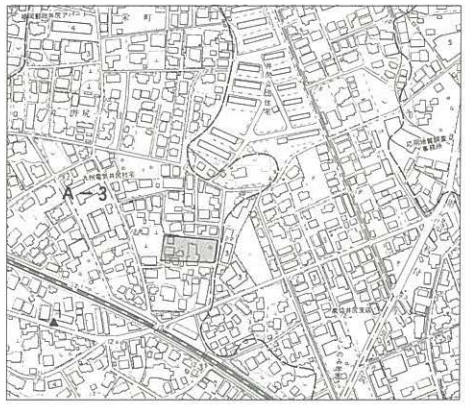
所在地	南区井尻一丁目293－１外	調査面積	1,060.5㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	宮井善朗
調査期間	920406～920715	処　置	調査後破壊

位置・環境　井尻Ｂ遺跡は須玖丘陵から北に伸びる丘陵上に立地する。今回調査地点は遺跡の東端付近に当たる。表土を重機で除去した後、黄褐色ローム上で弥生時代～古墳時代、及び古代の遺構を検出した。

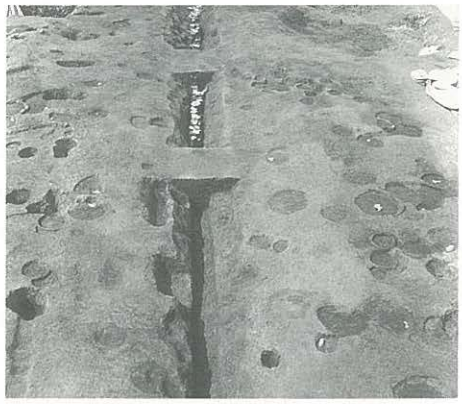
検出遺構　弥生時代の遺構としては、井戸、住居跡、ピットなどがある。このうち中期と考えられるのは井戸１基、円形の住居跡１基である。また後期後半～終末に属するものは住居跡５基以上、井戸２基がある。住居跡はいずれも長方形で２本柱、炉、ベッドを持つ。最大のもので8.6m×６ｍを測る。該期の住居跡はやや西に振れる。西端の１基の住居跡からはベッド上に多量の炭化米が検出された。古墳時代前期の遺構としては、住居跡２基以上がある。長方形でベッドを持つのは前代と共通する。該期にはほぼ南北にむく。今回調査区では出土遺物から時期を確定できない物も含めて住居跡は総計19基検出されたが、古代と考えられるベッドを持たない２基を除くといずれも弥生時代後期～古墳時代前期に属するものと考えられる。古代の遺構としては住居跡２基、溝１条などがある。溝はほぼ南北方向に延び、底面は平坦である。

出土遺物　遺物は総量でコンテナ50箱ほどである。古代溝の覆土内から多量の瓦が出土している。軒瓦は丸瓦のみ出土しており、いずれも百済系の単弁瓦である。

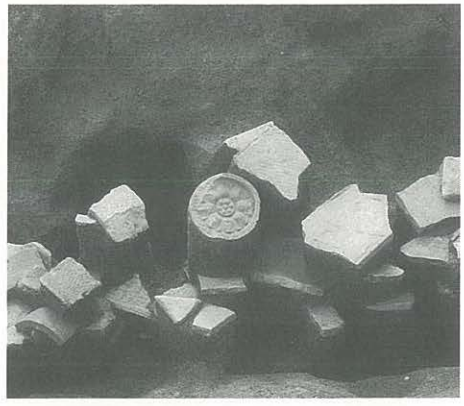
まとめ　今回調査によって、井尻周辺に弥生時代から古墳時代の大規模な集落が広がっていたことが明らかとなった。また九州でも最古段階の瓦葺建物を持つ施設（寺院、官衙など）があったことも明らかとなった。



１．調査地点の位置（25－Ａ－３、１：8000）



２．溝25（奈良時代）（南から）



３．軒丸瓦出土状況

9202　鋤崎遺跡第１次調査（SUZ－１）

所 在 地　西区今宿字土山　　**調査面積**　710㎡
調査原因　共同住宅　　**担 当 者**　長家　伸
調査期間　920408～920514　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は早良平野と今宿平野を画する丘陵の西側裾部に位置する。調査区の南東部には鋤崎古墳が存在する。

検出遺構　検出した遺構には弥生時代の竪穴住居跡３棟のほかピット・土壙がある。また調査区の西側には古墳時代後期を主体とした包含層が堆積していた。

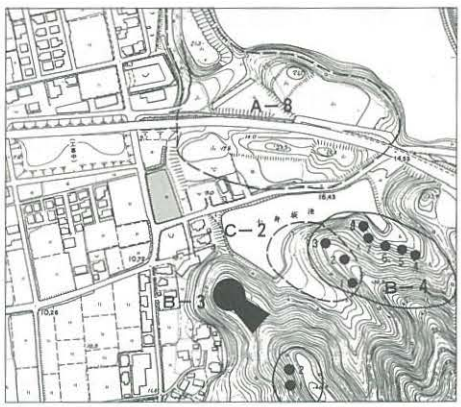
出土遺物　出土遺物はほとんど細片のみである。また包含層からは須恵器と共にコンテナ２箱程度の鉄滓が出土している。遺構からは、弥生時代を中心としてコンテナ27箱分出土した。

ま と め　調査区は全体に削平が著しく遺構の残りはあまり良好とは言えない。

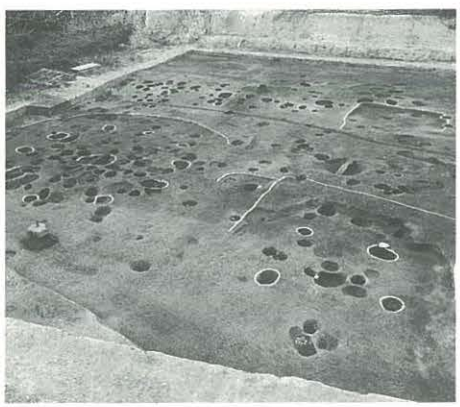
竪穴住居跡は円形１棟・方形３棟がある。円形住居跡は削平が著しく、壁はほとんど残っていないが、復元すると径が９ｍ程度の大型のものである。８本柱を持ち、中央に長軸80㎝を測る楕円形の土壙を有する。方形住居跡も残りは悪いが、１棟には削り出しのベッド状遺構を有し、４本柱である。

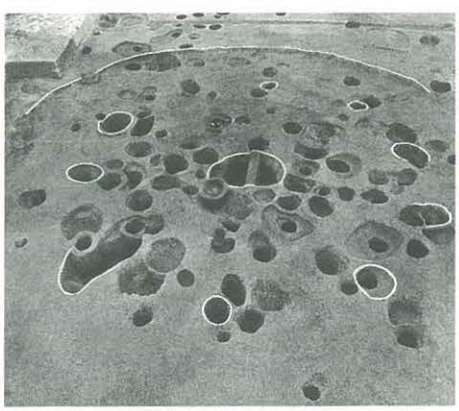
また西側の包含層からは古墳時代後期に属する須恵器破片と共に鉄滓が出土している。精錬滓と思われるが調査区内では製鉄炉は確認されておらず、東側丘陵部に構築されていたものと思われる。

本調査区は丘陵の西裾にあたり鋤崎遺跡の範囲が従来より広がることが確認された。



1．調査地点の位置（112－Ａ－８、１：8000）


2．Ⅱ区全景（西から）


3．SC－34（西から）

9203　笹原遺跡群第１次調査（SNH－１）

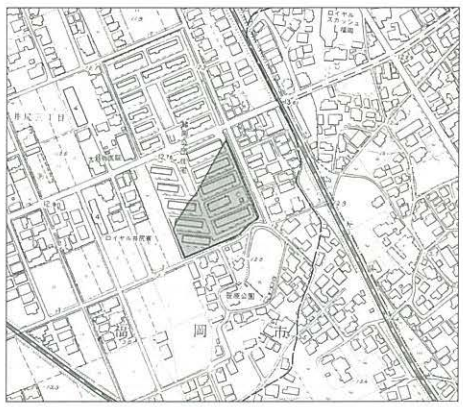
所在地	福岡市南区井尻三丁目16	調査面積	2,614㎡
調査原因	公営住宅建設	担当者	佐藤一郎
調査期間	920413～920731	処置	調査後破壊

位置・環境　調査地は沖積微高地と低湿地との堺に位置する。地山は黄褐色粘土が二次堆積したもので、標高14mを測る。

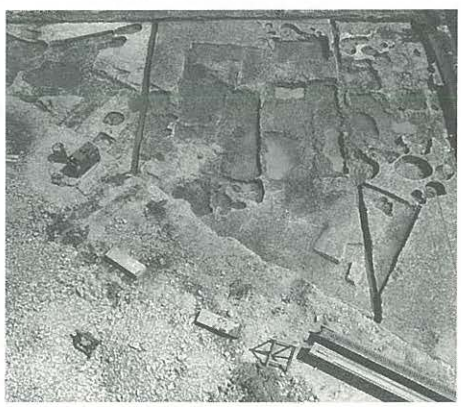
検出遺構　検出された遺構は６世紀前半の土壙３基、ピット群で、調査区の南西側に集中して検出された。土壙は長楕円形もしくは隅丸長方形で、全長1.6～1.8m、幅0.8～2.0m、深さ10～50mを測り、それぞれ須恵器壺、甕、土師器甕が埋納されていた。墳墓の可能性が考えられる。調査区の北側では明確な遺構は検出されず、地山の二次堆積の黄褐色粘土にブロック状に散在する黒褐色粘土中から、須恵器片、石鏃、石匙が出土した。黒褐色粘土ブロックは掘り込まれた形跡はみられず、周辺域からの遺物包含層の流れ込みとみられる。

出土遺物　土壙から完形に近い状態の土器が各１個体ずつ出土したほか、ピット群、黒褐色粘土中から土師器、須恵器片が整理用コンテナ１箱、石鏃が５点、石匙が１点出土した。

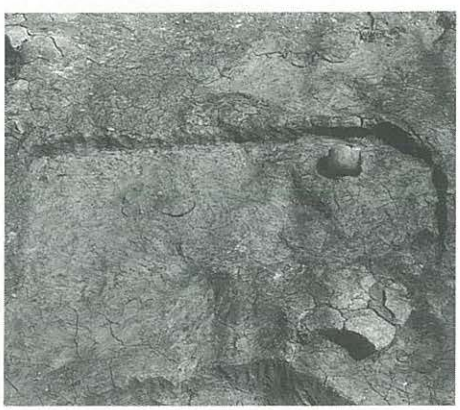
まとめ　今回の調査地では南西側で土壙、ピット群が検出された他は、集落、生産遺跡は検出されなかった。それらを営むにはあまりに劣悪な低湿地という立地条件を克服しえず、墓地、もしくは廃棄のための土地利用に止まったのであろう。



１．調査地点の位置（25－Ａ－７、１：8000）



２．Ⅲ区全景（北から）



３．SK－35（北から）

9204　野多目Ｂ遺跡群第４次調査（NMB－４）

所 在 地	南区野多目三丁目595－７外	**調査面積**	1,645㎡
調査原因	共同住宅建設	**担 当 者**	吉留秀敏
調査期間	19920416～19920724	**処　　置**	調査後破壊

位置・環境　調査対象地は那珂川中流の西岸にあり、舌状の低丘陵に挟まれた沖積地内にあたる。標高は約16m、地表下約２mの深さで基盤となる。地形は僅かに北東側に下がる。基盤上で古代と弥生時代の遺構を検出した。また、基盤を切り自然流路がある。

検出遺構　縄文時代後期の包含層は調査区西側の自然流路の斜面に形成され、その流路に注ぐ溝状の遺構が検出された。包含層や遺構から土器片、石器類などや、堅果類の殻などが多量に出土した。これらは当時の自然流路に近い場所で木実の加工（殻剥き、アク抜きなど）を行った状況を示している。

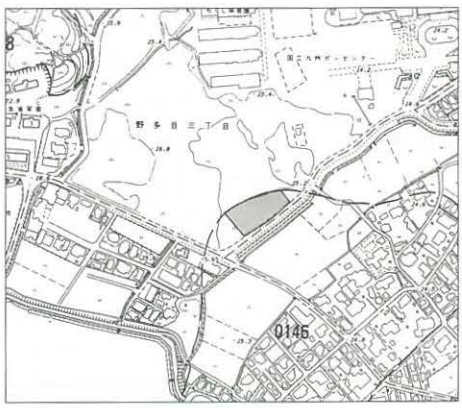
弥生時代の遺構は水田に伴う用水路跡であるが、水田面は後世の削平で検出できなかった。昭和58～59年に調査された大橋南団地予定地のものの続きであろうと推定された。遺構からは弥生時代初期の土器などが出土している。

古代の遺構は調査範囲の東側に集中し、数群に分かれて分布している。遺構は埋葬用と見られる土壙40～50基、柱穴多数がある。土壙は長さ1.5m前後、幅１m前後の楕円形であり、穴の中に甕や壺が据え置かれている例もあった。これらの土器は８～９世紀のものである。

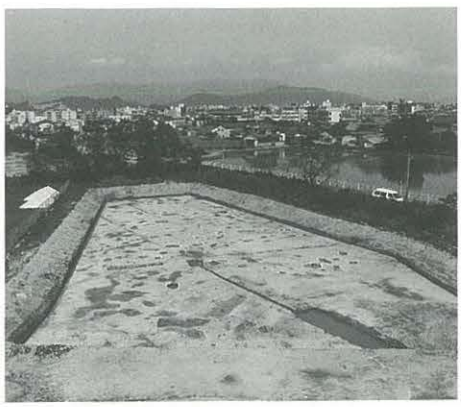
出土遺物　遺物はコンテナ30箱が出土した。縄文時代後期の阿高式系土器、石鏃、剥片類や加工木片、植物遺体が多い。弥生時代の土器片、木器。古代の土器類、瓦片がある。

ま と め　古代の遺構は低地に設けられたいわゆる密集型土壙群であり、当時の下層民の墓地と見られた。

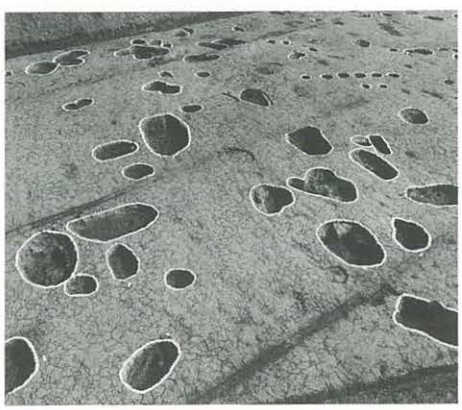
弥生、縄文時代の遺構、遺物は当時の生産活動を検討できる貴重な資料である。



１．調査地点の位置（40－Ａ－２、１：8000）



２．調査区全景（西から）



３．古代の土壙群（北から）

9205　博多遺跡群第77次調査（HKT－77）

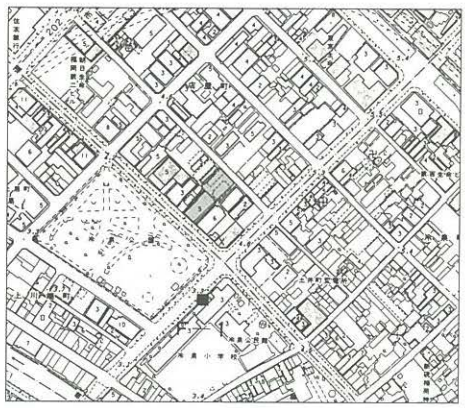
所在地	博多区店屋町156	調査面積	349㎡
調査原因	ビル建設	担当者	大庭康時
調査期間	920406～920619	処置	調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多遺跡群の基盤となる２列の砂丘のうち、内陸側砂丘の西端近くに位置する。

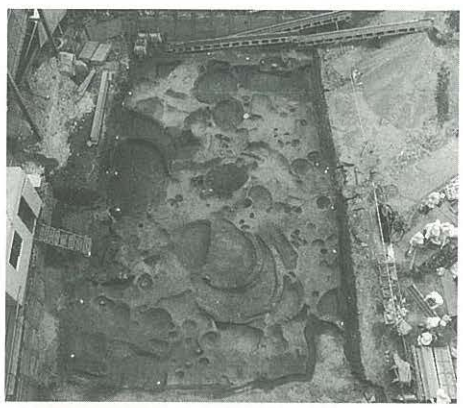
検出遺構　現地表下1.5mまでを重機で剥ぎ取ったのち調査にはいり、１面～４面までの調査を行った。１面は17世紀以降、２面は15～16世紀、３面は11～13世紀、４面は８～９世紀の遺構検出面である。奈良時代の竪穴住居跡・溝・古代末から中世の建物跡・井戸・土壙・溝など、近世以降の製鉄関連遺構を検出した。

出土遺物　遺物は、土師器・輸入陶磁器などがコンテナ75箱、銅銭・刀子などの鉄製品が３箱、石製品１箱分が出土した。とりわけ古代の遺物に注目すべきものがあり、11世紀前半の沈線で花文を描く越州窯青磁が量的にまとまって出土している。また、「門司」刻印を打った平瓦片、山城産の緑釉陶器の出土もあり、古代の公的施設の存在を示すものと言える。

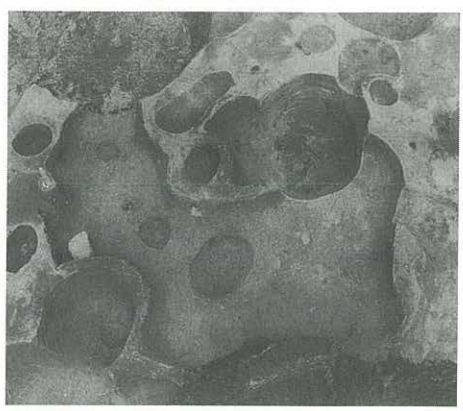
まとめ　本調査区は、上述したように砂丘の西端近くに当るが、急激な地形の転換は認められなかった。一方、奈良時代の住居跡が検出できたことは、早くから砂丘の末端近くまで集落が及んでいたことを示すものと言えよう。また、11世紀後半から12世紀代の遺構の多さ、遺物の多種多量なことは、当時波打ち際近くまで高密度な都市が形成されていた様子を窺せる。



1．調査地点の位置（49－A－1、1：8000）



2．調査区全景



3．奈良時代竪穴住居跡

9206　席田青木遺跡第１次調査（MAK－１）

所 在 地	博多区空港前三～五丁目、青木一～二丁目地内	**調査面積**	5,360㎡
調査原因	空港前土地区画整理	**担 当 者**	下村　智
調査期間	920406～921015	**処　　置**	調査後破壊

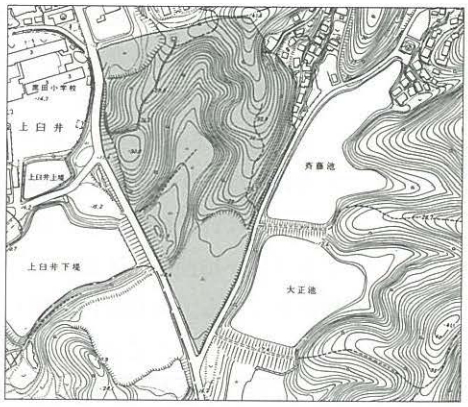
位置・環境　調査地点は、福岡空港東側に位置し、月隈丘陵北端部の標高20～41mを測る丘陵尾根上に立地している。基盤は真砂土及び真砂土が風化して粘土化したものである。遺跡のある尾根はさらに６つの独立丘を形成している。

検出遺構
- 弥生時代中期前半～後期初頭：甕棺墓114基、組合式木棺墓１基、木蓋土壙墓45基
- 古墳時代後期：円墳１基、石蓋土壙墓１基
- 室町時代：中世城１郭、溝５条
- 近世墓：567基、土坑２基、溝数条

出土遺物　遺物は、甕棺を中心にコンテナ367箱分出土。古いものでは単独に黒曜石製ナイフ形石器が１点出土している。弥生時代の墳墓からは、石剣先１点、磨製石鏃１点、管玉１点が出土。古墳からは７世紀を中心とする須恵器の坏身・蓋、高坏、甕、土師器の椀、鉄鏃、馬具などがまとまって出土している。中世のものは、龍泉窯の青磁皿、瓦質土器、土師器などがある。近世墓の副葬品には、和鋏、毛抜、横櫛、煙管、数珠、小柄、六道銭、陶磁器、土師器などがあり、棺材、棺飾、鉄釘なども出土している。

ま と め　弥生時代の墳墓は中期前半の時期から６地点で形成され始める。中期中葉には墓地が統廃合され、厚葬墓が出現する。集団の較差や消長、身分の差が埋葬形態から看て取れる。

また、近世墓は、江戸時代全期を通じて営まれ、長方形墓壙に木棺（右側臥屈葬）、方形に近い長方形墓壙に木棺（仰臥屈葬）、円形墓壙に早桶（座葬）、円形墓壙に甕（座葬）を用いる形態があり、時期的に変遷している。近世の墓制を考える上で興味深い。



１．調査地点の位置（22－Ａ－２、１：8000）

２．Ⅰ～Ⅲ区全景（北から）

３．Ｋ－77号甕棺墓人骨出土状況（西から）

9207　比恵遺跡群第40次調査（HIE－40）

所在地	博多区博多駅南四丁目72外	調査面積	540㎡
調査原因	工場改築	担当者	田中壽夫
調査期間	920413～920624	処置	調査後破壊

位置・環境　比恵遺跡群は、福岡平野のほぼ中央に位置する洪積世台地上に立地する。調査地点は、舌状にのびる小丘陵の東側緩斜面に位置し、標高約６ｍを測る。

検出遺構
出土遺物　弥生時代後期から古墳時代初頭にかかる遺構と遺物を確認した。遺構の遺存状況は悪い。検出した遺構と遺物は以下のとおり。

井戸７基、溝３条、土壙47基、柱穴76、掘立柱建物３棟を検出。

弥生土器、須恵器、陶質土器、土師器、石器（太形蛤刃石斧、柱状片刃石斧、扁平片刃物石斧、石包丁、石鎌、砥石、石錘、紡錘車、磨石、石錘、黒曜石片）、土製品（紡錘車、投弾、取瓶）、木製品（鋤、鍬、槌、板材）がコンテナ180箱分出土。

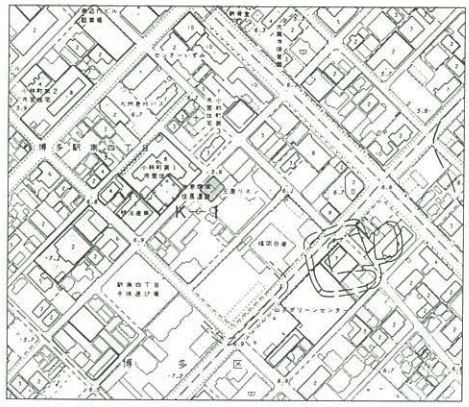
井戸は、弥生時代後期のもので、直径は約１ｍ、深さが１ｍ～1.5ｍの素掘りで、調査区東隅にまとまっている。

溝は、弥生後期（SD01）、古墳時代初頭（SD48）、中世（SD17）のものである。前二者はいずれも直線的に南北に並行し延びている。SD01の断面形は逆台形で、幅約３ｍ、深さ約1.20ｍの規模。集落を囲う溝で、排水と防御的な機能を備えた濠とみることができる。SD48も断面形は逆台形で、幅約３ｍ、深さ約0.5ｍ前後で遺っている。本来はかなり大規模な溝であったと思われる。

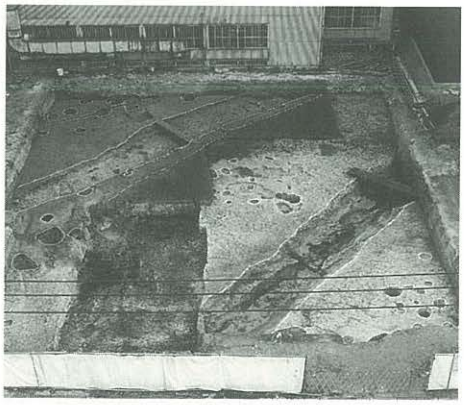
土壙は、平面形が不定形の廃棄用のもの。

掘立柱建物はいずれも１×２間規模のもので、礎板を確認できた。

まとめ　比恵台地北東部における弥生後期から古墳時代初頭の井戸と溝のあり方は、当時の集落の土地利用のあり方を知る上で重要である。



1．調査地点の位置（37－Ａ－１、１：8000）



2．調査区全景（北西から）

3．溝ＳＤ01出土取瓶（弥生時代後期）

9208　東入部遺跡群第４次調査（HGI－４）

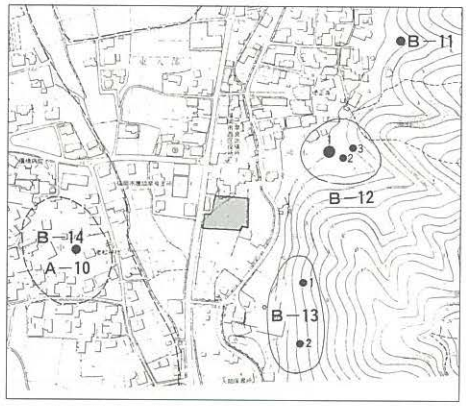
所在地	早良区大字東入部字飛松329－１	調査面積	1319㎡
調査原因	公民館、駐車場建設	担当者	池田祐司
調査期間	920506～920810	処　置	調査後破壊

位置と環境　調査地は早良平野の奥部、荒平山の西側山裾と貞島川に挟まれた傾斜地に位置する。標高は36ｍを測る。現状は畑地であった。

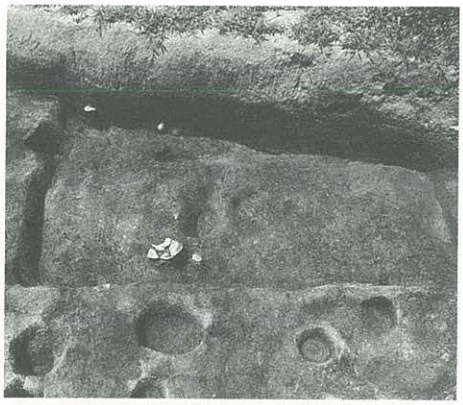
検出遺構　表土下約50㎝の茶褐色土上面、さらに約20㎝下の黄褐色土層上面の２面で遺構を検出した。第１面では調査区の南東から北西に流れる自然流路を挟んで径80㎝～１ｍの規模の掘方を持つ２間×８間以上、２間×２間の総柱等の古代掘立柱立物群が並ぶ。また鉄滓炉壁等を多く含む土坑を７基検出し、そのうち１基は炉の構造を持つ。第２面では弥生時代中期の竪穴住居跡２軒と多数のピット、縄文時代の可能性を持つ土坑を検出した。

出土遺物　本調査地では、コンテナ46箱分の遺物が出土した。縄文時代は押型文土器および晩期前半の土器が出土した。弥生時代では遺構の他からも中期後半の土器、甕棺片等が出土した。少量ではあるが古墳時代の須恵器の坏も出土している。古代の遺物としては、須恵器の甕、坏、長頸壺、土師器の甕、坏などの土器、越州窯系青磁碗、緑釉陶器等が出土した。中世の遺物では白磁碗、龍泉窯系の青磁碗等がある。

まとめ　古代の掘立柱建物群は、主軸が磁北より24度東に振れる。柱穴の掘方、建物の規模から官衙等の施設の可能性が考えられる。試掘時に円面硯が出土しているが、墨書のある遺物は見られない。



1．調査地点の位置（85－Ａ－４、１：8000）


2．弥生時代竪穴住居

3．大型掘立柱建物

9209　次郎丸遺跡群第１次調査（JRM－１）

所在地	早良区次郎丸二丁目563～570外	調査面積	1,955㎡
調査原因	道路建設	担当者	山口譲治
調査期間	920519～920829	処置	調査後破壊

位地・環境　調査地は、室見川中流域東岸の標高10m前後の低位段丘上に位置している。次郎丸遺跡の南部にあたり、調査前は一部盛土されているが大半は水田として使用されていた。

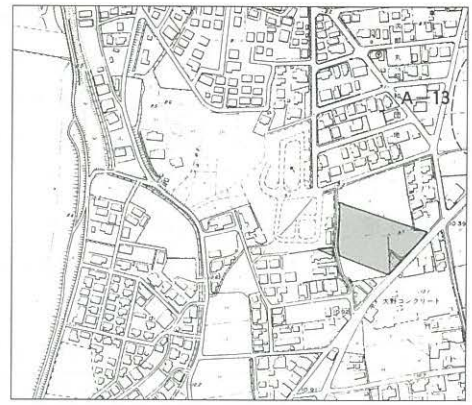
盛土および現代水田耕土を除去した標高9.5m前後の黄褐灰色シルトおよび砂礫層上面で古墳時代から中世の遺構を検出し、これを第１面とした。さらに標高9.2m前後の面で弥生時代初頭の遺構を検出した。

検出遺構
・弥生時代初頭：溝
・古墳時代（５Ｃ前半）：溝
・古代末～中世：掘立柱建物、井戸、土壙、溝、柱穴

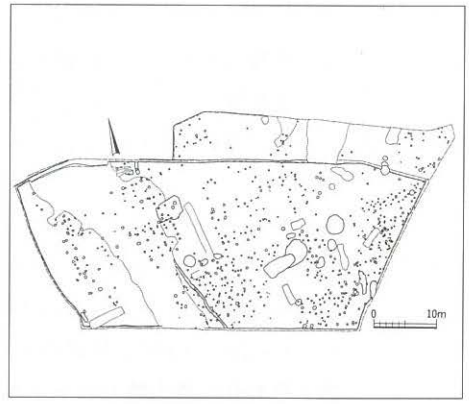
出土遺物　本調査では、コンテナ44箱の遺物が出土した。弥生時代初頭の遺物としては、突帯文土器があり、古墳時代前半期の遺物は、溝から、高坏・坩・甕などの土師器の完形品がまとまって出土した。古代から中世の遺物は土壙・井戸・柱穴から出土し、白磁・青磁などの輸入陶磁器と土師器がある。以上のほか縄文土器・打製石鏃・蛤刃石斧などがある。

まとめ　本調査では、古墳時代前半期と古代末から中世の遺構を検出し、次郎丸遺跡群が南へ拡がることが確認できるとともに、同遺跡群の様相を把握することができた。

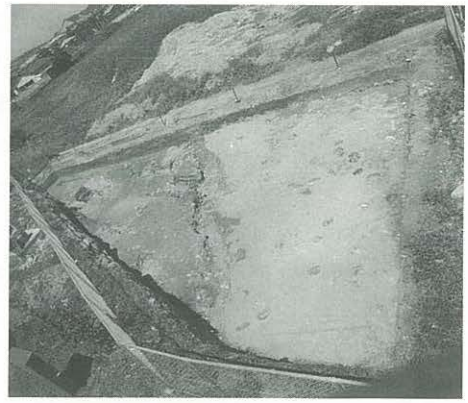
古墳時代前半期の２条の溝は、水田用水と考えられ、用水を切り換えたものといえ、廃棄した溝には祭祀が行われている。古代末になると、井戸・土壙・掘立柱建物群からなる集落が営まれている。



1．調査地点の位置（92－Ａ－１、１：8000）



2．Ｉ調査区遺構配置実測図



3．Ｏ調査区完掘状況

9210　大谷遺跡群第４次調査（OTN－４）

所 在 地	博多区大字東平尾	調査面積	1,437㎡
調査原因	球技場建設	担 当 者	加藤良彦
調査期間	920511～920809	処　　置	調査後破壊

位置・環境　本調査地点は福岡空港の400ｍ東側、南東から北西に延びる月隈丘陵の北端部に近く、標高29～49ｍの小支丘尾根上とこれの西斜面に位置する。銅鐸鋳型を出土した赤穂ノ浦遺跡がこれより150ｍ西に位置する。

検出遺構　・弥生時代：貯蔵穴２、溝６、土壙５、石蓋土壙墓１、甕棺１、掘立柱建物１、地山整形部１

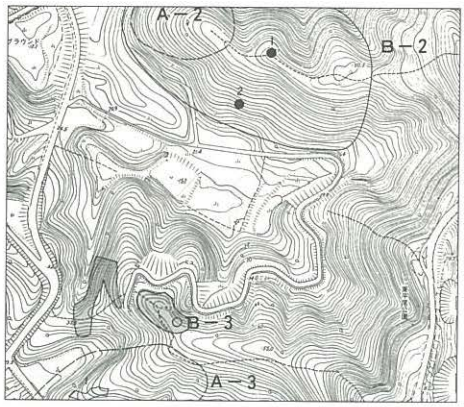
・古墳時代：竪穴系横口式石室墳１、土壙３、溝２、地山整形部１

出土遺物　遺物は各遺構と包含層から弥生中期後半～後期後半を主体とした土器・石包丁・有溝石錘・鉄製刀子・鉄斧・鉄鎌・石製銅戈鋳型模造品等総量でコンテナ17箱分出土した。

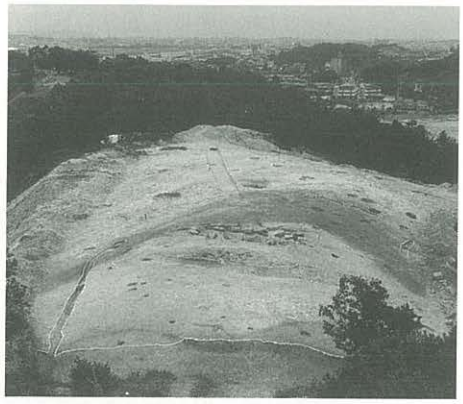
まとめ　今回の調査では弥生時代の住居址は検出されていないが、南面する緩斜面部分に地山整形部があり、ここから東側の１～３次調査区にかけて住居群が広がると思われる。

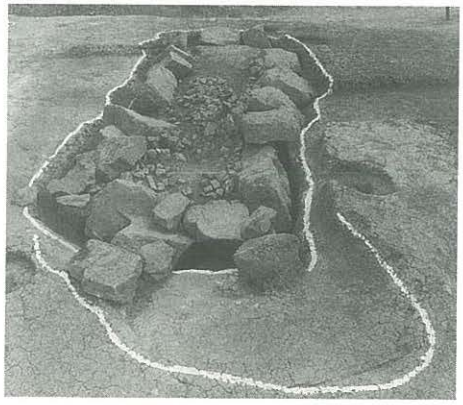
丘尾切断の幅３ｍの溝は大型の１×１間（2.9×3.2m）の掘立柱建物を他と区画する溝と思われ、焼土壙とのセットで物見的な空間として居住区と別個に区画されている。

包含層中から検出された銅戈鋳型模造品は8.2×7.5×4.1㎝を測る方柱状の白色軟質な転礫の平坦面に銅戈を、右側面に銅鏃を線刻しており、上半を欠くが鋳型を模したものとおもわれる。中期末～後期後半の土器を多く検出する包含層中の土器集中部から検出されており、同期の祭祀的遺物の様相が強い。



１．調査地点の位置（９－Ｂ－３、１：8000）


２．１区全景（南から）


３．１号墳石室（東から）

9211　比恵遺跡群第41次調査（HIE－41）

所在地	博多区博多駅南六丁目34－2	調査面積	633㎡
調査原因	ビル建設	担当者	山崎龍雄
調査期間	920506～920811	処置	調査後破壊

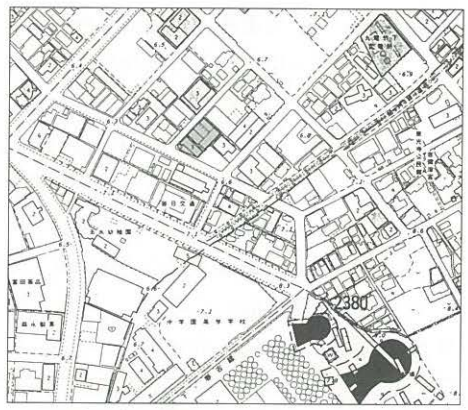
位置・環境　本調査区は、南東から北西に細長く延びる比恵遺跡群の南西側斜面上に立地し、標高は現地表面で約６ｍを測る。遺構面迄の深さは１ｍ以上と深く、堆積土は上から盛土、旧水田土、遺構面となる。地形は東側がやや高く西側に緩やかに傾斜している。西側斜面上には薄い包含層が堆積していた。

検出遺構
・弥生時代後期：井戸１基、掘立柱建物１間×１間２棟、水路１条、土坑、ピット
・古墳時代～奈良時代：溝状遺構７条、土坑、ピット
・奈良時代：井戸２基

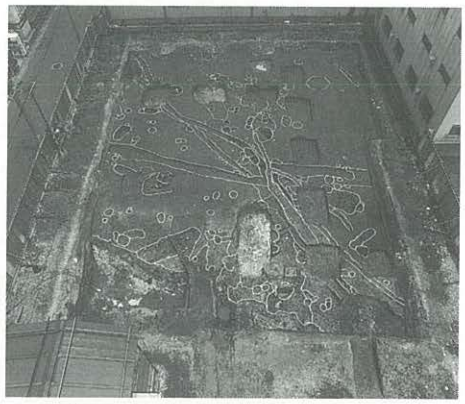
弥生時代の水路は、調査区西側で検出した台地周縁を巡るもので、幅４～５ｍ、深さは1.5ｍを測る。この水路の西側は一段低くなり、水田部となる。時期的には弥生時代後期初め頃である。

出土遺物　水路や包含層を中心に弥生時代から奈良時代にかけての各時代の遺物が出土している。総量はコンテナで64箱を数える。水路や井戸からは祭祀遺物や木器類も出土している。なお、特筆すべきものとして、弥生時代の井戸から刷毛目原体と思われる木製品が出土している。

まとめ　今回の調査によって、比恵遺跡群も板付遺跡と同じように、台地の周縁に水路が巡り、更に、その外側に水田が展開する状況で在ることが確認できた。また、１間×１間の建物は高床の倉庫と考える。



1．調査地点の位置（37－Ａ－１、１：8000）


2．調査区全景（西から）

3．調査区全景（南から）

9212　長尾遺跡群第１次調査（NGO－１）

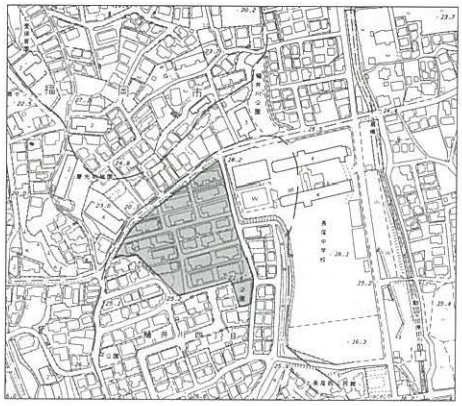
所 在 地	福岡市城南区樋井川四丁目323－３外	**調査面積**	797㎡
調査原因	市営住宅建て替え	**担 当 者**	小林義彦
調査期間	920515～920711	**処　　置**	調査後破壊

位置・環境　長尾遺跡は、福岡平野西縁を北流する樋井川右岸にのびる低丘陵上にある。油山から派生して宝台・小笹へとのびるこの低丘陵上には、弥生時代中期の標識的な集落・墳墓遺跡として著名な宝台遺跡や後期の墳墓遺跡である小笹遺跡、丸尾台遺跡等が立地している。長尾遺跡は、宝台遺跡の北に連なる低丘陵の東側斜面上にある。

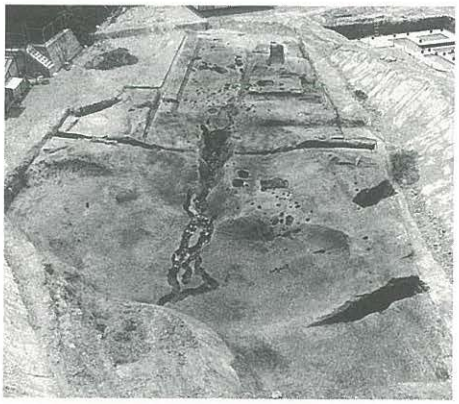
検出遺構　遺跡は、市営住宅の建設によってほとんど削平されていたが、東に開く谷とそれに面した緩斜面上で弥生時代中期～古墳時代初めの土壙５基と焼土壙１基のほかに多数の柱穴を検出した。この東にむかって開口する谷には、トンネル状の地下水路が幾筋も注ぎ込み、谷底には弥生時代中期後半を主体とする壺・甕・器台等が一括して投棄されていた。土壙は楕円形から方形の平面プランをなす。

出土遺物　遺物は、壺等の弥生式土器（コンテナ57箱）、土師器（コンテナ３箱）、須恵器（コンテナ１箱）のほか石斧・石包丁・石剣・石戈（コンテナ２箱）等の石器類など多くの遺物が出土している。

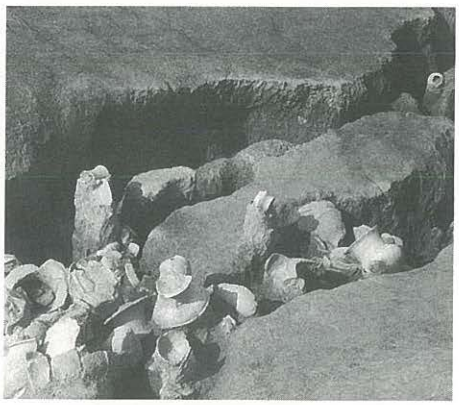
ま と め　今回の調査では、弥生時代中期～古墳時代にかけての集落跡の一部を検出した。谷の遺物中に大型甕片があり、集落の周辺域に甕棺墓等の墳墓域が拡がっていたことも考えられる。また、緩斜面上にある土壙状の窪みからは細いトンネル状の通路が、屈曲しながら幾筋も谷に注ぎ込んでいた。この窪みや谷底からは壺・甕・器台等の完形遺物が一括投棄された状態で出土している。これは自然に堆積したの状況とは明らかに異なり、湧水に伴う何らかの人為的行為と考えられなくもなく、集落と水利を考える上で貴重な資料である。



１．調査地点の位置（63－Ａ－１、１：8000）



２．調査区全景（東から）



３．谷の遺物出土状況（北から）

9213　クエゾノ遺跡（KEZ－1）

所在地	早良区梅林七丁目149－9他	調査面積	3,600㎡
調査原因	民間宅地造成	担当者	常松幹雄
調査期間	920518～921228	処置	調査後破壊

位置・環境　クエゾノ遺跡は油山から派生する標高35mから40mの低丘陵上と東側を流れる油山川の解析によって形成された段丘上に位置する。

検出遺構　古墳5基

出土遺物　石室のみ2基

1号墳

標高41mの舌状台地の先端に位置。墳丘は長軸21.5m以上、短軸15mの長楕円形。埋葬主体2基。付属埋葬施設、石棺2基、壺棺1基。本来前方後円墳であった可能性がある。

第一主体部、全長2.8m、幅約0.5mの割竹形木棺で、上部に厚さ約2㎝の板石をおく構造。頭位は北。副葬遺物は盗掘のため無し。

第二主体部、組合せ式の箱式石棺。人骨の残りは良好。被葬者、年齢30歳代の女性、身長は約145.5㎝、経産婦の可能性が強い。棺内にはベンガラ、顔面には水銀朱を塗布。頸付近には、匂玉1、菅玉20を配す。1号墳の南側では、朝鮮半島系の陶質土器の大甕やベンガラ入りの土師器が出土。時期5世紀前半。

2～4号墳

2号墳は、径8.3mの円墳。墳丘を失い周濠と石室の一部を留めるのみ。須恵器の坏身、鉄鋤が出土。時期5世紀後半。

3号墳は、石室の一部を留めるのみ。須恵器の破片のみ。時期5世紀後半。

4号墳は、長軸3m、幅0.7mの狭長な石室プランを呈する。須恵器の甕、坏身、鉄鎌を副葬する。

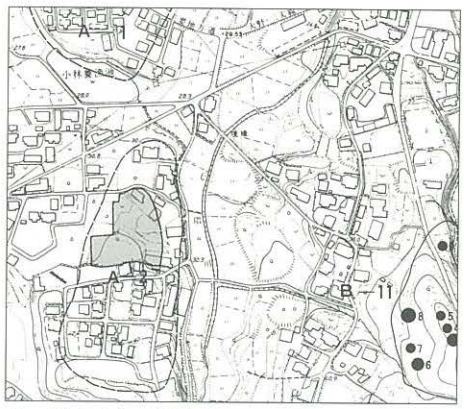
5号墳

径7.5mの円墳。石室は、長軸2.5m、内幅1.1～1.3mで平面形が羽子板状をした横穴式石室。

副葬遺物

須恵器・土師器30点、ガラス玉15個、鍛冶道具、鎚・鉗・鉄斧3点・剣1口・飾り弓金具2個・刀子・鉄鏃。

まとめ　1号墳の被葬者は、前方後円墳を意識しながらも定型の前方後円墳造営に至らなかった階層を示唆する。5号墳の被葬者は、鉄器生産に深くかかわった人物と思われる。



1．調査地点の位置（75－A－2、1：8000）

2．調査区全景

3．5号墳主体部（奥壁から）

9214　大原D遺跡第2次調査（OBD－2）

所在地	西区今津字小浦外	調査面積	15,000㎡
調査原因	新西部埋立場建設	担当者	松村道博・加藤良彦
調査期間	920428～930331	処置	調査後破壊

位置・環境　本調査地は糸島半島の東部、博多湾に面した標高255mの柑子岳から東に派生する舌状丘陵上及び谷部の扇状地上に立地する。標高50～5m、現況は山林と水田である。

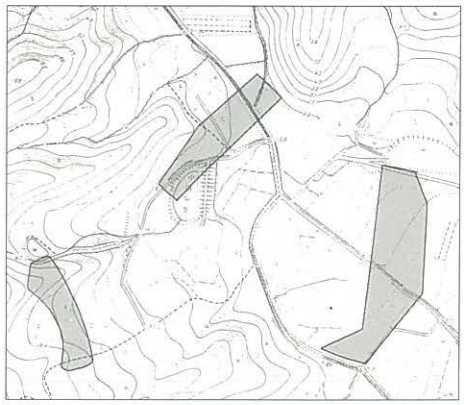
検出遺構　丘陵部では律令期の焼土壙及び溝・鉄滓集積が検出され、包含層から多量の鉄滓・炉壁が検出されており、周辺で製鉄遺構の存在が予見される。

谷部扇状地上では縄文晩期前半の自然流路を主体に土壙・埋甕と多数の柱穴が検出され、他に古墳時代～律令期の流路・溝・土壙等を検出している。

出土遺物　遺物は縄文早期の石鏃・石槍、中期阿高式土器～晩期夜臼式土器・石器、弥生～律令期の土器・輸入陶磁器・鉄滓を検出している。総量でコンテナ500箱程出土しており、300箱強の鉄滓を除いた遺物の大部分は縄文晩期黒川式の遺物が占めている。

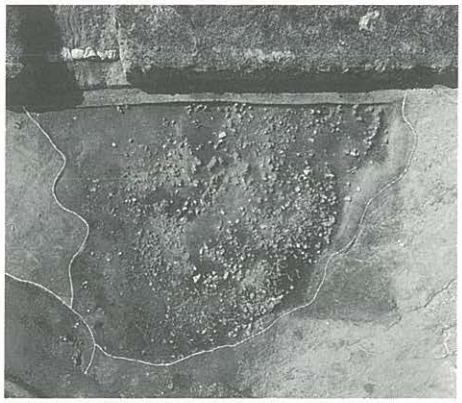
まとめ　丘陵部は花崗岩とそのバイラン土からなっており、雨水によって多量の浜砂鉄が砂浜が黒くなる程産出され、これを用いて製鉄がなされている。

扇状地上は十数年前の圃場整備で深く削平されており、中央部に多数残る柱穴群は竪穴住居群の残存と考えられ、流路内の多量の土器の量からして、大規模な縄文晩期集落が展開していたと予想される。



1．調査地点の位置（128－B－1、1：8000）

2．6－1区全景（東から）



3．6－1区縄文土器溜まり（東から）

9215　脇山遺跡群第７次調査（WKA－７、KRB－１）

所在地	早良区大字脇山地内	調査面積	7,900㎡
調査原因	圃場整備	担当者	榎本義嗣・屋山　洋
調査期間	920413～921016	処　置	調査後破壊

位置・環境　早良平野の最奥部に位置する脇山地区の本年度圃場整備に伴う調査対象地は脇山Ａ遺跡群および栗尾Ｂ遺跡が該当した。背振山北麓扇状地上の扇央部から扇端部にかけて立地し、標高は約75～80ｍを測る。現況は水田。周辺では６次にわたる調査が行われており、縄文時代および中世の遺構・遺物が確認されている。

検出遺構　**脇山Ａ遺跡群（第７次）**

中世の掘立柱建物、土坑、溝、焼土坑、柱穴、旧河川を検出した。抽出した掘立柱建物は12棟で、側柱建物を中心とするが、総柱建物を２棟含む。柱穴からの出土遺物は少量であったが、覆土等から大きく２時期に分類が可能である。

栗尾Ｂ遺跡（第１次）

縄文時代早期の包含層、晩期の土坑および中世の溝、焼土坑、柱穴を検出した。

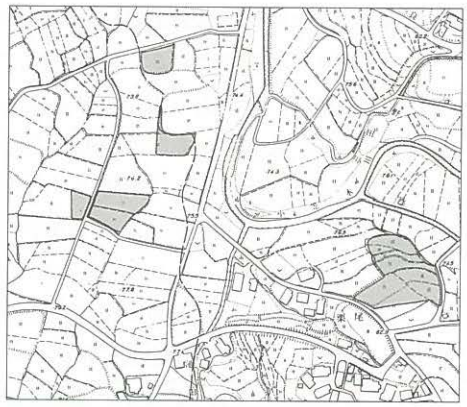
出土遺物　**脇山Ａ遺跡群**

土師器、国産陶器、輸入陶磁器、石製品、金属製品等が出土した。また、縄文時代の石鏃を数点採集した。総量はコンテナ15箱。

栗尾Ｂ遺跡

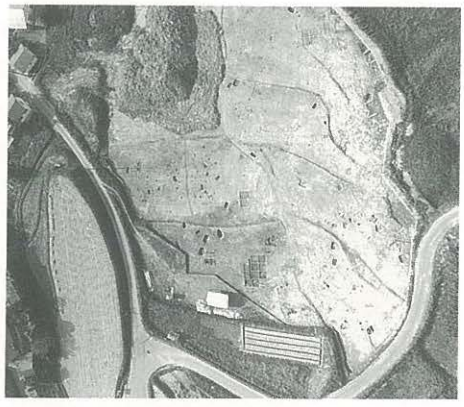
縄文時代の包含層より楕円押型文土器、また土坑から少量ながら粗製の深鉢片が出土した。中世の遺物は土師器、輸入陶磁器が少量出土したにとどまる。総量でコンテナ３箱。

まとめ　脇山Ａ遺跡では４・５・６次に引き続き比較的まとまった集落を確認できた。現在のところ最も後出する時期のもので、該地に残る文書との対比をふまえ、集落構造の変遷を考察する上で貴重である。



１．調査地点の位置（10－Ａ－２、１：8000）

２．脇山Ａ遺跡群Ｃ－２区全景（上空から）



３．栗尾Ｂ遺跡群調査区全景（上空から）

9216　東入部遺跡群第３次調査（HGI－３）

所 在 地　早良区大字東入部地内　　**調査面積**　13,832㎡
調査原因　県営圃場整備事業　　**担 当 者**　濱石哲也・長家　伸・屋山　洋
調査期間　920420～930131　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査は県営入部地区圃場整備事業に伴う第６次調査である。対象遺跡は早良平野の南端部、荒平山の西に広がる標高32.0m～32.6mの低丘陵および沖積地に立地する。

検出遺構　縄文時代から江戸時代に至る複合遺跡である。今回の調査では、古墳時代と古代～中世に遺構のまとまりがみられた。

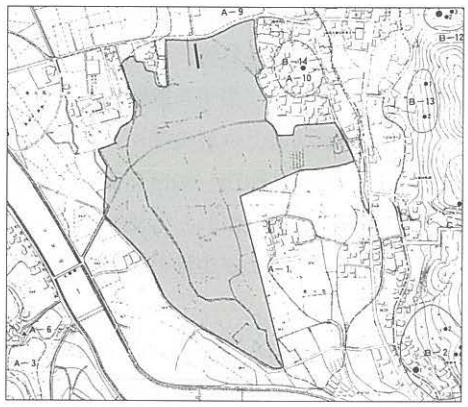
古墳時代は後期の竪穴住居、掘立柱建物からなる集落を３地点で確認した。竪穴住居からは須恵器、土師器がまとまって出土した。

古代～中世は掘立柱建物を主とした集落を６地点で確認した。建物は２×３間の身舎構造が多く、総柱のものもあった。他にこの時期のものとして製鉄跡、土壙墓（輸入陶磁器などを副葬）、溝などがある。

縄文時代は包含層だけ、また弥生時代は１基の甕棺墓を除いて明確な遺構は検出できなかった。

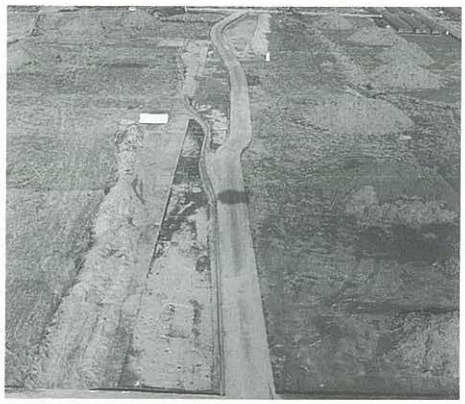
出土遺物　縄文時代から鎌倉時代に及ぶ各種遺物、パンケース115箱。

まとめ　今回の調査は、東入部遺跡群の南側部分に相当する。昨年度の中央部分において密度の濃かった弥生時代の墓地・集落は皆無に近い。古墳時代後期の集落はこの遺跡群でははじめての検出となった。また古代～中世の集落は大小規模に差はあるものの、遺跡群のほぼ全域に広がることが判明した。



１．調査地点の位置（85－Ａ－８、１：16000）

２．42区古代集落


３．35区・36区古墳時代後期集落

9217　那珂遺跡群第36次調査（NAK－36）

所在地	博多区東光寺一丁目332外	調査面積	154㎡
調査原因	事務所建設	担当者	荒牧宏行・横山邦継
調査期間	920608～920610	処置	調査後破壊

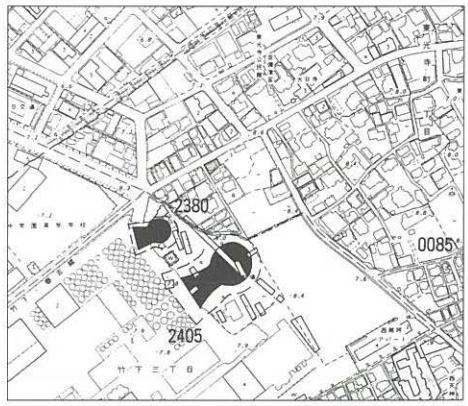
位置・環境　本調査地点は、那珂丘陵の北東部にあたり、標高7.5m前後をはかる。西南方向約100mには中期古墳として著名な『東光寺剣塚古墳』があり、これまでの調査でも弥生時代中期～後期の濃厚な住居跡や墓地などの生活遺構が検出されている。

遺構は、表土及び包含層を含む40～60cmの堆積土を除去した鳥栖ローム上で検出されたが、既設建物の基礎などによる削平が著しい。

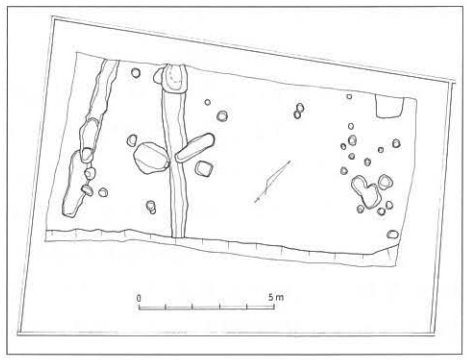
検出遺構
・弥生時代後期：土壙1基
・古墳時代後期：土壙1基
・戦国時代　　：大溝1基
・時期不詳　　：柱穴

出土遺物　遺物は、小量である。弥生中期～後期土器、古墳時代後期須恵器、瓦器などでコンテナ2箱出土。

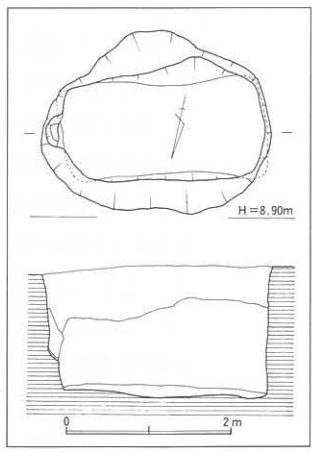
まとめ　本地点で特徴的な遺構は、戦国期の東西に走る大溝である。当該期の土豪の居館にともなう施設と考えられ、周辺に残る『堀ノ内』の字名の拡がりなどから規模はかなり大きいものになると考えられる。



1．調査地点の位置（37－A－3、1：8000）



2．調査区全体区



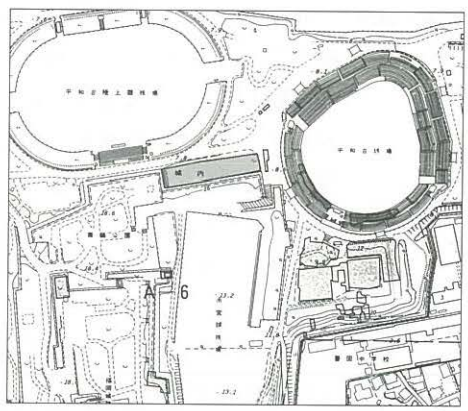
3．出土土壙実測図

9218　鴻臚館跡第８次調査（KRE－８）

所 在 地	中央区城内	調査面積	1,670㎡
調査原因	確認調査	担 当 者	瀧本正志
調査期間	920615～921030	処　　置	調査後埋め戻し

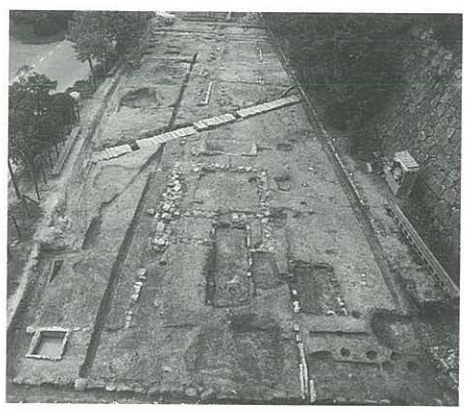
位置・環境　鴻臚館跡（筑紫館跡）は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の先端部、博多湾を望む高台の地にある。この地には、筑前国黒田家の居城となった福岡城も築かれている。戦前の城内には旧陸軍駐屯地施設が、調査地には炊事関係の建物が設けられていたようである。

調査地は、福岡城三ノ丸、平和台野球場の西方100mに位置し、西、南は二ノ丸の石垣に接する。現況地は、標高8.1mを測り、更地であった。



1．調査地点の位置（60－Ｅ－１、１：8000）

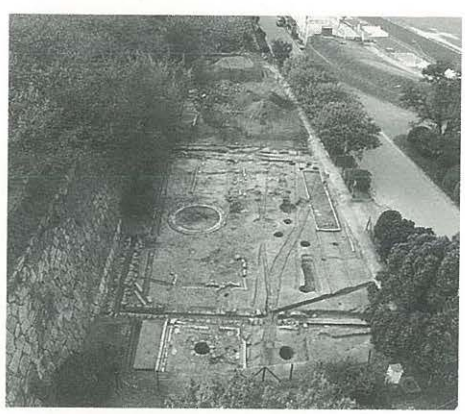
検出遺構　遺構は、近年に行われた盛土（厚さ0.6m）下の地山（標高7.5m）において検出した。調査地の大半は、陸軍の駐屯地施設の建物跡、排水溝が占め、鴻臚館跡に直接関係する遺構は認められなかった。しかし、時期は特定できないが、調査地の東辺部においては、谷部を埋め立てた造成地業が認められる。


2．調査区西半部全景（西から）

出土遺物　近世の瓦類がコンテナに50箱出土している。

まとめ　今回の調査では、1988年から平和台野球場南側において行われた調査で、その所在が確認された鴻臚館跡（筑紫館跡）の範囲確認を目的として実施したが、地内においては遺構の存在を確認することはできなかった。

1987～92年の調査では長方形に区画する奈良時代の堀が確認された。堀の掘方底面高は7.3m～7.4mを測り、造営時の掘方の深さは1.8m～2.0mであることが推定される。以上のことから、奈良時代の生活面高は9.1m～9.4mの範囲であると考えられ、平安時代の礎石建物基壇高が9.1m～9.2mであることから、今調査地における遺構のあり方は、後世の削平による消滅を示すものと思われる。


3．調査区東半部全景（東から）

9219　能古島遺跡調査（NOO－1）

所在地	西区能古地内	調査面積	600㎡
調査原因	事前総合調査	担当者	菅波正人
調査期間	920401～930331	処　置	調査後埋め戻し

位置・環境　調査地点の能古島は博多湾に浮かぶ、南北3.5km、東西2kmのナスビ形の島である。面積約4㎢、最高点195mをはかる。

検出遺構　今回の調査は近い将来の大規模な開発に備えて、島内の遺跡の所在、範囲、性格を把握することを目的として行った。

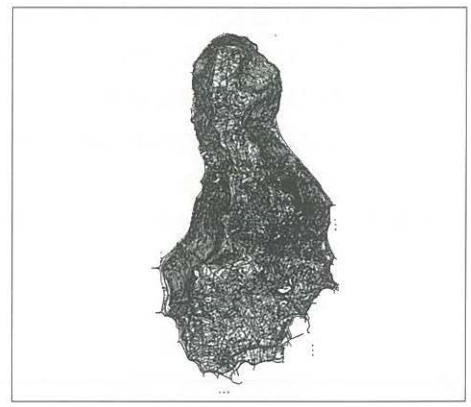
調査はまず、全島を踏査し、遺跡の分布を確認し、その成果をもとに遺跡の内容を把握するために試掘調査を行った。概略は以下の通りである。

島の北側では頂上部分で、縄文時代～古代の遺物を採取した。島の北側にある也良岬は万葉集に登場し、防人の存在が推定されている場所である。今回の調査では烽跡推定地に試掘トレンチを設定したが、遺構は検出できなかった。また、平安時代の牧に関連する遺構として「牛の水」と呼ばれる池の調査を行った。池は谷を堰き止めたもので、造営の時期は確定できなかったが、古代にさかのぼる可能性は高い。

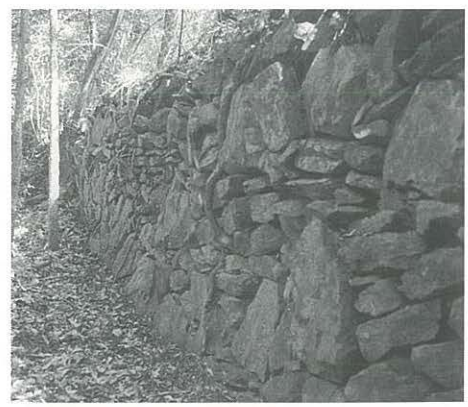
島の西側では早田古墳群の調査を行った。現在、ここには2基の古墳が残存する。島に残る数少ない古墳で、6～7世紀に築造されたものと判明した。

島の東側から南側の緩斜面では縄文時代から近世の遺物を数多く採取した。この部分は現在の集落の中心地でもある。量的には中世期の遺物が多く、当該期の生活遺構、墓などの存在が予想される。

まとめ　今回の調査は遺跡の範囲、性格などを把握することを目的に行ったが、まだ、不十分な点が多い。今後、継続的な調査が必要であろう。なお、調査の詳細は既刊の報告書を参照していただきたい。



1．調査地点の位置（99他、1：80000）



2．鹿垣

3．永福寺箱式石棺墓

9220　大原Ａ遺跡第１次調査（OHA－１）

所 在 地	西区今津字柳の浦外	調査面積	3,600㎡
調査原因	圃場整備・埋め立て場搬入道路	担 当 者	長家　伸
調査期間	920625～921031	処　　置	調査後破壊

位置・環境　柑子岳より派生し、東西に舌状に伸びる丘陵上に立地する。標高12m～18mを測る。調査は丘陵の南側緩斜面を中心に行った。周辺ではこれまでに小葎遺跡・大原Ｄ遺跡の調査が行われている。

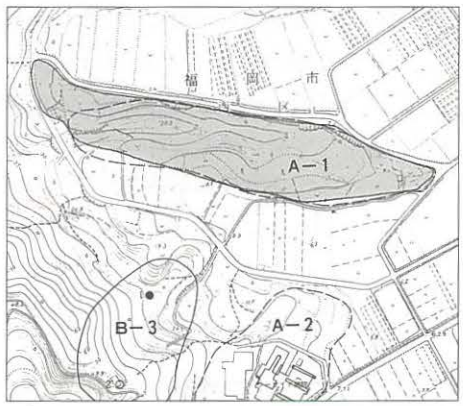
検出遺構　弥生時代～中世にかけての遺構・遺物を検出した。

丘陵の東端部では弥生時代中期に属する円形竪穴住居跡１棟を検出した。また南斜面からは弥生時代の土壙・ピット・包含層、８～９世紀の製鉄炉３基・鍛冶炉１基・掘立柱建物、中世の掘立柱建物・土壙等の各時期の生活遺構と生産遺構が存在する。

製鉄炉は長方形の箱型炉と考えられ、斜面に平行に構築され両サイドに略円形の排滓壙を持つもので平面形は鉄アレイ形を呈している。炉壁等はほとんど残っていないが炉床部の残りは良く、規模・構築方法が観察できた。鍛冶炉は径60㎝程の円形のくぼみに粘土を張り付けて造ったものである。排滓壙を伴っており、鍛冶滓・鍛造剥片等が出土した。

出土遺物　出土遺物は、谷部から出土した鉄滓も含めてコンテナ120箱である。

ま と め　糸島半島沿岸部は良好な砂鉄の産出地として知られており、これを利用しての鉄生産が盛んに行われていたことがうかがわれる。同様の製鉄遺構が小葎・大原Ｄ遺跡でも確認されており、柑子岳から派生する丘陵に広く製鉄関連の遺構が分布していることが考えられる。



1．調査地点の位置（128－Ａ－１、１：8000）

2．調査区全景（東から）

3．製鉄炉検出状況

9221　比恵遺跡群第42次調査（HIE－42）

所在地	博多区博多駅南四丁目６－23	調査面積	756㎡
調査原因	工場改築	担当者	田中壽夫
調査期間	920706～921113	処置	調査後破壊

位置・環境　比恵遺跡群は、福岡平野のほぼ中央に位置する洪積世台地上に立地する。調査地点は舌状にのびる小丘陵の尾根筋に近い東側緩斜面に位置し、標高約６ｍを測る。

検出遺構
出土遺物　弥生時代後期から古墳時代後期、近世にかかる遺構と遺物を確認した。遺構の遺存状況は比較的良好である。検出した遺構と遺物は以下のとおり。

井戸19基、竪穴住居跡13基、柱穴554、掘立柱建物15棟以上、溝３条、土壙37基、方形周溝墓？１基。

弥生土器、須恵器、土師器、石器（ナイフ形石器、太形蛤刃石斧、柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁、砥石、石錘、紡錘車、磨石、石鏃、黒曜石片など）、土製品（紡錘車、投弾、取瓶など）、石製品（広形銅矛鋳型）、木製品（槌、板材）がコンテナ150箱分出土。

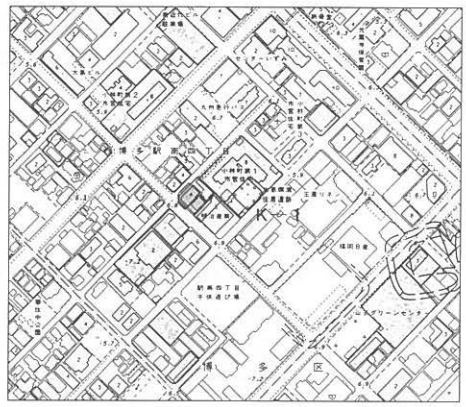
井戸は、弥生時代後期前半から古墳時代初頭のものがある。規模は、直径が80㎝前後で、深さが約１ｍのものと、直径が１ｍを超し、深さが２～2.5mの大型のものとがある。埋め戻す際に大量の土器を投棄しているものと、まったく遺物を含んでいないものがある。

竪穴住居跡は、弥生時代中期末から後期のものと古墳時代前期および後期のものがある。

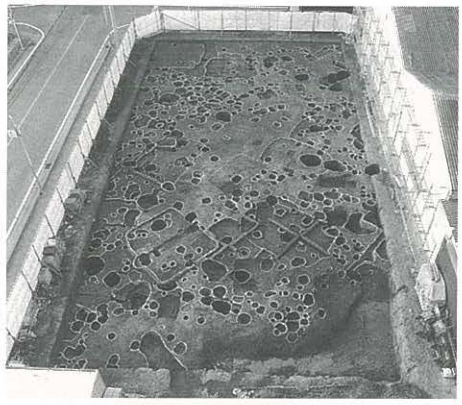
溝は江戸時代の灌漑用溝と、弥生時代後期の溝が検出されている。

掘立柱建物は、古墳時代のもので、１×２間、２×２間、２×３間の規模のもの。

まとめ　今回の調査では、比恵遺跡群中央部の東側周辺における弥生時代から古墳時代の集落構成の一部を知ることができた。広形銅矛石製鋳型は特筆すべき出土品である。



1．調査地点の位置（37－Ａ－1、１：8000）


2．調査区全景（南東から）

3．広形銅矛鋳型（弥生時代後期）

9222　博多遺跡群第78次調査（HKT－78）

所在地	博多区古門戸町28・29	調査面積	227㎡
調査原因	ビル建設	担当者	大庭康時
調査期間	920713～921002	処　置	調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多遺跡群の基盤となる２列の砂丘のうち、海側砂丘（「息濱」）の西端近くに位置する。

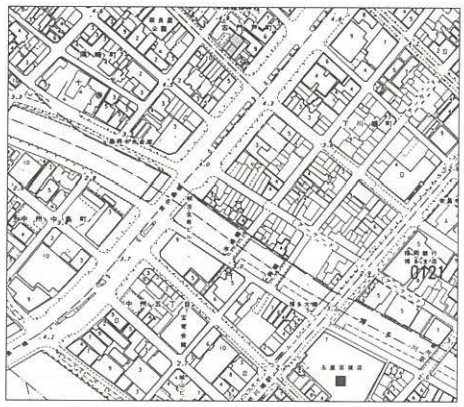
検出遺構　現地表下1.5mまでを重機で剥ぎ取ったのち調査にはいり、０面～３面までの調査を行った。０面は17世紀以降、１面は16世紀、２面は14・15世紀、３面は12・13世紀の遺構検出面である。建物跡・土壙・井戸・土葬墓・道路面などを検出した。

出土遺物　出土遺物は、土師器・国産陶器・輸入陶磁器などがコンテナ77箱、石製品・金属製品が１箱、人骨６体が出土した。

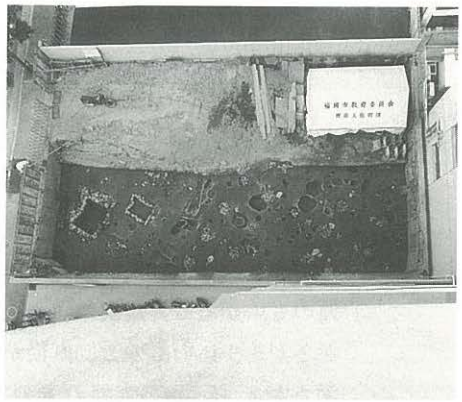
まとめ　０面で検出された道路面は、近世町割りにかかるものである。

１面では、礎石建物・方形石積土壙・瓦溜などを調査した。礎石建物は少なくとも３回立て替えられており、規模が推定できたもので、梁間三間桁行四間以上となる。柱筋は、東西・南北をさす。方形石積土壙は建物と方向を揃えて、その西側から検出されたもので、大小２基が並んでいた。大型のものは、地下貯蔵庫と考えられる。一時期の建物構成を示すものとして貴重であると共に、16世紀代の息濱西部における町割りが東西南北を指していたことを示すものとして重要である。

遺物では、楠葉型瓦器・和泉型瓦器の出土が目立つ。また、14世紀の土壙からパスパ文字の印面をつけた銅製の指輪が出土した。蒙古商人が用いたものと考えられる。



1．調査地点の位置（49－A－1、1：8000）



2．Ⅰ区１面（南東から）

3．方形石積土壙

9223　藤崎遺跡群第22次調査（FUA－22）

所在地	福岡市早良区藤崎一丁目6	調査面積	178㎡
調査原因	ビル建設	担当者	小林義彦
調査期間	920713～920831	処　置	調査後破壊

位置・環境　藤崎遺跡は、博多湾西部の藤崎～高取～百道にかけて形成された標高5～6ｍの古砂丘上にあり、弥生時代から古墳時代初めの甕棺墓や箱式石棺墓・方形周溝墓等が濃密に分布している。第22次調査区は、この藤崎遺跡のほぼ中央部に位置し、国道202号線を挟んだ第3次調査区（藤崎バスターミナル）では、三角縁神獣鏡を副葬した方形周溝墓が発見されている。また、東隣の第7次調査区でも甕棺墓等が検出されている。

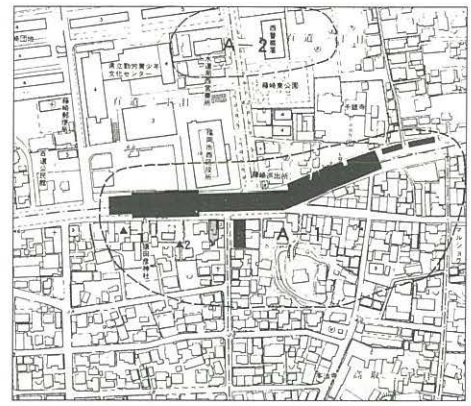
検出遺構　調査の結果、現地表下60㎝で中世～近世の1面目の遺構面を検出した。更にその下層からは20～40㎝の遺物包含層を挟んで弥生時代の2面目の遺構面を検出した。

第1面：土壙4基、溝1条、石組遺構1基
第2面：甕棺墓17基、土壙墓1基、
　　土壙2基、方形周溝墓（？）1基

甕棺墓は、成人墓4墓と小児墓13基からなり、終末期の小児墓1基を除いてはいずれも中期後半のものである。このうち217号甕棺墓の墓壙内には、丹塗りの筒型器台上半部が供献されていた。また、中央部には幅1.5～3ｍの溝が5ｍの間隔をおいて並行してあり、方形周溝墓と考えられる。埋葬主体部は、撹乱を受けて消失していた。

出土遺物　遺物は、甕棺を主とする弥生式土器（コンテナケース30箱）のほか、土師器・須恵器（コンテナケース2箱）、中～近世陶器（コンテナケース4箱）が出土した。また、3基の甕棺墓内には人骨が遺存していた。

まとめ　調査では、中～近世と弥生～古墳時代初めの2面の遺構面を検出した。これらは藤崎遺跡の調査データを追補する貴重なものである。殊に甕棺墓や方形周溝墓は、弥生時代から古墳時代へと続く墳墓の構成と墓域の変遷を考える上で重要であり、藤崎遺跡解明の一助となるものである。



1．調査地点の位置（81－A－1、1：8000）

2．調査区北側第2面全景（東から）

3．ST－217（南から）

9224　那珂遺跡群第37次調査（NAK－37）

所在地	博多区那珂六丁目314	調査面積	1,215㎡
調査原因	倉庫兼工場建設	担当者	吉留秀敏
調査期間	19920720～19920905	処置	盛土保存

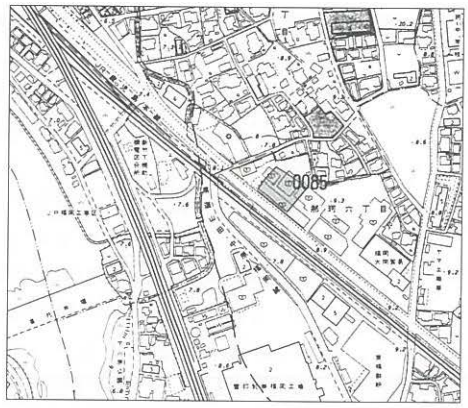
位置・環境　調査地点は那珂台地の南西端部に位置し、周辺にはJR鉄道、道路、工場、倉庫などが集中している。標高は約９ｍである。基盤は洪積世火山灰であり、調査以前に相当の削平が行われている。

検出遺構　遺構は溝２条、掘立柱建物１棟、土壙１基、柱穴50数基などである。溝は夜臼式期、他は弥生時代中期後半である。２条の溝はおおよそ東西方向に約５ｍ離れてほぼ並行し、南側を中心とする同心の緩い弧状をなしている。北側の溝は幅４～５ｍ、深さ約２ｍを測る断面Ｖ字形溝であり、南側の溝は幅約２ｍ、深さ約１ｍを測る断面逆台形溝である。

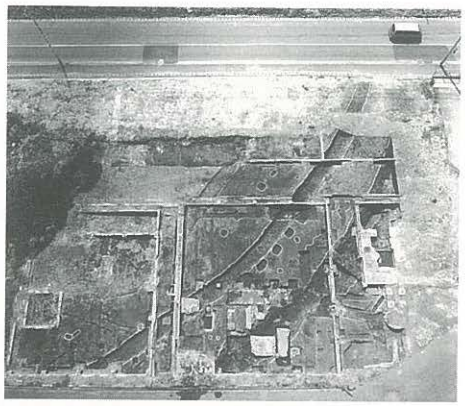
掘立柱建物は１×４間の大型建物である。桁行960㎝、梁行530㎝、桁行きの柱間は150㎝前後と推定される。

出土遺物　遺物は主に溝内や柱穴内から出土し、コンテナ30箱を数える。溝の床面～下部から夜臼式土器類、石器類、土製品などがある。溝の上部や柱穴からは須玖式土器類、石器類が出土した。また、少量であるが撹乱中から須恵器片が出土した。

まとめ　検出した２条の溝は台地上に掘削された環濠の一部と見られる。福岡平野内において最古段階の環濠といえる。その規模は、あえて復元するなら外径150m前後の二重環濠遺構と推定される。中期の大型建物は内濠を一部切り、濠と並行して設けられている。外濠の上部にこの建物と同時期遺物が多く出土していることから、外濠が中位まで埋没した段階にこの建物を始め、再び集落が形成されたものと見られる。



１．調査地点の位置（38－Ａ－3、１：8000）



２．全景（東から）

３．外濠調査風景（西から）

9225　那珂遺跡群第38次調査（NAK－38）

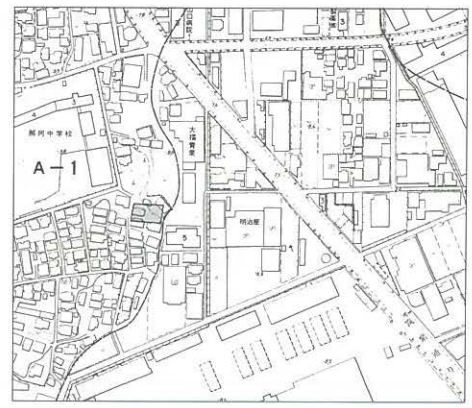
所在地	博多区那珂六丁目80－1	調査面積	566.5㎡
調査原因	共同住宅	担当者	宮井善朗
調査期間	920720～920908	処置	調査後破壊

位置・環境　調査地点は那珂遺跡群の南東端に近く、東側は小規模な崖面を成して沖積地に接する。表土を重機で除去したのち、赤褐色の鳥栖ローム上で弥生時代から古墳時代を中心とした遺構を検出した。

検出遺構　弥生時代の遺構としては甕棺墓、土壙墓、土壙等がある。甕棺墓は総計で16基を数える。内大形棺は13基、小型棺は３基である。小型棺３基のうち２基は極めて遺存が悪く、更に多くの甕棺墓が削平によって失われている可能性が高い。甕棺墓の時期は中期中ごろから後半に及ぶ。列埋葬、ないしは区画などは認められない。副葬品を持つものもない。近接した時期で切り合う例が多いのが注目される。土壙墓は、二基検出された。長方形を呈する二段掘りのものである。遺物が無く時期不明であるが甕棺墓と接近しており、同時期の可能性が高い。古墳時代の遺構としては、竪穴式住居跡６基、土壙などがある。竪穴式住居は調査区南端に集中しており、集落の中心は南側であろう。いずれも後期と考えられ、竈の残骸と考えられる粘土の集積が北側壁際に認められた。土壙（溝？）は調査区東端と南端に検出され、幅３ｍほど、深さ１～1.5ｍの大きなものである。Ｌ字型の一連の溝になる可能性もある。

出土遺物　出土遺物は甕棺以外でコンテナ40箱ほどである。古墳時代溝からの出土が多く、古墳時代を中心として、下層には弥生時代遺物も含む。最上層には中世陶磁器も含んでおり、該期まで下がる可能性もある。

まとめ　今回調査では、那珂遺跡における弥生時代の拠点集落の墓域を新たに確認したことに大きな意義がある。那珂遺跡群では最北部のアサヒビール工場内、那珂八幡古墳の東側の筑紫通り沿い等遺跡周縁部に多く分布する。



1．調査地点の位置（24－A－1、1：8000）

2．調査区全景

3．甕棺墓群

9226　東入部遺跡群第５次調査（HGI－５）

所 在 地　早良区東入部329－１　　**調査面積**　351㎡
調査原因　下水道工事に伴う迂回道路建設　**担 当 者**　井澤洋一・吉武　学
調査期間　920721～920820　　**処　　置**　調査後破壊

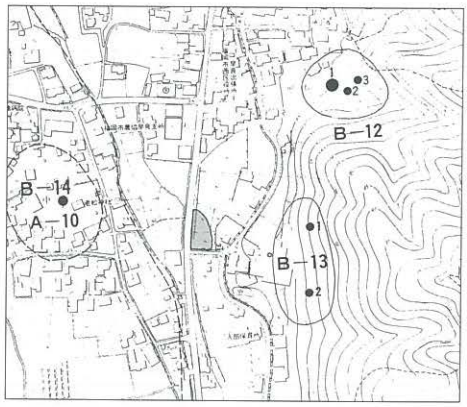
位置・環境　調査地点は早良平野東部の油山と室見川に挟まれた沖積地上に位置する。調査前の状況は休耕田で、標高は約38mを測る。

検出遺構　遺構面は２面認められた。

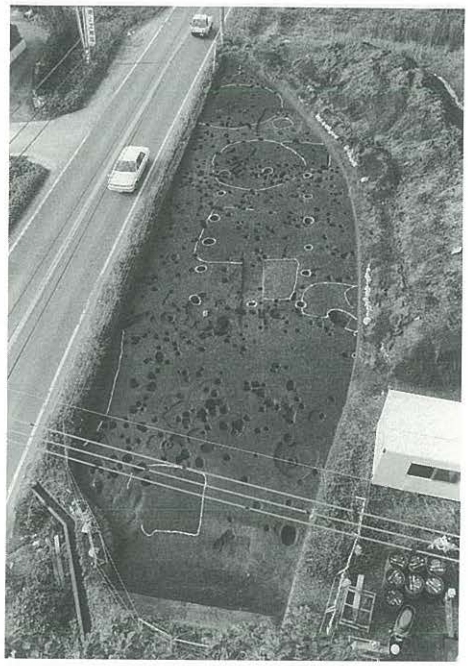
出土遺物　第１面では、12世紀頃の遺構と遺物を検出した。検出した遺構は、掘立柱建物１棟、土坑８基、製鉄関連遺構２基、ピット多数である。出土遺物は、土師器、陶器、中国産陶磁器、滑石製石鍋等である。

第２面では、弥生時代中期末～後期前半の遺構と遺物を検出した。検出した遺構は、竪穴住居跡７軒、ピット多数である。竪穴住居跡は、平面プランが円形を呈するものが４軒、方形を呈するものが３軒ある。円形竪穴住居跡は、直径が６～7.5mで、深さは１m弱あり、遺構の保存状態は非常に良好である。方形住居跡は、円形のものに比べると、ひとまわり小さい。これらの住居跡からは、弥生土器がコンテナ５箱出土したほか、砥石などの石器、鏃・刀子などの鉄製品が出土した。特に鉄製品は、通常の住居跡に比べると非常に多数が出土している。

まとめ　今回の調査では、弥生時代中・後期と中世の遺構と遺物を検出した。特に、弥生時代の住居跡は、調査範囲が非常に限られた面積であったにもかかわらず７軒を検出しており、かなり濃密な集落が存在したことを伺わせる。また、鉄製品の出土量が通常の住居跡をはるかに上回っていることから、鉄生産に関し高度な技術を持っており、他の集落に対し優位な位置を占める集落であったことが想定される。



１．調査地点の位置（85－A－9、１：8000）


２．第１面全景（南から）

9227　東入部遺跡群第6次調査（HGI－6）

所在地	早良区大字東入部	調査面積	380㎡
調査原因	道路拡幅	担当者	池田祐司
調査期間	920809～920904	処置	調査後破壊

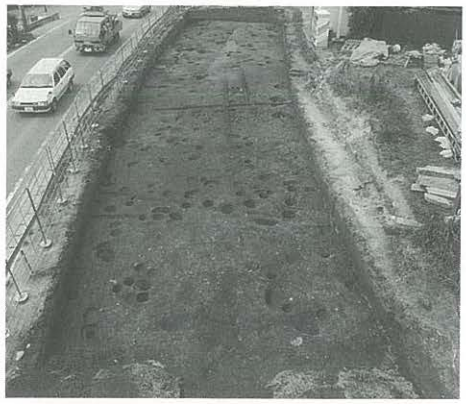
位置・環境　調査地は早良平野の奥部、荒平山の南側山麓に位置し、標高39mを測る。北流する室見川が調査地点より南0.3㎞で西に蛇行しており、かつてその流れの影響を受けたものと思われる。現状は水田であった。生活道路の制約のため3つの地点に分けて調査を行った。

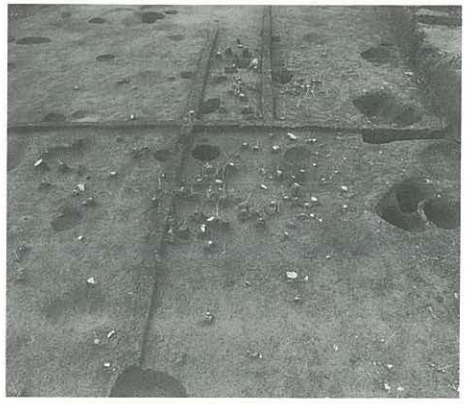
検出遺構　表土下約1.2mの黄褐色の砂層上面でピット、及び土坑を検出した。ピットにはまとまりがなく遺物も少ない。北側の調査区の土坑からは鉄滓が出土している。またこれらの遺構を検出した砂層は縄文時代晩期の包含層である。

出土遺物　コンテナ8箱の遺物の出土があった。その主体を占める縄文時代の遺物には大石式、古閑式併行期の浅鉢、深鉢と黒曜石製の石鏃、剥片がある。遺構出土の遺物の中には、古代の須恵器の坏、土師器の甕、糸切り底の土師皿があるが小片である。

まとめ　鉄滓が出土した土坑には炉のような構造はなく、排滓坑と思われる。付近には炉の存在が予想される。縄文時代の遺物は摩耗を受けておらず、また出土地点にもやや集中がみられる。原位置を大きく動いてないと思われる。

1．調査地点の位置(早良16－A－1、1：8000)


2．2区全景


3．縄文時代遺物出土状況

9228　那珂遺跡群第39次調査（NAK－39）

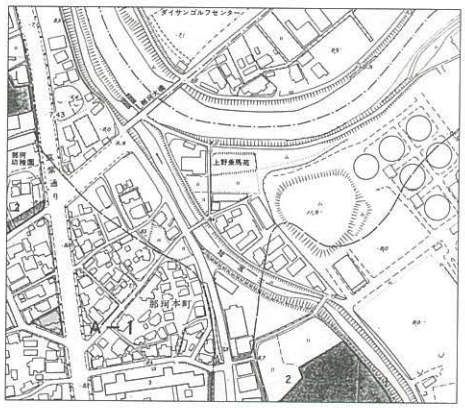
所在地	博多区那珂一丁目362	調査面積	493㎡
調査原因	個人住宅兼共同住宅建設	担当者	佐藤一郎
調査期間	920810～921003	処　置	調査後破壊

位置・環境　調査地は中位段丘面に立地する那珂遺跡群の中央部東側に位置する。標高は約８ｍを測る。遺構面は地表下20㎝の鳥栖ローム層下部である。

検出遺構
・弥生時代前期後半：貯蔵穴１基
・弥生時代中期前半：甕棺墓３基
・古墳時代前期：溝１条
・中世：井戸１基（12世紀後半）、溝１条（16世紀、Ｌ字状に屈曲し、その内側には柱穴が溝に沿ってほぼ等間隔に並ぶ。）、土壙墓１基（13世紀後半～14世紀前半、土師器杯１が供献されていた。）、土壙１基（地下式土壙が崩落したものか。上層から18世紀代の遺物が整理用コンテナ２箱分出土した。

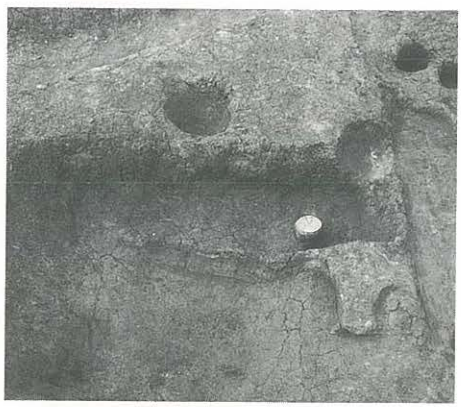
出土遺物　各遺構から整理用コンテナ10箱分出土した。

まとめ　今回の調査では弥生時代前期から中世後半までの遺構を検出したが、後世の削平が著しく、貯蔵穴の残存する深さは30㎝にとどまる。



1．調査地点の位置（23－Ａ－1、１：8000）

2．調査区全景（南から）


3．SX－03土壙墓（南から）

9229　比恵遺跡群第43次調査（HIE－43）

所在地	博多区博多駅南四丁目154－3	調査面積	354㎡
調査原因	ビル建設	担当者	山崎龍雄
調査期間	920820～921130	処置	調査後破壊

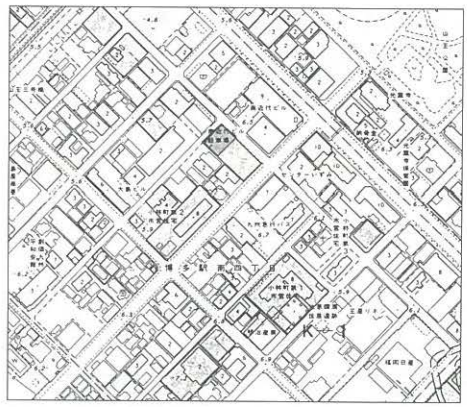
位置・環境　本調査区は、那珂川の右岸に所在する那珂丘陵の北端部に位置する比恵遺跡群の北側東斜面上に立地し、標高は現地表面で約6ｍを測る。本調査区は1990年に調査された第33次調査区の両側で、北側をⅠ区、南側をⅡ区とした。遺構面までの深さはⅠ区で60～80㎝、Ⅱ区で120㎝前後で、鳥栖ローム土上面で検出した。遺物包含層はなかった。

検出遺構　・Ⅰ区：竪穴住居跡８棟、掘立柱建物２棟、井戸10基
・Ⅱ区：井戸２基、土坑２基

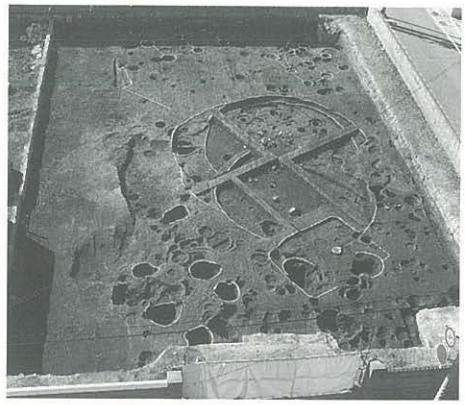
竪穴住居跡は弥生中期後半から終末の時期のものである。中期のものは円形で５棟確認した。そのうち３棟は重複し、１棟は柱穴のみであった。終末期のものは２棟で長方形である。井戸はⅠ区では調査区東側に集中していた。平面形はいずれも円形で素掘り、直径は１ｍ前後、深さ２～3.5ｍを測る時期は弥生時代後期から古墳時代の初め頃のものである。掘立柱建物はいずれも２間×２間の総柱建物で主軸を磁北に取り、古墳時代後期のものである。

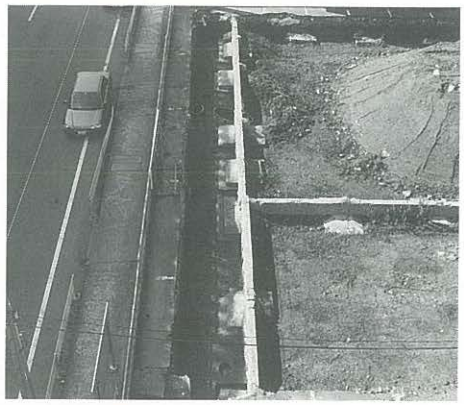
出土遺物　竪穴住居跡や井戸を中心に弥生時代から古墳時代の遺物が出土した。コンテナ箱数にして55箱出土した。時期的には弥生時代のものが多い。特記すべきものとしてⅠ区中央の円形竪穴住居跡から、青銅器の鋳型や鉄斧などが、また井戸からは多数の完形土器の外に建築材や農耕具のえぶりなどの木器類が出土している。

まとめ　前回の第33次調査では弥生中期から後期にかけての集落遺構を確認したが、今回の調査でも同様の時期の遺構を確認できた。特にⅠ区で検出した円形竪穴住居跡は直径が７～９ｍを測る大型のもので、床面までの深さが50㎝を測り、残りは非常に良好であった。



1．調査地点の位置（37－A－1、1：8000）


2．Ⅰ区全景（東から）


3．Ⅱ区全景（東から）

9230　雀居遺跡第３次調査（SAS－３）

所 在 地	博多区雀居（福岡空港西側整備地内）	**調査面積**	Ⅰ区－2,400㎡，Ⅱ区－1,190㎡
調査原因	空港整備	**担 当 者**	松村道博
調査期間	920803～930322	**処　　置**	調査後埋め戻し

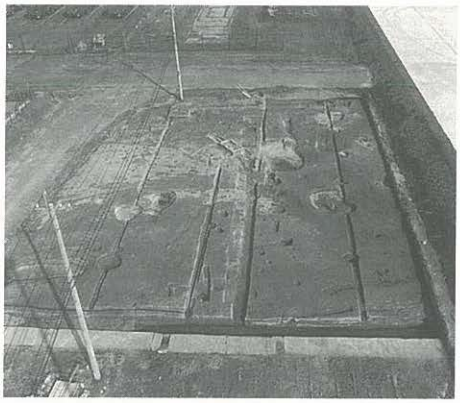
位置・環境　福岡空港の西側整備地区にあり、標高５ｍ前後を測る沖積微高地に位置する。昨年調査を実施した２次調査の西側及び北側にあたる。

検出遺構　Ⅰ区では溝３条と水田遺構を検出した。溝は蛇行しながら南北に延びる小河川（SD-1）とそれに切られ東西に走る溝（SD-2）及び現代の用水路（SD-3）がある。SD-1は岸辺だけが暗褐色のシルトで、他は黄白色の粗砂すなはち洪水砂で覆われ一時的に埋没したものである。幅５～７ｍ、長さ70ｍ以上、深さ１ｍ前後を測る。底部糸切りの土師器が出土しているので13世紀前後と考えられる。SD-1の両側で水田面を確認できたが畦畔は検出出来なかった。Ⅱ区では１面で集落址、２面で水田を検出した。１面は標高約4.6ｍで東から西へ緩やかに傾斜している。調査区の中央から南東側にかけては全体が木灰層で覆われ、土壙や溝も木灰で埋没しているのも多くあり、集落全体が火災に遭遇し、それにより集落が放棄された可能性がある。検出した主要な遺構は土壙30基、井戸２基、溝８条等である。土壙は径１ｍ前後を測るものが多く平面形は円～楕円形を呈し、断面は皿状を示すものが多い。２面では溝（水路）及び水田７枚を検出した。

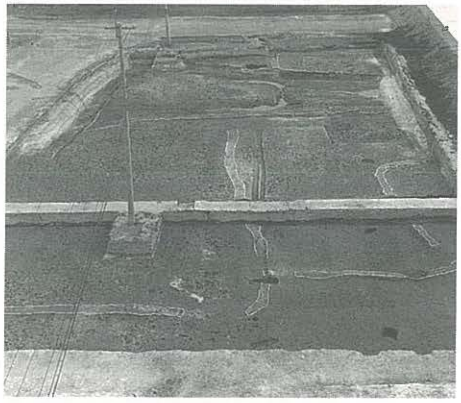
出土遺物　集落址から11世紀前後の瓦器椀、土師器椀、坏等がコンテナ６箱出土、水田からはほとんど遺物は出土していない。

ま と め　これまで飛行場内では発掘調査が実施されていなかったので遺跡の空白地帯となっていたが平成三年から発掘調査を実施した結果、沖積地の微高地に縄文時代晩期から集落が形成されていたことが明らかになった。

１．調査地点の位置（22－Ａ－7、１：8000）



２．調査区全景１面



３．調査区全景２面

9231　比恵遺跡群第44次調査（HIE－44）

所在地	博多区博多駅南四丁目	調査面積	60㎡
調査原因	工場改築	担当者	田中壽夫
調査期間	920827～920905	処置	調査後破壊

位置・環境　比恵遺跡群は、福岡平野のほぼ中央に位置する洪積世台地上に立地する。調査地点は舌状にのびる小丘陵の東側緩斜面に位置し、標高約６ｍを測る。40次調査区南側に隣接する。

検出遺構
出土遺物　弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物を確認した。遺構の遺存状況はあまり良くない。検出した遺構と遺物は以下のとおり。

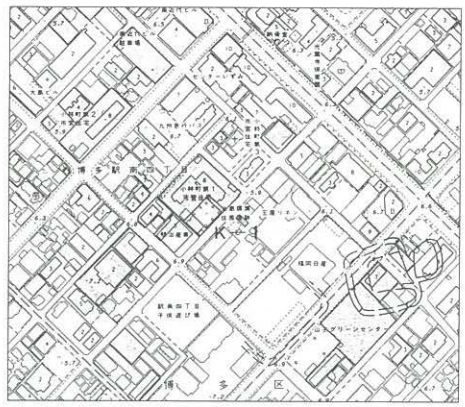
弥生時代後期の井戸２基、掘立柱建物１棟、古墳時代前期の井戸１基、不定形土壙６基。

弥生土器、土師器、石器（蛤刃石斧、柱状片刃石斧、石包丁、砥石、石錘、紡錘車、石鏃、黒曜石片）、土製品（投弾、取瓶）がコンテナ15箱分出土。

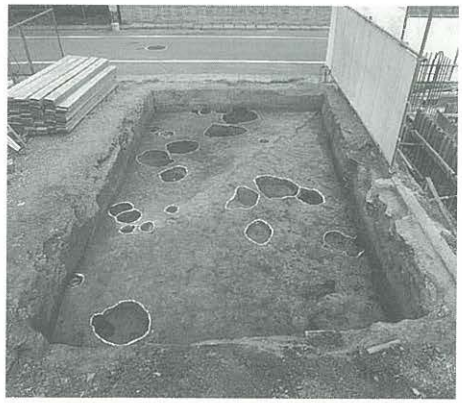
井戸はいずれも規模が小さく、直径が80㎝、深さ1.3ｍ前後である。古墳時代のものは井戸基底面から80㎝ほどの面に甕が１点投棄された状況で出土。

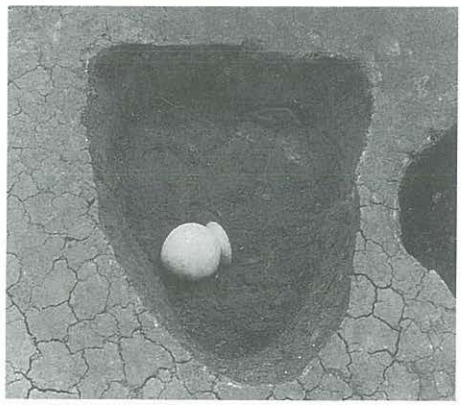
掘立柱建物は、１×２間規模で、40次調査で確認された建物の棟筋の方向性が一致する。

まとめ　今回の調査面積は狭かったものの、40次調査の成果も併せて考えると、比恵台地北東部における当時の集落の土地利用のあり方と、遺構の分布の状況を知る上で、重要である。



1．調査地点の位置（37－Ａ－１、１：8000）

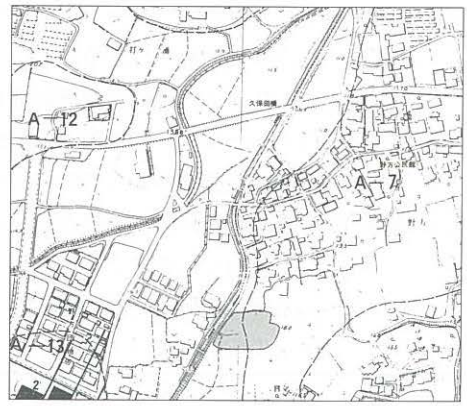

2．調査区全景（南東から）


3．井戸ＳＥ138遺物出土状況（北東から）

9232　野方久保遺跡第４次調査（NKU－４）

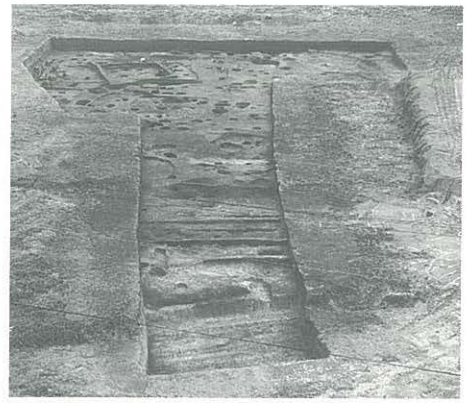
所 在 地	福岡市西区野方一丁目517－３外10筆	調査面積	450㎡
調査原因	分譲住宅建設	担 当 者	小林義彦
調査期間	920907～921030	処　　置	調査後破壊

位置・環境　野方久保遺跡は、早良平野西緑の叶岳東麓を北流する十郎川上流の東岸に拡がる低位河岸段丘上に立地する。第４次調査区は、この野方久保遺跡の西南部に位置し、北方150ｍの距離には細形銅剣を副葬した弥生時代中期の甕棺墓群からなる第２次調査区が、南方150ｍの距離には弥生時代後期～古墳時代初めの竪穴住居跡群からなる第１次調査区がある。また、十郎川を挟んだ西側の段丘上には弥生時代後期～古墳時代初めの集落跡、墳墓群として著名な野方中原遺跡が対峙して位置する。



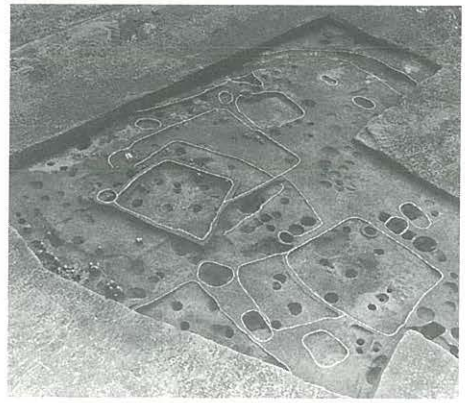
１．調査地点の位置（91－Ａ－７、１：8000）

検出遺構　調査は、Ｔ字状に交差する道路部について実施し、宅地部は盛土によって保存した。遺構は、調査区東側に濃密に分布しており、弥生時代後期～古墳時代初めの竪穴住居跡８棟、土壙14基、溝１条等を検出した。竪穴住居跡は、一辺が2.5～5.5ｍの方形プランをなし、ベット状の施設をもつものもある。


２．調査区全景（西から）

出土遺物　出土遺物は、竪穴住居跡や土壙から弥生時代後期の壺・甕・高杯等の土器や磨製石斧・石鏃等の石器が多量に出土し、その量はコンテナケース50箱になる。また、銅鏃や鉄斧・鉄鏃等の金属器やガラス玉等の装飾品も出土している。

ま と め　第４次調査はトレンチ状の狭い範囲の調査であったが、弥生時代後期～古墳時代初めの竪穴住居跡や土壙からなる集落を確認できた。この集落域は、調査区東側の丘陵上に広く展開することが予想される。このような集落の立地や在り様は第１次調査区や野方中原遺跡と同様の在り方を示し、この期における集落跡の研究や十郎川流域の開発史を考える上で貴重な資料となるものである。


３．調査区東側竪穴住居跡群（北から）

9233　次郎丸高石遺跡第２次調査（JRT－２）

所在地	早良区次郎丸一丁目58・59・61・65	調査面積	1,503㎡
調査原因	道路建設	担当者	山口譲治
調査期間	920731～921103	処　置	調査後破壊

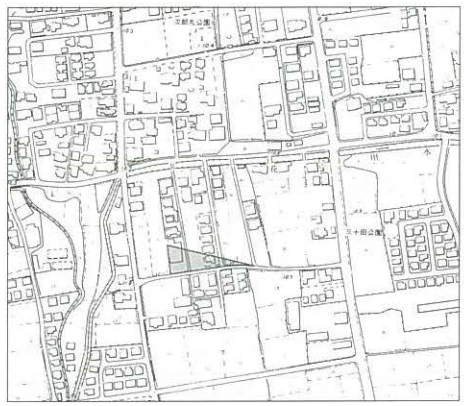
位地・環境　調査地は、室見川・金屑川中流域の両河川の中間にあたり、標高11.5m前後の沖積微高地上に位置している。調査前は盛土され、宅地となっていた。

本調査地は、次郎丸高石遺跡群の南部に位置し、第１次調査地の北50m前後にあたり、盛土および現代耕土を除去した標高10.8m前後の黄褐色粘質土上面で弥生時代から古墳時代の遺構を検出した。

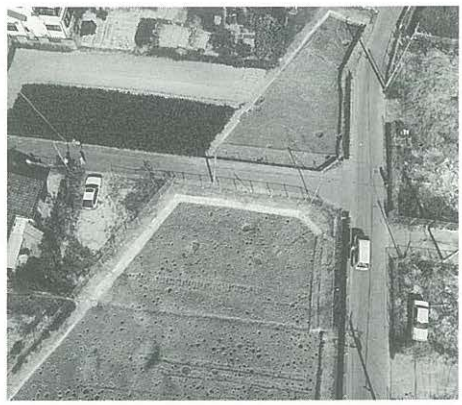
検出遺構
・弥生時代初頭：自然流路、土壙
・弥生時代中期～古墳時代前半期：掘立柱建物、土壙、柱穴
・古墳時代前半期：井戸

出土遺物　本調査では、コンテナ８箱の遺物が出土した。遺構出土遺物としては、古墳時代前半期の井戸から土師器の甕・壺などの完形品が出土したほか、各柱穴から、弥生土器・土師器の細片が出土した。以上のほか縄文時代早期の局部磨製石斧・打製石鏃、同時代晩期の突帯文土器などがある。

まとめ　本調査では、古墳時代前半期の井戸２基と弥生時代中期から古墳時代前半期の遺物を包含した柱穴多数を検出し、柱穴は柱痕跡をもつことから掘立柱建物の柱穴と考えられる。本調査と第１次調査成果から、次郎丸高石遺跡群は、東西40m、南北80m前後の黄褐色粘質土を基盤とする沖積微高地上に所在する弥生時代中期から古墳時代前半期の集落遺跡といえよう。



1．調査地点の位置（83－Ａ－８、１：8000）



2．調査区全景（西から）

3．井戸遺物出土状況

9234　桧原古墳群第１次調査（HBK－１）
桧原遺跡群第３次調査（HBR－３）

所 在 地　南区桧原五丁目、同大字桧原　　**調査面積**　合計約2,500㎡
調査原因　運動公園建設　　**担 当 者**　吉留秀敏
調査期間　19920921～19930130　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　両遺跡ともに油山北麓にあり、樋井川の支流浦田川の東岸の丘陵上に位置している。両者は約500m離れているが、何れも標高34m前後である。

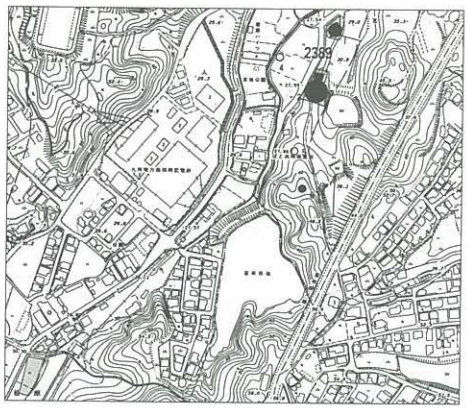
検出遺構　桧原古墳群は洪積丘陵上に点在する古墳の内、２基を調査した。北側の１号墳は径18～20mの円墳であり、南に開口する単室の横穴式石室を持つ。墳丘と石室は大きく壊されていたが、床面は遺存していた。２号墳は全長30m以上の造出付円墳である。墳丘と石室の保存は比較的良い。墳丘は２段築成であり、南に開口する単室両袖の横穴式石室を持つ。

桧原遺跡群は谷に両面する沖積段丘に立地し、竪穴式住居跡７棟、掘立柱建物３棟、溝２条、焼土壙７基、土壙６基、柱穴多数、水田面などを検出した。住居跡は南北２群に分かれ、南側に大型の住居跡１棟と掘立柱建物３棟が集中している。土壙の１基は弥生時代であり、焼土壙と水田面は中世である。そのほかの遺構は古墳時代後期に位置付けられる。

出土遺物　両古墳からは豊富な遺物が出土した。副葬品としては武器類（刀、飾り弓金具、鉄鏃）、馬具類（轡、鐙）、工具類（鉄鋸、刀子）、装身具（銅釧、青銅製指輪、耳環、玉類）があり、供献品としては多数の須恵器、土師器類があった。

遺跡群では住居跡内埋土を主に多くの遺物が出土した。遺物には須恵器、土師器類を中心に少量の土製品、石製品があった。土製品には手ずくねや人形、鏡形があった。また、弥生時代中期前半と縄文時代後期の遺物も出土した。

遺物量は全体でコンテナ33箱であった。



１．調査地点の位置（64－Ａ－５、１：10000）

２．桧原古墳群（南から）

３．桧原遺跡群第３次調査（北から）

9235　徳永古墳群H群第2次調査（TKK－H_2）

所在地	西区大字女原377	調査面積	940㎡（古墳7基）
調査原因	植林	担当者	池田祐司
調査期間	920909～930303	処　置	調査後破壊

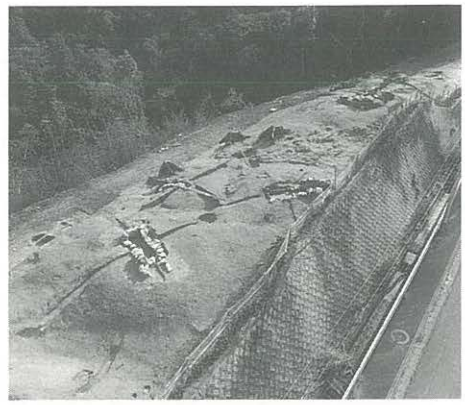
位置・環境　徳永古墳群は、高祖山の東側山麓に舌状に延びる支尾根上に位置する。H群は今回3基を加えて28基の円墳で構成される群集墳である。その尾根の先端には若八幡古墳を始めとして4基の前方後円墳がある。今回調査対象となったのは6号、7号、8号、9号、26号、27号、28号墳の7基である。標高は55mから67mを測る。

検出遺構　古墳はいずれも横穴式石室を主体部とする円墳で、古墳時代後期のものである。出土遺物からみて6～7世紀に造営されたものである。また、墳丘及びその周辺から焼土、木炭片を多く含む土坑を16基検出した。古墳は石材の抜き取りが著しく、天井石が残るものはない。敷石も26号墳以外にはみられない。7基のうち最も古いと考えられるのは7号墳で、石室構造は竪穴系横口式石室の形態に近い。6世紀前半の築造時期が考えられる。最も新しいものは27号墳で、2m大の礫で石室を構築する。6世紀末から7世紀にかかると思われる。

出土遺物　6号墳からは釘、鉄片が、26号墳からは三葉の環頭太刀が出土した。6号、27号墳からはガラス製小玉が、6墳からは勾玉が出土している。各古墳の周溝、墳丘からは須恵器の甕、高坏、坏、土師器などの破片が出土している。

まとめ　今回の調査で、徳永古墳群H群の形成過程の一端を明らかにする事ができた。

1．調査地点の位置（121－B－18、1：8000）


2．徳永古墳群H群

3．26号墳

9236　鴻臚館跡第９次調査（KRE－９）

所 在 地	中央区城内	調査面積	430㎡
調査原因	確認調査	担 当 者	瀧本正志
調査期間	920910～930331	処　　置	調査後埋め戻し

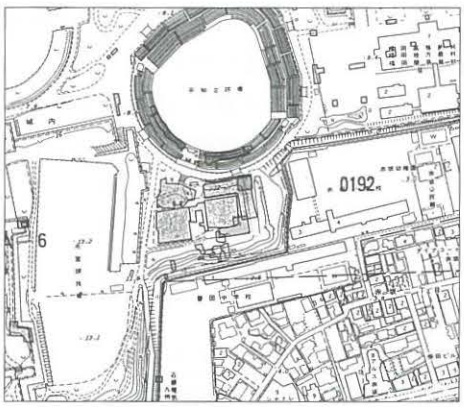
位置・環境　鴻臚館跡（筑紫館跡）は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の先端部、博多湾を望む高台の地（旧那珂郡警固村）に在る。この地には、1601年より築城され、以降260余年の間、筑前国黒田家の居城となった福岡城も築かれている。戦前の城内には陸軍の駐屯地施設が設けられていた。調査地は、福岡城三ノ丸、平和台野球場の南に位置し、1991年度調査地の北側と南側の２ヶ所である。

検出遺構　91年度調査で未確定であった遺構の規模や工法が明らかになった。Ⅰ期（奈良時代）の東門は、掘立柱建物で、桁行三間、梁行二間の八脚門である。各柱間は中央間約3.6m（12尺）、脇間約2.1m（７尺）、梁間約2.7m（９尺）を測る。基壇部は現存しないが、8.4m×10.6mに規模が推定される。門に取付く塀は、東西74m、南北56.2mを測り、掘方底面標高は7.3m～7.4mを測る。さらに、造営時の掘方の深さは1.8m～2.0mであることが推定されることから、奈良時代の生活面標高は9.1m～9.4mであることが判明した。門および塀の各柱は抜き取られているが、径40cmであったことは柱痕跡から明らかである。

調査地の南東部においては、平安時代の土壙、溝を検出するとともに、筑紫館の造営期と推定される造成地業を確認した。

出土遺物　コンテナに250箱出土している。その大部分は奈良・平安時代の丸・平瓦、軒瓦が占める。他には中国産陶磁器類がある。

まとめ　今回の調査では、奈良時代の東門および門に取付く塀の規模や地下地業の様相が明らかとなり、鴻臚館跡（筑紫館跡）施設の変遷を知る資料を得ることができた。



1．調査地点の位置（60－Ｅ－１、１：8000）

2．南調査区東半部（南から）

3．奈良時代東門SB－300（東から）

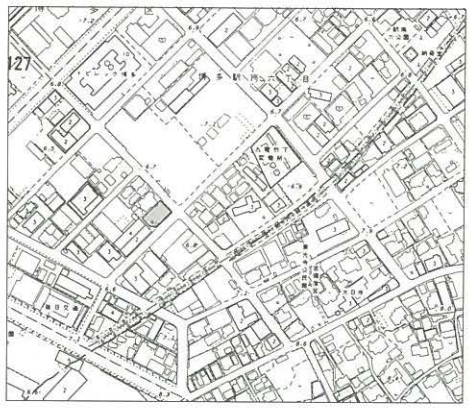
9237　比恵遺跡群第45次調査（HIE－45）

所在地	福岡市博多区駅南六丁目24－1	調査面積	344㎡
調査原因	事業所建設	担当者	佐藤一郎
調査期間	920928～921031	処　置	調査後破壊

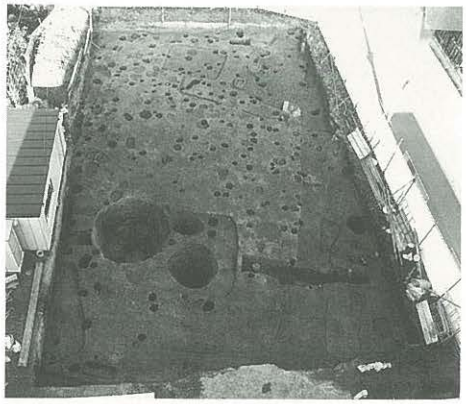
位置・環境　調査地は中位段丘面に立地する比恵遺跡群の南西部、台地が南側にさがるゆるやかな斜面上にあたる。標高は約7mを測る。

検出遺構　調査で検出された遺構は4世紀前半の南北方向の溝1条、6世紀後半から7世紀初頭の竪穴式住居跡3棟、掘立柱建物5棟以上、東西方向の溝2条、井戸1基、8世紀の井戸1基である。竪穴式住居跡の内1棟のかまどの残存状態は比較的良好であり、馬蹄形の白色粘土で構築されたかまどの基底部、その中心に焼土が確認された。他の1棟はかまど推定位置に焼土が認められるだけであったが、移動式のかまどが使用された痕跡の可能性がある。

出土遺物　各遺構から夥しい量の土師器、須恵器片が出土したが、6世紀後半から7世紀初頭の井戸からは整理用コンテナ8箱もの遺物が出土した。井戸底面より完形の須恵器坏身1、土師器甕1が出土し、土師器甕の内部には桃種が入っていた。竪穴式住居跡からは、滑石製白玉、紡錘車、ガラス玉が出土した。



1．調査地点の位置（37－A－1、1：8000）



2．調査区全景（西から）

3．井戸SE－01（西から）

9238　免遺跡群第３次調査（MEN－３）

所 在 地	早良区賀茂三丁目394・397・398・400	**調査面積**	7,955㎡
調査原因	道路建設	**担 当 者**	山口譲治・中村啓太郎
調査期間	920924～930329	**処　　置**	調査後破壊

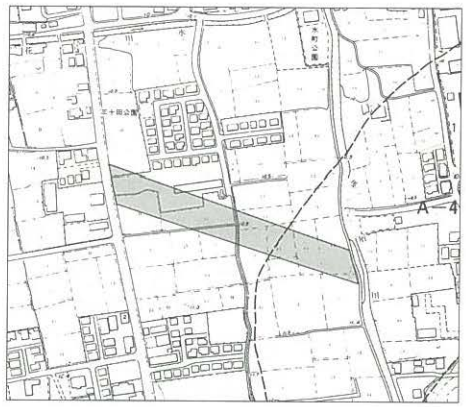
位地・環境　調査地は、金屑川中流域西岸の標高10m前後の低位段丘上に位置している。調査前は大半が水田として使用され、一部は盛土され宅地となっていた。

本調査地は、従来の免遺跡群と次郎丸高石遺跡の間に位置しており、新遺跡名も考慮したが、免遺跡群の中でとらえた。調査は、盛土および現代水田耕土を除去した標高９m前後の面で古墳時代から中世末の遺構を検出した。

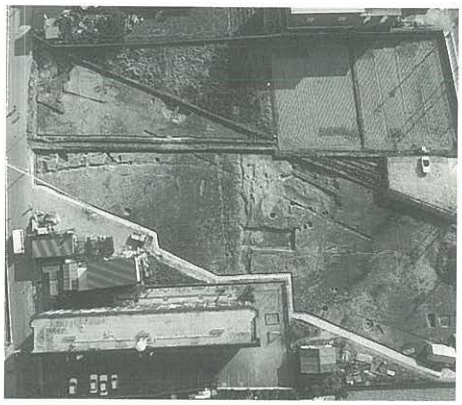
検出遺構
・古墳時代後半期：自然流路、溝
・奈良時代：自然流路
・中世：溝（条里溝）
・中世末：掘立柱建物、土壙、溝、柱穴

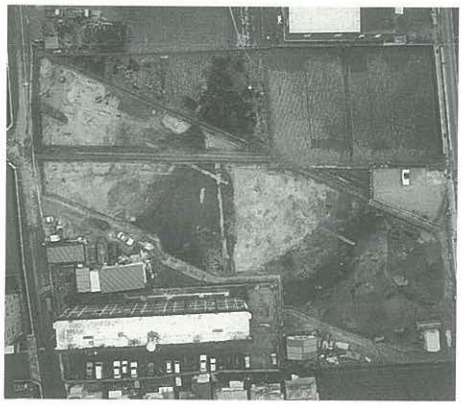
出土遺物　本調査では、コンテナ29箱の遺物が出土した。遺構出土遺物としては、奈良時代の須恵器・土師器（墨書を含む）、中世の青白磁・土師器・瓦経・墨書石がある。以上のほかに弥生時代の土器・石鏃などの石器が出土した。

ま と め　古代の自然流路から少量の土師器・須恵器が出土した中で、出土坏・坏蓋の完形品のほとんど（約10点）に墨書がみられ、「城司」などがあり、土器の遺存状態が良いことなどから近接地に官衙の可能性がある。12世紀後半頃には、条里溝が確認できる。中世末の掘立柱建物群は整然とした配置をもっており、富豪層の居住地といえよう。また、母屋と考えられる建物の各柱穴からは「一切悪日皆成善日……宿……曜……時……」の墨書石が出土し、当時の風習を考える上で参考となろう。



1．調査地点の位置（83－A－4、1：8000）


2．第Ⅰ・Ⅱ調査区全景


3．第Ⅰ・Ⅱ調査区完掘状況

9239　奈多砂丘Ｂ遺跡第１次調査（NTB－１）

所在地	東区奈多字小瀬祓1302－50	**調査面積**	70㎡
調査原因	自然破壊	**担当者**	宮井善朗
調査期間	921014～921130	**処　置**	埋め戻し

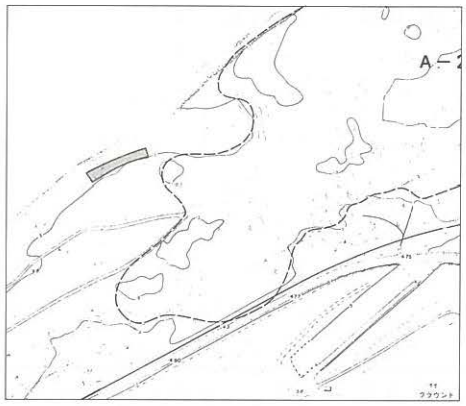
位置・環境　調査地点は玄海灘に面する海岸砂丘上に立地する。汀線までは平均20～25mほどであるが、満潮時には露頭となっている包含層を波が洗っている。この風波による破壊に対応して遺跡の内容把握のため調査を行った。

検出遺構　検出遺構は、包含層及び住居跡、土坑などである。土層は大きく５層から成る。表土（白色砂）下に１層（黄褐色砂）、２層（黒褐色砂）、３層（黄褐色砂）、４層（黒褐色砂）が堆積し、黄褐色砂の地山に至る。遺物包含層は２層（弥生時代後期～古代）、４層（弥生時代後期）である。

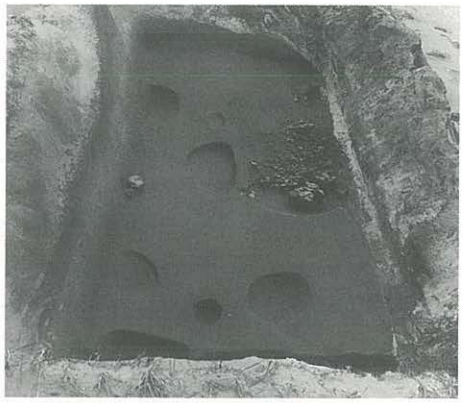
検出遺構は３層上面で木炭を多量に含む土坑、層上面で土錘の大量出土、４層中（４ｂ層上面）で住居跡、土坑、地山上で土坑などが検出された。住居跡からは多量の遺物が出土し、弥生時代後期に属する。

出土遺物　出土遺物はコンテナ16箱ほどである。４層には完形に近いものを含み弥生後期の土器が多く出土した住居跡からは床面から後期土器が多数出土している。また４層上面からは縄につながれた可能性もある状況で土錘が出土した。

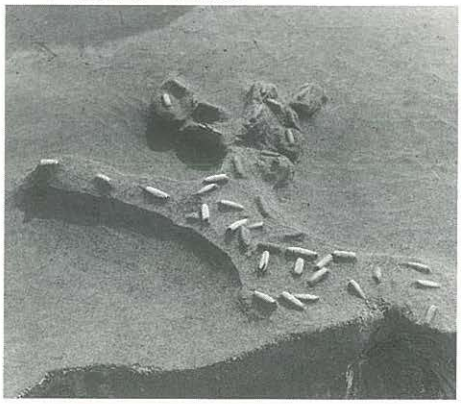
まとめ　今回調査では、奈多砂丘上に弥生時代後期から古代にかけての良好な遺構面が３面にわたって遺存していること、とくに弥生集落は遺存状況がよく、現海岸線近くまで広がっていることが判明した。



１．調査地点の位置（43－Ａ－２、１：8000）



２．東Ⅱ区４ｂ層上面遺構全景（東より右上の土器集中部は住居跡）



３．土錘集中遺構（北から）

9240　比恵遺跡群第46次調査（HIE－46）

所 在 地	博多区博多駅前六丁目13－２	**調査面積**	388.67㎡
調査原因	共同住宅	**担 当 者**	大庭康時
調査期間	921022～921212	**処　　置**	調査後破壊

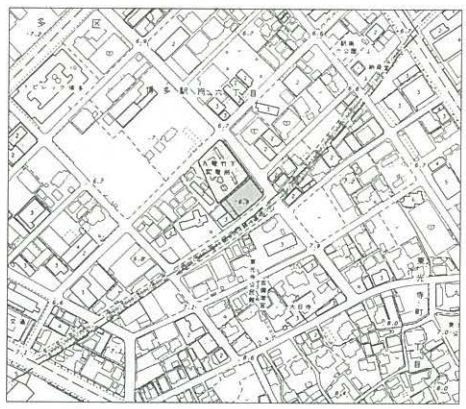
位置・環境　本調査地点は、比恵遺跡の乗る中位段丘が南に向かって落ちていく肩部に当り、調査区の南側は、傾斜を強めて下降する。

表土下には、厚く盛土層があり、その下に薄い遺物包含層が認められた。本調査地点は、近代以前に大規模に削平を受け開田されており、鳥栖ローム層はすでに失われていた。包含層もこの開田時の二次的な堆積であり、八女粘土上で遺構を検出した。

検出遺構　検出した遺構は、弥生時代の溝・井戸・土壙、古墳時代の溝・井戸・土壙などである。いずれも削平のため、遺構の下部を留めるに過ぎなかった。

出土遺物　遺物は、弥生時代中期～後期の土器・石器、古墳時代中期～後期の土師器・須恵器・滑石製小玉・ガラス小玉・紡錘車、古代の越州窯青磁などが出土した。（コンテナ85箱）

ま と め　本調査地点は、立地から見て集落の縁辺部に当る。削平が激しく、竪穴住居跡などの居住遺構は残っていないが、弥生時代の溝は地形の変換線に掘られており、集落の外縁を画したものであろう。溝の下層からは弥生時代中期末、上層からは後期前半の土器が出土しており、その継続時期を示している。溝は、検出面で幅3.5m、深さ1.2mをはかり、旧地形を勘案すると、幅５m深さ２m以上になるものと思われる。比恵遺跡でのこれまでの調査と合わせると、集落の周囲をとりまく大規模な環濠の一部である可能性が考えられる。



1．調査地点の位置（37－Ａ－１、１：8000）

2．東半部遺構全景（西から）

3．弥生時代溝断面

9241　雀居（ささい）遺跡第４次調査（SAS－４）

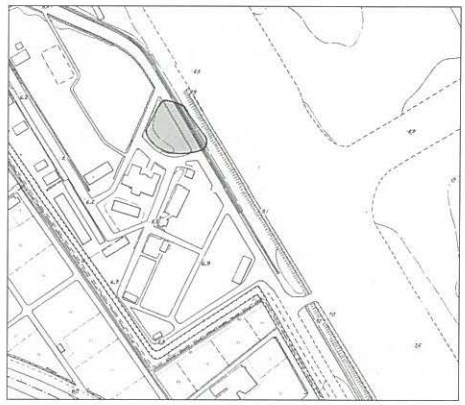
所在地	福岡市博多区福岡空港内	調査面積	2,560㎡
調査原因	空港西側整備	担当者	下村　智・宮井善朗
調査期間	921019～930331	処　置	調査後破壊

位置・環境　調査地点は、福岡空港西側の旧米軍キャンプ跡地にあり、御笠川右岸の標高6.5ｍほどの沖積微高地に立地する。遺構は地表下－２ｍ前後の標高4.5ｍ前後で確認でき、シルト質の沖積層が基盤となっている。

検出遺構　縄文晩期終末から弥生後期後半代にかけて、溝９条、土坑23基、掘立柱建物26軒、不定形土坑12基の遺構が検出されている。

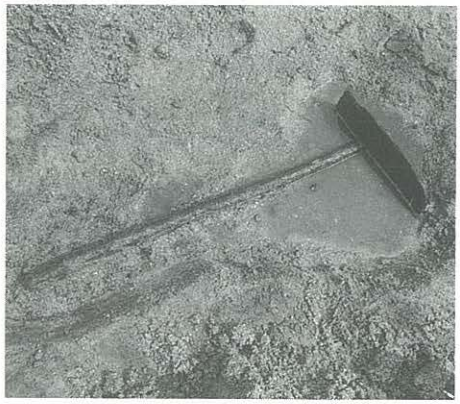
出土遺物　遺物の出土は非常に多く、木製品も含めてパンケース1,308箱分に相当する。出土遺物の中で、縄文晩期のものは、刻目突帯文土器、黒色磨研土器、丹塗り磨研土器、大陸系磨製石器と木製品などである。木製品には、諸手鍬、平鍬、鋤、竪杵、斧柄、槽、鉢、漆弓などがある。弥生前期から中期初頭のものでは、銅剣の把頭飾板と赤漆、黒漆塗りの弓が注目される。弥生後期後半の時期では、組合式案、刳抜式案、木甲、木鏃、木製紡錘車、平鍬、又鍬、鋤、エブリ、鍬のクサビ、横槌、斧柄、鉢、高坏、盆、把手付槽、ネズミ返し、建築部材などがある。

まとめ　縄文晩期終末の木製農具がセットで出土したことは重要である。これまで分からなかった平鍬や鋤が明らかとなり、弥生時代と同様に完成された水稲耕作が行われていたと推察される。また弥生後期の掘立柱建物群の中では特に大型の建物があり、梁行７ｍ、桁行９ｍを測り、中央部に棟持柱を持っている。柱穴は1.4ｍ四方で、長さ80㎝、幅50㎝の礎板を敷く。柱は径30ｍ前後で、柱間隔はそれぞれ３ｍと長い。建物は環濠の内側に位置し、他の建物から離れて建てられているところから、楼観の一種ではなかろうか。



１．調査地点の位置（23－Ａ－４、１：8000）

２．調査区全景（北から）



３．日本最古の平鍬出土状況（縄文晩期）

9242　田村遺跡群第12次調査（TMR－12）

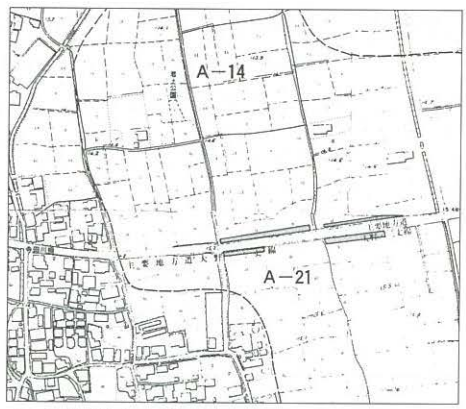
所 在 地	早良区大字田804－１外	**調査面積**	510㎡
調査原因	歩道建設	**担 当 者**	榎本義嗣
調査期間	921026～921214	**処　　置**	調査後破壊

位置・環境　本調査地は早良平野を北流する室見川東岸の沖積地上に位置し、平野部のほぼ中央に該当する。現況は水田で、標高は14.5m前後を測る。周辺地域には条理地割が現存の道路・水路・水田畦畔等によく遺存している。調査区の南50m位置する５次調査地においては中世を中心とする大規模な集落が確認されている。

検出遺構　中世の土坑、溝、井戸、柱穴を検出した。調査区の北西側で確認された東西方向の溝は５、８、７、11、13次調査で検出されている南北方向の溝に直交するもので、深さ約30cmを測る。なお、幅は北側の肩部しか検出されておらず、確定はできない。また、調査区が既存道路に沿った幅２m余りの狭長なものであったため、検出された柱穴から建物を抽出することはできなかった。

出土遺物　12～14世紀の遺物がコンテナ14箱出土した。その大半は上述した溝からのもので、土師器、須恵器、瓦器、滑石製品、輸入陶磁器等がある。

ま と め　５次調査で確認された中世集落が更に北側へ拡大することが認められたが、遺構の密度が希薄なことから、集落の北側縁辺部に該当すると思われる。東西方向の溝は５、７次調査等でも部分的に確認されているが、南北方向の溝と比較すると区画の在り方や規模は不明な点が多い。両方向の溝の有機的関連の追求は今後の課題といえよう。



1．調査地点の位置（93－Ａ－21、１：8000）

2．Ｆ区全景（東から）

3．Ｂ区溝検出状況（東から）

9243　桑原遺跡（飛櫛貝塚）第１次調査（KWM－１）

所在地	福岡市西区大字桑原字立浦762－１、877－１	調査面積	300㎡
調査原因	道路拡幅	担当者	井澤洋一・吉武　学
調査期間	921105～930123	処　置	調査後貝塚のみ埋戻し、協議書交換

位置・環境　当該地は標高約80ｍの山塊から東南方向へ延びた丘陵の舌状部分に位置する。

遺跡の立地する台地は北側に侵食した開析谷の開口部に相当し、南側は河川による削平を受け段丘を形成している。段丘面は地表から約２ｍの深さに検出することができる。地山は頁岩で、上部に１～２ｍの堆積層が存在する。現況は水田地帯で、標高は約６ｍを測る。

飛櫛貝塚については昭和47年、防火用水槽建設工事中に発見され、人骨、獣骨、貝輪、土器等の遺物が採集されている。調査対象範囲は２～４ｍ幅で、調査に先立って試掘調査を行ったが、障害物のため全域に及ぼすことができず、弥生時代～中世の遺構を検出したのみにとどまった。

遺構面は南北方向の開析谷と、東西方向に貫流する大原川の開析により、鋸歯状に突き出た台地上に存在する。遺構面は３面存在する。

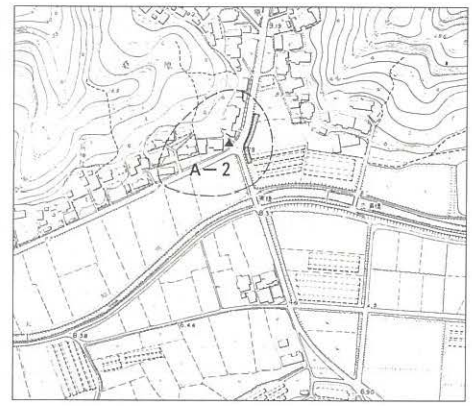
縄文時代貝塚は南北の長さ18.8ｍ、東西４ｍ、深さ0.9ｍを測り、貝層の堆積状況は傾斜が強い。

検出遺構
・平安末～鎌倉時代：掘立柱建物
・弥生・古墳時代　：住居跡５軒、土壙１基
・縄文時代　　：貝塚、土壙墓５基、

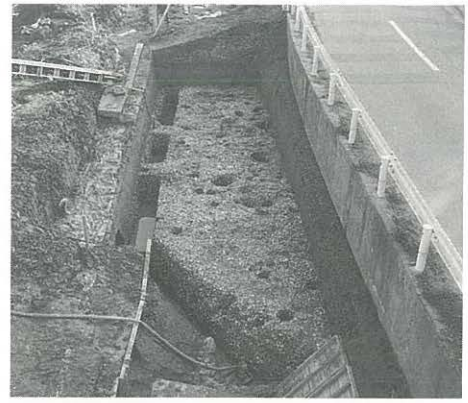
出土遺物　中世遺物は土師器皿・坏・白磁皿・碗、同安窯系青磁皿・碗、中国陶器、土師質土器鉢、滑石製石鍋等が出土。古墳時代は５～６世紀の土師器甕・鉢・高坏、須恵器坏・蓋がある。弥生時代は包含層等から多量の磨製石斧未製品及び剥片の他、敲打具、弥生時代前期～中期の甕・壺が出土。縄文時代は人骨８体分の他、シカ、イノシシ等の獣骨、貝輪、縄文土器、打製石器である。

まとめ　縄文時代貝塚は元岡瓜尾貝塚と桑原飛櫛貝塚の２ヶ所が確認されているが、いずれも発掘調査が行われておらず、今回の調査によって飛櫛貝塚の東・南限を知り得たことは貝塚の遺存範囲を大略把握できると共に貝塚の中心が現道から西側の丘陵斜面にあることが推測できる。又、阿高系土器、擦消し縄文土器の出土は、これらの出土状況の分析によって貝塚の形成時期、及び北部九州沿岸の縄文土器の型式学的編年に寄与できる。

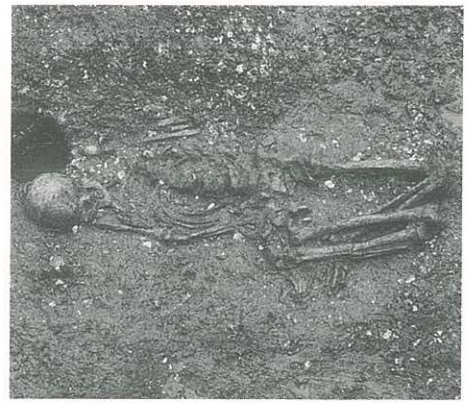
弥生時代の石斧工房は呑山遺跡が前期として知られるが、この地域に普遍的に作られていた可能性がある。又、石斧未製品が扁平で短冊形であることから、玄武岩石斧の製作開始時期の課題を与えている。



１．調査地点の位置（129－Ａ－２、１：8000）



２．調査区全景



３．人骨出土状態

9244　藤崎遺跡群第23次調査（FUA－23）

所在地	早良区高取二丁目15～19	調査面積	238㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	中村啓太郎
調査期間	921026～921118	処置	調査後破壊

位置・環境　調査地点は、藤崎・高取・百道の一帯の古砂丘に立地する藤崎遺跡群の西南に位置する。

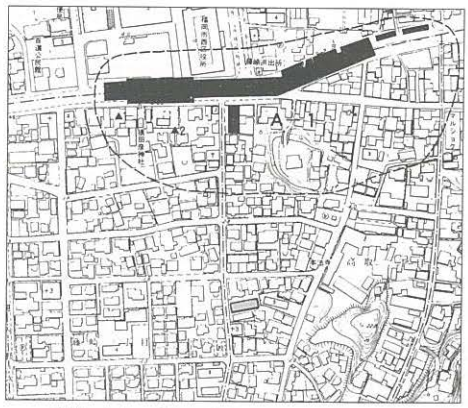
これまでの調査で弥生時代から中世にかけて各時期の遺構が確認されている。調査前は宅地であった。

検出遺構　遺構は２面で確認された。上面では中世の溝、土坑、ピット等がある。このうち１号土坑は内部は攪乱されていたものの四隅から釘が出土しており、木棺墓の可能性もある。

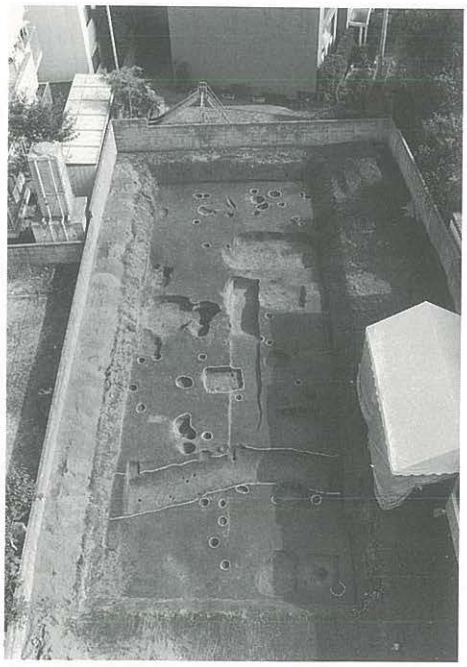
Ⅱ面では主として古墳時代の土坑・ピット等を確認したが、密度は薄かった。

出土遺物　出土遺物としては、弥生土器・土師器・須恵器・青磁・白磁等にくわえ、土錘・たこ壺等の漁労具がある。

まとめ　今回の調査で上面で確認された溝は方向、規模、時期等から16次・18次調査の溝と何らかの関連がある可能性がある。溝はさらに南へ延びており藤崎遺跡群の範囲が南へひろがるのは確実である。



1．調査地点の位置（81－A－1、1：8000）



2．調査区全景

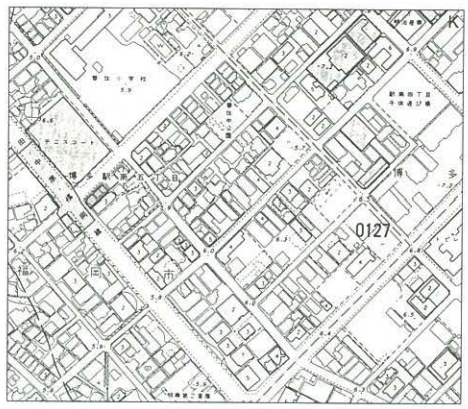
9245　比恵遺跡群第47次調査（HIE－47）

所在地	福岡市博多区駅南五丁目11	調査面積	120㎡
調査原因	店舗兼個人住宅建設	担当者	佐藤一郎
調査期間	921106～921125	処置	調査後破壊

位置・環境　調査地は中位段丘面に立地する比恵遺跡群の中央部西側に位置し、調査地の西側は第３次調査地区、北側は第８次調査地区（推定那津官家）に隣接する。

検出遺構　調査で検出された遺構は４世紀前半の土壙２基、ピット群で、調査区内の東側は台地が落ちる谷際にあたり、遺物包含層を形成していた。台地状は後世の水田開墾のため削平をかなり受けており、遺構の残りは良くない。

出土遺物　各遺構から土師器片が出土したが、総数は整理用コンテナ３箱。



1．調査地点の位置（37－A－1、1：8000）

2．調査区全景（東から）

9246　西新町遺跡第５次調査（NSJ－５）

所 在 地	早良区西新三丁目606－４	調査面積	230㎡
調査原因	病院建設	担 当 者	池田祐司・長家　伸
調査期間	921102～921114	処　　置	調査後破壊

位置・環境　博多湾に面する古砂丘上に立地する。現在までに４次にわたり調査が行われている。

検出遺構　庄内～布留式古相段階に属する竪穴住居跡９棟が検出された。このうち切合いで遺存状態の悪い１棟を除いた８棟から竈と考えられる焼土を検出した。中でもSC09は布留式土器を含まない庄内併行期のものと考えられ、竈の導入を考える上で貴重な資料となる。

土器の残りも非常によく、多くの遺物が出土した。SC06からは50個体以上の土器と共に陶質土器の甕が出土した。また、SCO2からは布留式土器とともに大型板状鉄製品が出土した。長さは33cmを測り、バチ形を呈する。端部は細くなり刃状につくるが焼き入れ等は行われていないようである。板状鉄斧と鉄延の中間的な形態を呈しており、用途・機能は不明である。なおSC02では鍛冶炉等は検出されていない。

出土遺物　遺物は庄内～布留式古相段階に属する土器がコンテナ50箱。そのほか陶質土器１、鉄製品２。

ま と め　遺跡の範囲が更に東に広がることが判明した。また庄内併行期の竈の検出をはじめ、陶質土器や大型板状鉄製品の出土など、貴重な資料を多く提供した。

１．調査地点の位置（71－Ａ－１、１：8000）

２．調査区全景（南から）

３．SC06出土状況（北から）

9247　田村遺跡群第13次調査（TMR－13）

所在地	早良区大字田	調査面積	580㎡
調査原因	道路建設	担当者	榎本義嗣
調査期間	921201～930130	処置	調査後破壊

位置・環境　本調査地は早良平野を北流する室見川東岸の沖積地上に位置する。現況は水田、水路、道路である。標高は13m前後を測る。周辺地域には条里地割がよく遺存しており、今回の調査地もその地割の影響を受けた南北方向の部分で、8・11次の調査地の北側に継続するものである。

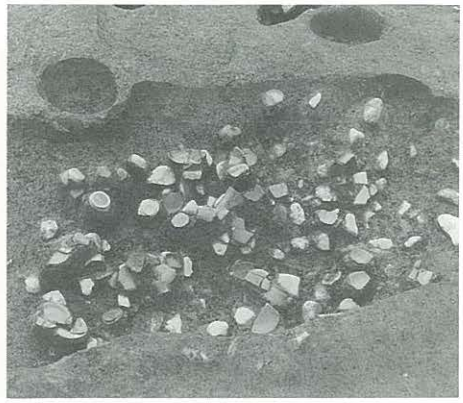
検出遺構　平安時代の土坑、掘立柱建物、柱穴および中世の溝、土坑、柱穴を検出した。調査区の南側では前者の遺構が集中してみられた。掘立柱建物は桁行4間の南北棟であるが、梁間は中世の溝に切られ規模は明らかにできない。同じく溝に切られる現存で長さ6m、深さ25㎝程の土坑から廃棄された状態で遺物が出土した。中世の溝は8・11次で確認された南北方向の溝の延長であるが、削平が著しく調査区北端より15mで消失する。幅4m、深さは30㎝を測る。

出土遺物　総量でコンテナ5箱が出土した。平安時代の遺構からは土師器、須恵器、黒色土器の他に上述の土坑から越州窯青磁、鞴羽口、鉄滓が出土した。中世の遺構からは12～14世紀の土師器、瓦器、輸入陶磁器が出土したが、小量である。

まとめ　今回の調査では本遺跡群内において殆ど検出されていない平安期前半の集落を確認できた。また、製鉄関連の遺物が少量ながら出土しており、それらの規模・内容ともに今後の調査をふまえ明確にしていかなければならない。

1．調査地点の位置（92－A－14、1：8000）

2．調査区南半全景（南から）



3．土坑遺物出土状況（東から）

9248　田村遺跡第14次調査（TMR－14）

所 在 地	早良区大字田	調査面積	1,500㎡
調査原因	団地建設	担 当 者	常松幹雄
調査期間	921130～930131	処　　置	調査後破壊

位置・環境　調査地は、室見川の東岸の沖積平野に位置する。標高15～16m前後である。調査区の旧況は田で、約60cmの客土がなされている。これまでの調査で中世の集落跡が確認されている。今年度の調査区は団地建物の本体部分である。

検出遺構　・中世：掘立柱建物４棟、井戸２基、土壙２基

掘立柱建物は南北方向に長軸をとり、調査区の北西に並ぶ。建物は、２間×３間を基本としており、全面に庇が回るもの１棟、１間四方の張出しをもつもの１棟がある。建物の東側には、長軸８m幅２mの不正楕円形を呈する土壙が並んでいる。

出土遺物　遺物は、主に井戸跡と土壙出土の陶磁器、土師器、石鍋などでコンテナ６箱に上る。

ま と め　今回は３次調査区に接しており、掘立柱建物の東側にかけての広がりを確認することができた。陶磁器の年代から遺構の時期は11世紀後半から12世紀にかけてと考えられる。

1．調査地点の位置（84－A－1、1：8000）

2．調査区全景

本調査地から飯盛山を望む

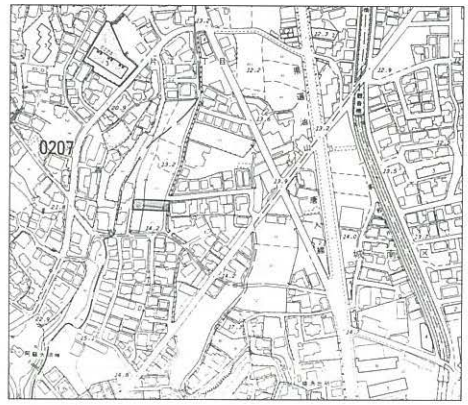
3．井戸跡石鍋出土状況

9249　片江B遺跡群第2次調査（KEB－2）

所在地	城南区片江一丁目983－3	調査面積	16.6㎡
調査原因	公園建設	担当者	吉武　学
調査期間	921204～921209	処　置	調査後破壊

位置・環境　試掘の結果、申請地1,300㎡の全域で遺構が検出されたが、擁壁工事によって破壊される部分以外は盛土保存とした。

油山北側に展開する独立丘陵のひとつに片江B遺跡群が位置しており、調査地点はこの丘陵の東側裾部にあたる。東側を樋井川が北流しており、これの沖積作用によって形成された低地上に水田が造営され遺跡の現況となっている。



1．調査地点の位置（63－A－4、1：8000）

検出遺構　調査は公園整備事業地の内、破壊を受ける北側部分について幅1m×長さ16.6mの範囲で実施した。検出した遺構は8～9世紀の遺物包含層と水田遺構である。調査区が狭いため、水田遺構を面的に捉えることはできなかったが、土層観察によると遺物包含層が3～4層に細別でき、各々の間に足跡状の凹みと畦畔状の高まりが存在することからみて、少なくとも2面以上の水田面が存在することが分かる。この水田は、出土土器から見て平安時代以降のものであろう。また、試掘トレンチでは包含層下に杭列を検出した。水田遺構に伴うものであろう。

2．調査区全景（東から）

出土遺物　包含層からは、コンテナ箱にして2箱分の遺物が出土した。弥生土器（甕）、平安時代の土師器（坏、甑、甕）、須恵器（甕、坏）、滑石片、板状木製品などがある。

まとめ　出土遺物は西側丘陵寄りの部分に多く含まれていた。丘陵上に集落が存在し、調査地周辺にこれに伴う水田が営まれていたものと考えられる。

9250　伊都区画整理地区内遺跡第２次試掘調査

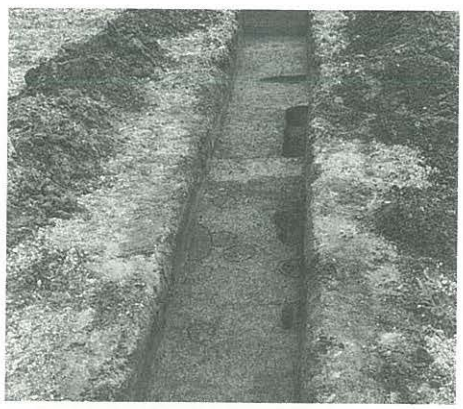
所 在 地　西区大字周船寺
調査原因　区画整備事業計画
調査期間　921214～930331
調査面積　520㎡
担 当 者　小林義彦・屋山　洋
処　　置　調査後埋め戻し

位置・環境　調査対象地区は高祖山から北に延びる丘陵の先端部分と、その西側に広がる扇状地である。標高は約8.8～25mであり、現状は周船寺駅の南側が一部宅地になっている他はそのほとんどが水田と畑である。

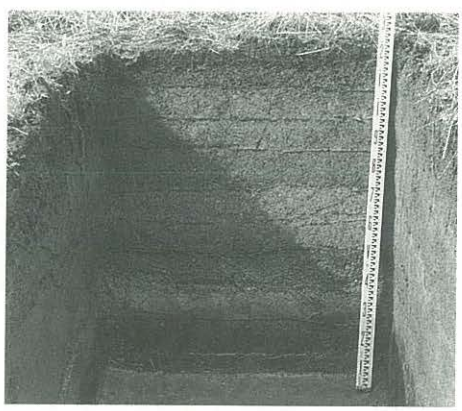
検出遺構　試掘の結果、丸隈山古墳から妙正寺にかけての台地上で弥生時代の包含層と古代の集落跡を確認した。飯氏東の交差点の東側では甕棺を確認した。その北側の微高地は現集落域であるが、微高地周辺の落ち際に弥生～古墳時代の包含層が確認され、遺跡が広がっている可能性がある。周船寺駅南側の扇状地では現水田面の下に１～３枚の水田面を検出した。水路や畦などの施設は未検出で時期も不明である。なお確認した水田面もトレンチの途中で消失するなど、面的な広がりは確認できていない。

出土遺物　遺物の出土は少なく、弥生時代・古墳時代の土器が僅かに出土したのみである。

１．調査地点の位置（120、１：20000）



２．62トレンチ（東から）



３．54トレンチ土層（南から）

9251　有田遺跡群第170次調査（ART－170）

所在地	早良区小田部三丁目179－1	調査面積	750㎡
調査原因	市営住宅建替	担当者	吉武　学
調査期間	930105～930331	処　置	調査後破壊

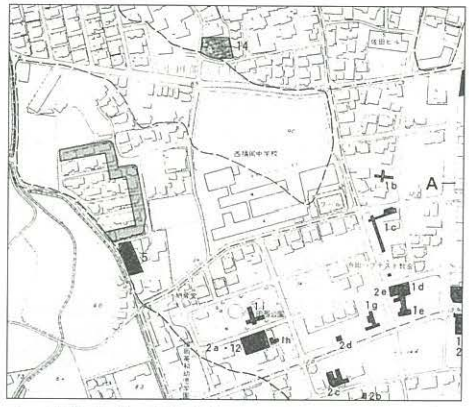
位置・環境　調査地点は、有田・小田部台地の北西寄りの位置で、中央台地から北西に伸びる枝台地上にあたる。標高約10mで、調査地の西側は室見川に浸食され、比高約4m程の段差となっている。字名は「高畠」、現況は市営住宅である。申請地の西側半分は削平が著しく、遺構が残っていない。

検出遺構　調査工程の都合上、2年度にまたがる調査となった。本年度調査区は、申請地の外周道路部分で、幅3m前後である。

検出遺構は縄文時代の貯蔵穴2、弥生時代の竪穴住居跡1、古墳時代の竪穴住居跡1、中世の掘立柱建物・溝状遺構などである。縄文時代の貯蔵穴は調査区の南端部にある。径1mの円形プランで深さは約1m。住居跡は弥生時代中期が円形プラン、古墳時代前期は方形プランのものであった。ともに調査区の東寄りに位置し残りは悪い。中世の遺構は調査区の北寄りに集中する。溝状遺構は集落を区画するものと思われ、この区画の中に柱穴多数が存在する。掘立柱建物は調査区が狭く復元できなかった。

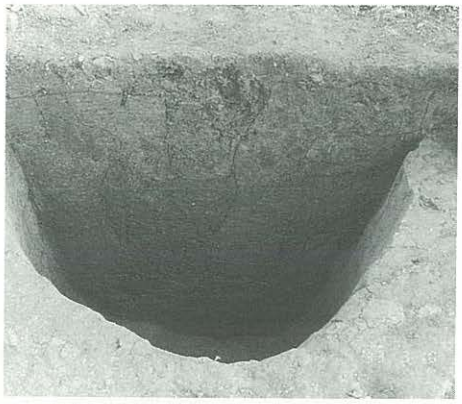
出土遺物　コンテナ箱にして5箱分の遺物が出土した。縄文土器（阿高系）、弥生土器、古墳時代の土師器、中世土器、古銭（開元通宝）などがある。

まとめ　調査区の南、北の隣接地は過去に調査が実施されており、それぞれ縄文時代の貯蔵穴群、中世末の館跡が発見されている。今回検出された遺構群はこれらに続くもので、それぞれの遺構の範囲を確定する成果があがった。



1．調査地点の位置（82－A－1、1：8000）

2．調査区全景（上空から）



3．縄文貯蔵穴（北から）

9254　東桑原遺群第１次調査

所 在 地	福岡市西区大字桑原字下ノ谷865－１	**調査面積**	15㎡
調査原因	道路拡幅	**担 当 者**	井澤洋一
調査期間	921102～921104	**処　　置**	工事中破壊

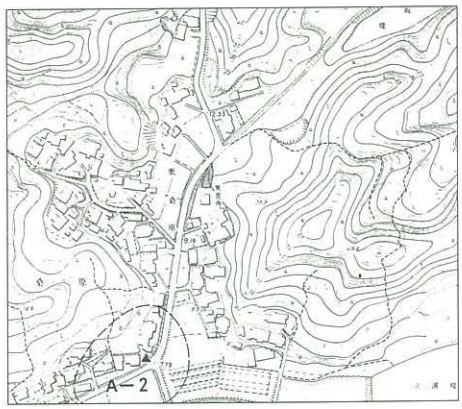
位置・環境　当該地は標高90m前後を最高値とする元岡丘陵群の開析された狭小な谷合いの深部に位置し、標高25mを測る。この谷の開口部には縄文時代の桑原飛櫛貝塚が存在している。現在、西区大原の柑子岳城の山麓において、福岡市環境局が大規模な埋立場を建設しており、この埋立場へ通じる搬入路として道路の拡幅が行われている。高さ4.06mの丘陵斜面を削平した際に遺構が露出したもので、発見時には既に拡幅工事は終了していたため、記録のみ残した。

開析谷から小さく分岐した幅20m程度の浅い谷に製鉄遺構を検出したが、壁体と鉄滓を多量に含んでおり、残滓物を投棄した場所と考えられる。

検出遺構　製鉄遺構としては明確な遺構は無く、谷内に鉄滓や炉壁等の残滓物を投棄した捨て場と考えられる。遺構は逆台形の溝状を呈しており、現状での幅は11.6m、深さ1.9mを測る。木炭・焼土を多量に含んでいるため、黒褐色を呈する。遺構の上面には21.6cmの厚さに二次堆積土が存在する。

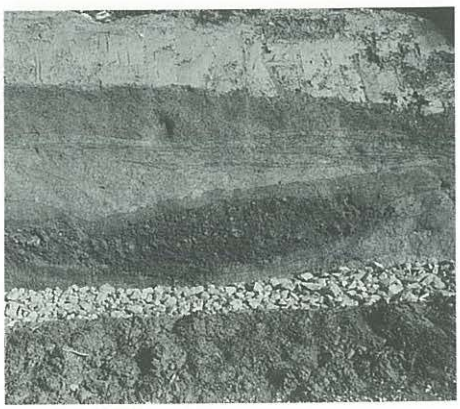
出土遺物　鉄滓は多量であるため、サンプルとして一部をコンテナ１箱分採集した。炉壁も多く、土器片、鞴の羽口、炭化物が出土した。土器片は土師器の他に瓦器椀の破片がある。

ま と め　大原の新西部埋立場予定地（大原Ｄ遺跡）及び搬入路（大原Ａ遺跡）の調査では奈良～平安時代の製鉄遺構を発見しており、海岸に面した丘陵地帯の谷合いにおいて盛んに鉄生産が行われたことを示している。今回の調査では更に12～13世紀まで製鉄が行なわれていたことが判明したが、鎌倉時代末期から戦国時代においてこの地域が軍事的に重要な位置を占めていることから、今後、戦国時代までの鉄生産遺跡が多数発見されることと考えられる。



１．調査地点の位置（129、１：8000）

２．調査区全景



３．土層断面図

9255　比恵遺跡群第48次調査（HIE－48）

所在地	博多区博多駅南四丁目９－８	調査面積	850㎡
調査原因	工場改築	担当者	田中壽夫
調査期間	930106～930331	処　置	調査後破壊

位置・環境　比恵遺跡群は、福岡平野のほぼ中央に位置する洪積世台地上に立地する。調査地点は、舌状にのびる小丘陵の東側緩斜面に位置し、標高約６ｍを測る。40次調査区の北側に隣接。

検出遺構
出土遺物　弥生時代後期から古墳時代初頭、近世の遺構と遺物を確認した。遺構は、南側部分の遺存状況が悪い。検出した遺構と遺物は以下のとおり。

弥生時代後期の井戸13基、溝３条、土壙47基、柱穴198。古墳時代前期の井戸３基。掘立柱建物は弥生後期～古墳時代が主で28棟。

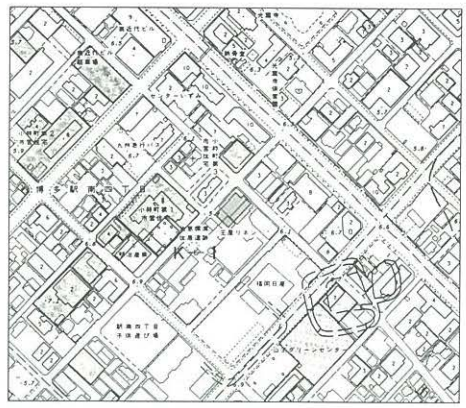
弥生土器、須恵器、陶質土器、土師器、石器（石包丁、石鎌、砥石、石錘、紡錘車、磨石、石鏃、黒曜石片など）、土製品（紡錘車、投弾）、木製品（槌、板材）、銅鏃。

28棟の掘立柱建物の内、SB01は２×３間の間取りで、規模は梁行約４ｍ、桁行約6.7ｍ。柱穴平面形は一辺80～100㎝の方形。礎板を置いている。弥生時代後期の大型の掘立柱建物である。SB02は２×３間の間取で、梁行3.5ｍ、桁行5.5ｍの規模。

井戸は、弥生時代後期前半のものと、古墳時代前期のものがある。調査区北側と南側に分布が偏っている。

溝は、弥生時代終末から古墳時代初頭のもの（SD04）、中世のもの（SD03）、近世から現代のもの（SD01）。SD04は第40次調査のSD48と同一の溝で、本調査区では北東に向きを変え、直線的に続いている。

まとめ　今回の調査では掘立柱建物が多数見られた。井戸群のあり方や、竪穴住居と掘立柱建物の分布の差異は、比恵台地北東部での土地利用のあり方を知る上で重要である。



1．調査地点の位置（37－Ｋ－１、１：8000）

2．調査区全景（南西から）

3．掘立柱建物SB01完掘状況（南西から）

9256　那珂遺跡群第40次調査（NAK－3）

所在地	博多区那珂二丁目5	調査面積	496㎡
調査原因	ビル建設	担当者	山崎龍雄
調査期間	930208～930413	処置	調査後破壊

位置・環境　本調査区は、那珂川の右岸に南北に細長く延びる那珂丘陵の東側斜面上に立地し、標高8.5mを測る。那珂遺跡群はこの那珂丘陵の全面が範囲となる。

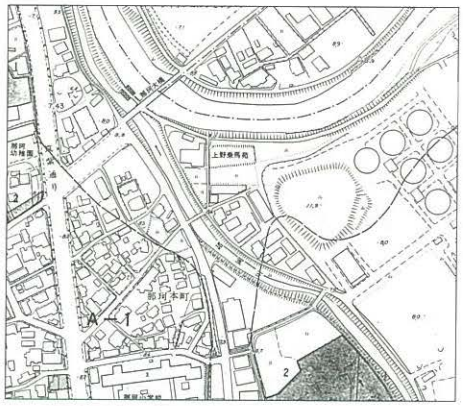
本調査区の遺構面は表土10～40㎝下の褐色ローム上面で、そのレベルは西側が若干高く東側にかけて傾斜している。

検出遺構
- 弥生時代中期末頃：貯蔵穴1基
- 弥生時代後期末：竪穴住居跡1棟
- 古墳時代前期：竪穴住居跡4棟
- 古墳時代後期：竪穴住居跡1棟・溝4条
- 中世：土壙墓1基

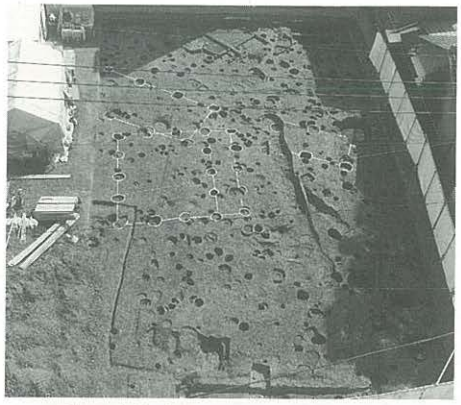
この他に掘立柱建物を7棟確認した。主軸方向から3ないし4時期に分かれそうである。時期的には弥生時代後期から古墳時代後期迄で、南東隅で確認した東西方向の1×1間＋αの建物は掘り方の1辺が1m、深さが1mもあり、西側隣接地に大型建物の存在が予想される。貯蔵穴は弥生時代中期末頃で貯蔵穴では最も新しい時期のものである。中世の土壙墓は木棺墓の可能性もあるが、糸切りの土師器小皿が副葬されていた。壕は磁北に主軸をとり、規模は軸2.5～3m、深さ1.5mを測る。時期は瓦質土器や明代の青花皿の出土から15～16世紀代のものと考えられる。この壕の続きは未だ確認されていない。

出土遺物　弥生時代遺構の各時代の遺物がコンテナ25箱程出土した。量的には弥生土器が圧倒的に多いが、中世の壕からは輸入陶磁器が若干量出土している。

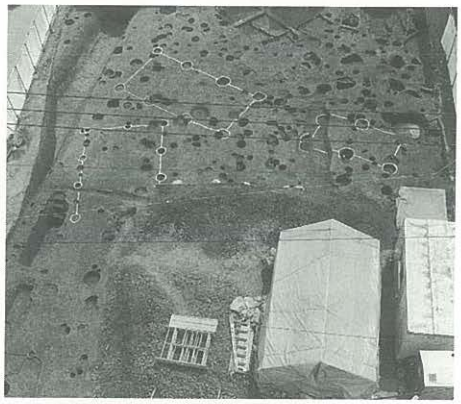
まとめ　今回の調査は、面積的には狭い調査範囲であったが、各時代の様々な遺構・遺物が発見でき、充分な成果を上げることができた。



1．調査地点の位置（23－A－1、1：8000）



2．調査区全景（北から）



3．建物検出状況（北から）

9257　麦野Ｂ遺跡２次調査（MGB－２）

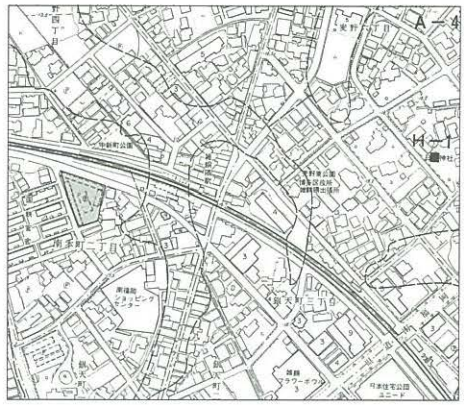
所在地	博多区南本町31－１・２	調査面積	1,364㎡
調査原因	遊戯場建設	担当者	佐藤一郎
調査期間	930215～930409	処置	調査後破壊

位置・環境　麦野Ｂ遺跡は、御笠川左岸の中位段丘上に立地する。調査区の北東・南西部は著しい削平を受け、遺構は全く残っていない。床面の柱列のみが残存する防空壕の跡が削平の度合いを示す。

検出遺構　調査で検出された遺構は８世紀中頃の竪穴住居跡５棟、掘立柱建物６棟＋αで、他時期の遺構は周辺域での調査と同様に検出されていない。竪穴住居跡の内SB03のかまどの残存状態は良好であり、煙道部は硬く焼き締まっていた。SB02・04では白色粘土の広がりを確認しただけで、焼土・炭化物の層、赤変した部位は確認されなかった。SB05はSB03同様の規模・構造の竪穴住居跡であるが、煙道部の赤変はみられず、焚き口部周辺に炭化物・白色粘土ブロックがみられるのみであった。掘立柱建物SB06は他の柱穴と比してひとまわり大きな柱穴掘り方で、梁間２間×桁行３間の建物である。SB03と重複している。

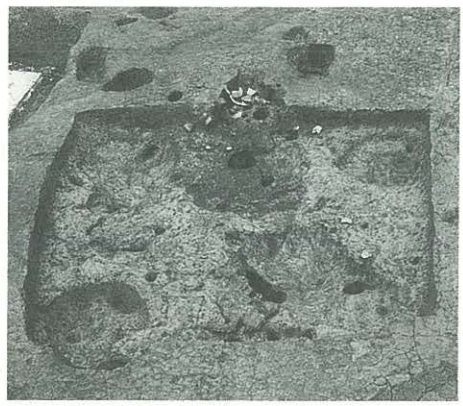
出土遺物　竪穴住居跡、掘立柱建物柱穴掘り方から土師器、須恵器片が出土したが、須恵器杯蓋に墨書がみられるものが確認された。判読は現在のところできないが、麦野周辺域では初めての出土である。

まとめ　今回の調査では、麦野Ａ・Ｂ、南八幡遺跡の過去の調査で検出された古代の集落の拡がりを追うことができた。



１．調査地点の位置（12－Ａ－３、１：8000）

２．調査区全景（南から）



３．ＳＢ－03竪穴住居跡（南から）

9258　飯氏二塚古墳第１次調査（IJK－１）

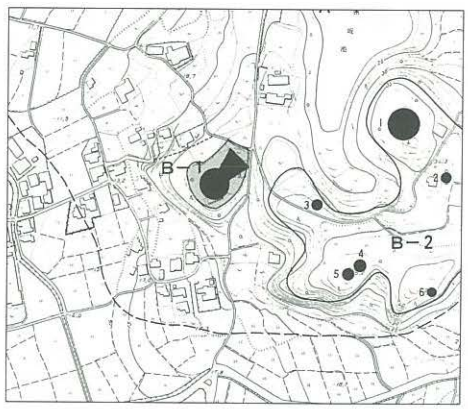
所 在 地	西区大字飯氏字鏡原	調査面積	3,500㎡
調査原因	重要遺跡確認	担 当 者	常松幹雄
調査期間	930207～930616	処　　置	調査後埋め戻し

位置・環境　本古墳は糸島平野の東縁部に延びる標高30ｍから35ｍの丘陵上に位置する前方後円墳である。現況は椎の雑木材となっている。

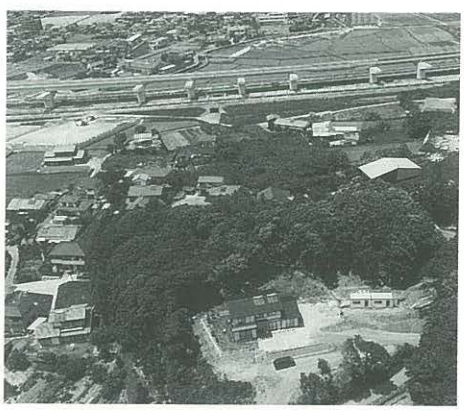
調査概要　４年度の地形測量に続いてトレンチを設定。その結果古墳は、２段にわたって葺石を回らす二段築成構造で周濠を持たないこと、埴輪を回らさないこと、石室が遺存していることなどが明らかとなった。古墳の規模は全長48ｍ、前方部幅32.5ｍ、後28ｍと考えられる。また石室は両袖式の単室構造で、玄室の内法3.6ｍ×2.5ｍでやや中ほどが脹らんでいる。袖石が仕切り石の上に置かれる構造である。また閉塞石はもとの位置を留めていた。墳丘はすべて盛り土で、最初の粗整地を行い、つぎに版築状に突き固め、最後に赤褐色土を用いて仕上げを行っている。盛り土内から土器や石器が出土することから、古墳の周囲には本来弥生時代の甕棺墓や集落が立地していたようである。

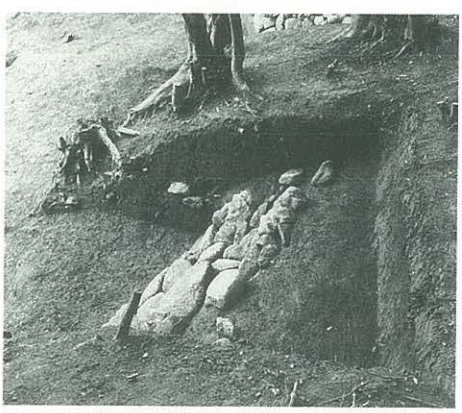
出土遺物　くびれ部のトレンチで出土した須恵器はコンテナ10箱に上り、２型式～３型式にかけてであることから造営の時期を６世紀初めと捉えている。石室内の敷石は、ことごとく持ち去られていたが床面から紫紺色のガラス玉と馬具の一部が採集できた。

ま と め　今回の調査によって古墳に関する多くの所見を得ることができた。とくに造営の時期を６世紀初めとすると、今宿大塚古墳の造営期とも重なるわけで、該域の首長墓の系譜も再考すべきであろう。



１．調査地点の位置（121－Ｂ－１、１：8000）


２．調査区全景（南から）


３．南側くびれ部葺石

9259　博多遺跡群第79次調査（HKT－79）

所在地	博多区冷泉町46	調査面積	610㎡
調査原因	ビル建設	担当者	大庭康時
調査期間	930222～931029	処置	調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多遺跡群が立地する２列の砂丘のうち、内陸側砂丘のほぼ中央に位置する。既存建物の基礎等による撹乱はほとんどなく、遺構の遺存状況は良好である。

基盤砂層は南東から北西に傾斜しており、その上に古代から中世前半にわたる生活面（包含層）が堆積していた。

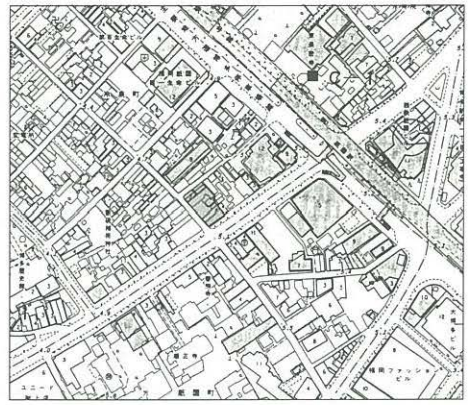
検出遺構　遺構は、奈良時代を初源とし、井戸・土坑・柱穴を検出した。平安時代以降の遺構は、地下室状の竪穴遺構・溝・井戸・土坑・柱穴・道路状遺構・木棺墓などである。

出土遺物　遺物は、土師器・須恵器・輸入陶磁器などコンテナ337箱、石製品コンテナ２箱、金属製品コンテナ１箱が出土した。

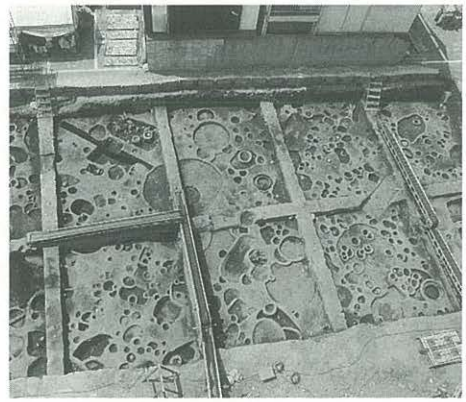
まとめ　奈良時代の遺構では、掘立柱建物があるにもかかわらず、竪穴住居跡は検出されなかった。「神功開寳」、銅製巡方、獣脚円面硯などの出土と合わせると、一般集落とはことなる官衙的な性格がうかがわれる。

中世では、火災にあって廃棄された、12世紀前半の中国陶磁器を主体とする一括遺物が注目される。中国陶磁器を主体とする一括遺物が注目される。中国陶磁器には、商品としての白磁碗・皿、陶器盤・壺など以外に、天目茶碗や緑釉陶器香炉などが含まれていた。また石鍋・土製竈、炭化米が出土するなど、博多に暮らした宋商人の生活を示す資料であるとも言える。

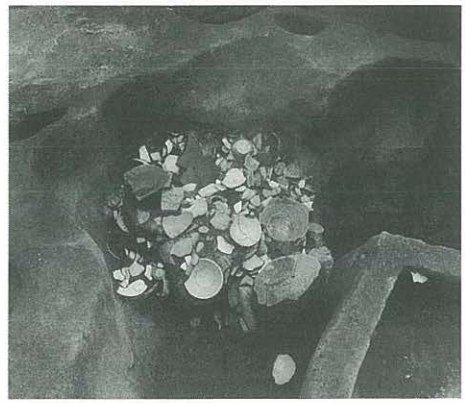
そのほか、14世紀後半から17世紀前半にわたって、ほとんど遺構が見つからない状況が認められた。土層観察の所見から畑の可能性が推測できた。中世都市「博多」の景観・構造をさぐる上で重要な発見と言うことができる。（平成７年度報告予定）



1．調査地点の位置（49－C－1、1：8000）



2．第３面全景（南から）



3．陶磁器一括廃棄遺構

9260　飯氏遺跡群第５次調査（IIJ－５）

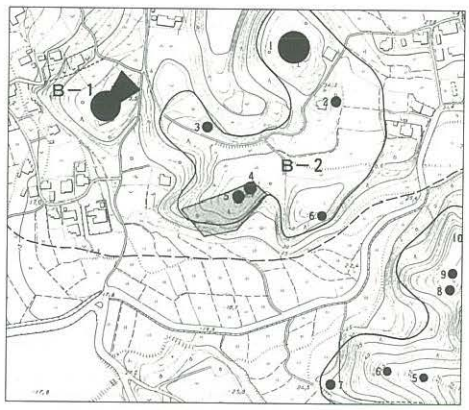
所在地	西区大字飯氏字上松３筆外	調査面積	8,480㎡
調査原因	自然観察園建設	担当者	常松幹雄
調査期間	930215～930220	処　置	調査後破壊

位置・環境　糸島平野の東縁部、高祖山から派生する丘陵上に位置する。旧況は畑と雑木林である。尾根筋に沿って甕棺の分布が認められた。

検出遺構　弥生時代：甕棺墓12基

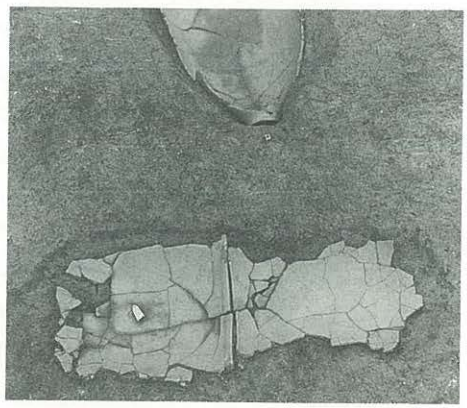
東西50ｍの範囲で成人棺10基、小児棺２基の計12基の甕棺を検出した。開墾によって削平を受けており、本来はより密な分布であったと推定される。甕棺の時期は中期前葉から後葉にかけてで、西端の５号甕棺と東端の６号甕棺の内部より磨製石剣の先端部がそれぞれ１個出土した。

まとめ　剣の先端部や石鏃が埋葬遺構から出土したものは北部九州の50以上の遺跡で確認されている。それらを弥生時代の戦闘によって体内に嵌入したとの評価が大勢を占めつつあるようだ。では今回の被葬者たちはどのような生産基盤を持っていたのか、戦いの相手の生活圏はどこなのか。遺跡からは三雲遺跡が望めるが、今後これらの問題をふまえていきたいと思う。



1．調査地点の位置（121－B－２、１：8000）

2．調査区全景（東から）



3．甕棺石剣切先出土状況

9261　免遺跡群第4次調査（MEN－4）

所在地	早良区賀茂三丁目地内	調査面積	2,543㎡
調査原因	道路建設	担当者	山口譲治・中村啓太郎・池田裕司
調査期間	930106～930921	処置	調査後破壊

位置・環境　調査地は、金屑川中流域東岸の標高10.5m前後の低位段丘上に位置している。調査前は、対象地の西側は水田、東側は盛土され工場敷地としてそれぞれ使用されていた。

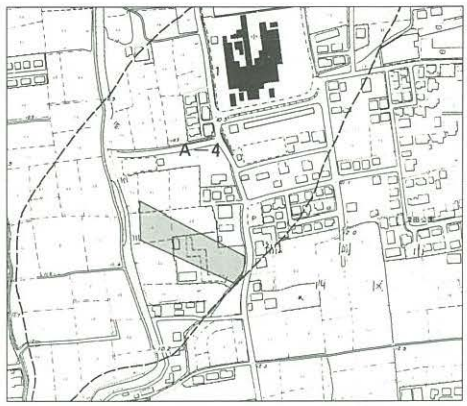
調査は、盛土および現代水田耕土を除去することから始め、標高9.2m前後の面で遺構を検出した。さらに9.7m前後のアカホヤを除去した面で縄文時代前期の遺物包含層を検出した。

検出遺構　・縄文時代前期：遺物包含層
・弥生時代：溝、自然流路、柵、井堰
・古墳時代：同上

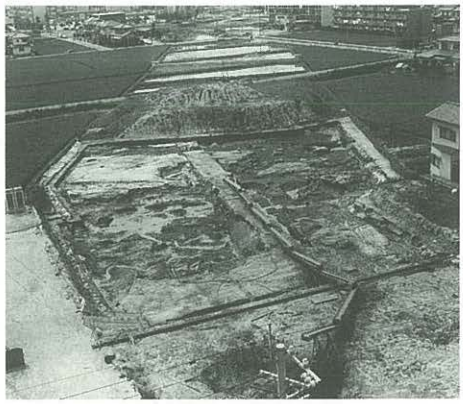
出土遺物　本調査では、コンテナ80箱の遺物が出土した。縄文時代前期の遺物は、轟式土器・石匙・削器があり、弥生時代の遺物は、突帯文土器、前期から中期の土器、諸手鍬などの木製品がある。古墳時代の遺物は、前半期の土師器と三又鍬・竪杵などの木製農具をはじめとする木製品、後半期の須恵器と木製品がある。

まとめ　本調査では、台地際の自然流路群を検出した。この自然流路群は、出土遺物から突帯文土器期から古墳時代後半期のもので、時期ごとに少しずつ流路を変えている。弥生時代中期からたびたび柵やアーチ状をなす井堰が構築されている。

以上から、本調査地周辺は少なくとも弥生時代中期までには水田開発が行なわれていたといえよう。



1．調査地点の位置（83－A－4、1：8000）



2．Ⅰ区遺構検出状況

3．井堰検出状況

9262　福岡城ー花見櫓跡ー（FUE－21）

所 在 地	中央区城内１－５	**調査面積**	100㎡
調査原因	史跡整備	**担 当 者**	瀧本正志
調査期間	930301～930331	**処　　置**	埋め戻し保存

位置・環境　1601年より築城され、以降260余年の間、筑前国黒田家の居城となった福岡城は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の先端部、博多湾を望む高台の地（那珂郡警固村）に築かれた平山城である。調査地は、約80万㎡の敷地西南隅の土塁上に築かれた花見櫓跡で、標高８ｍを測る。現況地は、土塁上にわずかに石垣の一部と思われる石が露出している。

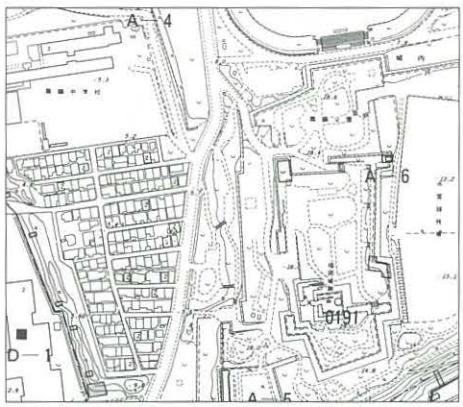
検出遺構　福岡城と造営に関する遺構には、櫓建物の基壇部と思われる石積みがある。

出土遺物　軒瓦等の瓦類がコンテナに30箱出土している。瓦の大半は丸・平瓦が占める。軒丸瓦の紋様は三ツ巴藤だけである。

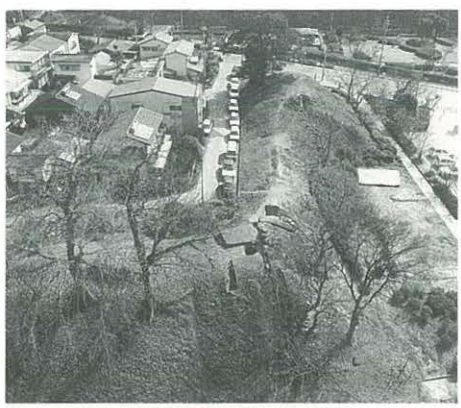
ま と め　福岡城内には47を数える櫓が造営されていた。そのうち、調査地である城郭の南西隅に位置する花見櫓は、城郭隅に石垣で独立基壇を築いた敷地に、二層の東西に棟を配する瓦葺き建物であったことが、現存する城絵図で確認される。

調査の結果、調査地に露呈していた石列は、基壇石垣の東北隅および北面石垣の一部であることが判明した。石垣は、基壇の東北隅から西へ長さ４ｍ、高さ1.5ｍを測る範囲で残存しているものの、その他は後世の開削により櫓基壇部の大半を欠失する。このため、石垣、建物の規模や改築等は不明である。

以上の点から、崇福寺に払下げられ、現在は本市所有となっている花見櫓建物との整合性の検証は困難な状況である。



1．調査地点の位置（60－Ｅ－１、１：8000）


2．調査地遠景（西から）

3．櫓跡基壇部石垣（北から）

9263　山崎古墳群第２次調査（YSK－２）

所在地	早良区野芥五丁目459－１外	調査面積	2,100㎡（古墳３基を含む）
調査原因	宅地造成	担当者	濱石哲也
調査期間	930307～930520	処　置	調査後破壊

位置・環境　遺跡は早良平野の東縁、油山から西北に延びる丘陵上にある。標高は約46～54m。調査地は西に向かって開き、早良平野の中央部分が広く望まれる。

この山崎古墳群は1974年にＡ・Ｂ群あわせて、10基の調査が行われている。今回調査した古墳群は、Ａ・Ｂ群と丘陵鞍部を隔て立地することからＣ群と新たに命名した。

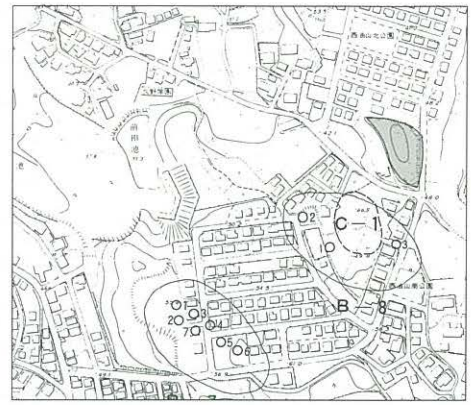
検出遺構　古墳３基（Ｃ－１、Ｃ－２、Ｃ－３号墳）、土壙墓、溝、土坑、ピットなどである。

古墳はＣ－１、Ｃ－２号墳が単室の両袖型横穴式石室を主体部とする円墳である。ともに石室、墳丘の遺存状態は悪い。Ｃ－１号墳はおよそ径12.5mである。Ｃ－３号墳は小型の単室の横穴式石室を主体部とする。いずれも６世紀末～７世紀の造営。

土壙墓は７世紀後半代と、12世紀代のものがあり、副葬土器を伴う。また鎌倉時代以降は溝、ピット、土坑など生活関連の遺構が見られる。

出土遺物　Ｃ－１号墳からは60余点の供献土器（須恵器、土師器）が玉類、鉄製武具、馬具などとともに出土。他に中世土師器、輸入陶磁器、国産陶磁器、石鏃などがある。

まとめ　今回の３基の古墳調査は、油山山麓の群集墳の分布、構造を知る上で貴重な一資料を提供した。



1．調査地点の位置（84－Ｂ－８、１：8000）

2．Ｃ－２号墳および土壙墓群（東から）

3．Ｃ－１号墳（南から）

9264　那珂遺跡群第41次調査（NAK－41）

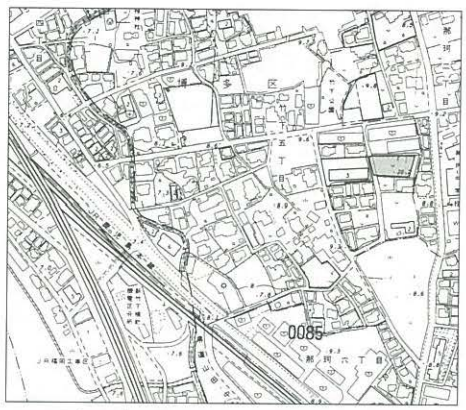
所在地	博多区竹下五丁目509	調査面積	550㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	菅波正人
調査期間	930315～930521	処置	調査後破壊

位置・環境　調査地点は那珂遺跡群の南側の中央部分に位置する。現況は畑地である。西側の隣接地で第９次調査が行われている。遺構面は現地表から厚さ30～50㎝の表土を除去した鳥栖ローム層で、標高約9.3～9.5ｍを測る。

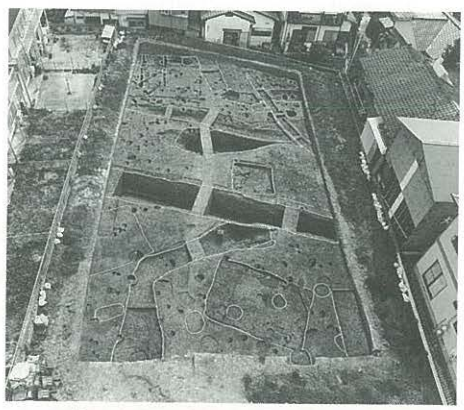
検出遺構　遺構は弥生時代中期～後期の竪穴住居跡、井戸、掘立柱建物跡、溝、古墳時代初頭の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、奈良時代の大溝、鎌倉時代の井戸等を検出した。弥生時代後期の溝は南北方向に延び、幅約３ｍ、深さ1.5ｍほどあり、周辺の調査の状況から環濠と考えられる。古墳時代初頭の方形周溝墓は２基検出したが、いずれも主体部は削平されている。奈良時代の溝は幅約３ｍを測る南北溝で、官衙等との関連が考えられる。

出土遺物　遺物は各時期の遺構から弥生土器、土師器、須恵器等が出土した。遺物量はコンテナ66箱に及ぶ。又、調査区中央の鳥栖ローム層上面でナイフ形石器、彫器、剥片等を含む包含層を検出した。

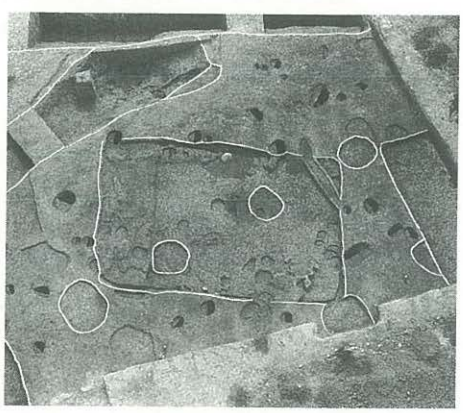
まとめ　今回の調査では弥生時代～鎌倉時代に渡る幅広い時期の遺構を検出した。弥生時代の遺構では後期の環濠が検出でき、那珂遺跡の集落構造を解明する上で重要な資料を得ることができた。また、今回検出した旧石器の包含層は福岡平野では数少ない調査例であり、今後、福岡平野の旧石器の様相を考える上で貴重な資料と言えよう。



1．調査地点の位置（38－Ａ－３、１：8000）



2．調査区全景（西から）



3．SC－009完掘（西から）

9265　板付遺跡（ITZ）

所在地	博多区板付五丁目７－１－１	**調査面積**	1,000㎡
調査原因	史跡整備に伴う遺構確認調査	**担当者**	力武卓治
調査期間	920410～920730	**処　置**	埋め戻し

位置・環境　昭和51年に国史跡の指定を受けた板付遺跡では、史跡西側の水田部分が文化庁の「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）」に採択され、平成３年度に環境整備を終えて平成４年６月から一般公開している。また史跡東側の環濠部分についても平成７年度の全面開園を目指して現在整備工事を進めている。

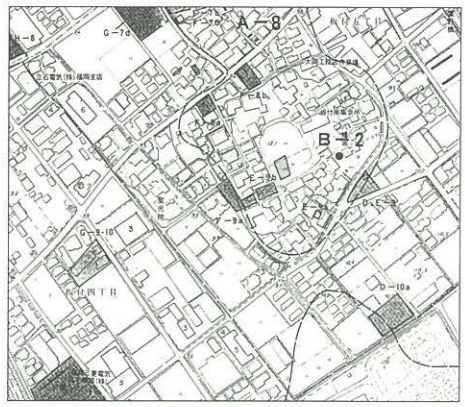
この整備工事に並行して平成元年度から周辺部の遺構確認を継続して実施している。発掘の成果を環境整備に生かし、より正確な弥生時代前期の集落を再現するもので、同時に発掘自体が重要な展示という考えからである。したがって発掘期間中は子供たちの参加や成果の公表に十分配慮している。

本年度の調査区は、昨年に引続き南台地に設定した。この南台地は環濠部より南500ｍの位置にあたり、現在は畑地となっている。

検出遺構　昨年は遺構確認調査ということから発掘による破壊を最小限にとどめるためにトレンチで遺構検出を行い、弥生時代中期から後期の竪穴住居や竪穴、近世の溝などの遺構を確認した。今回はこれらの遺構の広がりや土地利用などの確認を目的にトレンチの南側約1,000㎡を対象地とした。この結果、弥生時代中期の井戸１基、弥生時代後期～古墳時代の竪穴住居４軒、近世の溝１条などが検出した。

出土遺物　竪穴住居、井戸などの各遺構から弥生時代～古墳時代の土器、石器などの遺物がコンテナ20箱分出土した。また近世の溝からは筑前黒田藩の家紋である藤巴文の瓦や陶磁器類が発見された。

まとめ　弥生時代前期に遡る遺構、遺物の確認は出来なかったが、弥生時代中期以降に南台地も開発され、後期にいたって一層拡張を続けたことが判明した。また藤巴文瓦の発見は黒田藩関係の施設の存在を予想させるもので注意される。なお、外環濠の確認調査として、その推定地の39ヶ所で電気、磁気探査を実施した。



1．調査地点の位置（24－Ａ－８、１：8000）

2．古墳時代の竪穴住居跡

3．土器の出土状況（弥生時代後期）

平成４年度調査遺跡索引（五十音順）

遺　跡　名	次数	調査番号
〔ア行〕		
有田（ありた）遺跡群	170	9251
飯氏（いいじ）遺跡群	5	9262
飯氏二塚古墳	1	9258
井尻（いじり）Ｂ遺跡群	3	9201
板付（いたづけ）遺跡		9265
伊都（いと）区画整理地区内遺跡	2	9250
今宿五郎江（いまじゅくごろうえ）遺跡	4	9253
大谷（おおたに）遺跡群	4	9210
大原（おおばる）Ａ遺跡群	1	9220
大原Ｄ遺跡群	2	9214
〔カ行〕		
片江（かたえ）Ｂ遺跡	2	9249
クエゾノ遺跡	1	9213
桑原（くわばる）遺跡	1	9243
鴻臚館（こうろかん）	8	9218
鴻臚館	9	9236
〔サ行〕		
雀居（ささい）遺跡	3	9230
雀居遺跡	4	9241
笹原（ささばる）遺跡群	1	9203
次郎丸（じろうまる）遺跡群	1	9209
次郎丸高石（じろうまるたかいし）遺跡群	2	9233
鋤崎（すきざき）遺跡	1	9202
〔タ行〕		
田村（たむら）遺跡群	12	9242
田村遺跡群	13	9247
田村遺跡群	14	9248
徳永（とくなが）古墳群Ｈ群	2	9235
〔ナ行〕		
那珂（なか）遺跡群	36	9217
那珂遺跡群	37	9224
那珂遺跡群	38	9225
那珂遺跡群	39	9228
那珂遺跡群	40	9256
那珂遺跡群	41	9264
長尾（ながお）遺跡群	1	9212
奈多砂丘（なたさきゅう）Ｂ遺跡	1	9239
西新町（にしじんまち）遺跡	5	9246
野方久保（のかたくぼ）遺跡	4	9232
能古島（のこのしま）遺跡	1	9219
野多目（のため）Ｂ遺跡群	4	9204
〔ハ行〕		
博多（はかた）遺跡群	77	9205
博多遺跡群	78	9222
博多遺跡群	79	9259
花見櫓（はなみやぐら）	21	9262
比恵（ひえ）遺跡群	40	9207
比恵遺跡群	41	9211
比恵遺跡群	42	9221
比恵遺跡群	43	9229
比恵遺跡群	44	9231
比恵遺跡群	45	9237
比恵遺跡群	46	9240
比恵遺跡群	47	9245
比恵遺跡群	48	9255
東入部（ひがしいるべ）遺跡群	4	9208
東入部遺跡群	3	9216
東入部遺跡群	5	9226
東入部遺跡群	6	9227
東桑原（ひがしくわばる）遺跡	1	9254
桧原（ひばる）古墳群	1	9234
藤崎（ふじさき）遺跡群	22	9223
藤崎遺跡群	23	9244
〔マ行〕		
麦野（むぎの）Ｂ遺跡群	2	9257
席田青木（むしろだあおき）遺跡	1	9206
姪浜（めいのはま）遺跡群	3	9252
免（めん）遺跡群	3	9238
免遺跡群	4	9261
〔ヤ行〕		
山崎（やまざき）古墳群Ｂ群	2	9263
〔ワ行〕		
脇山（わきやま）遺跡群	7	9215

Ⅲ　文化財調査の概要

1)　文化財調査

『東長寺収蔵品目録』（福岡市文化財調査目録５）

昭和48年の福岡市文化財保護条例の制定を契機に、同年度より市内の寺社を中心とした文化財調査を行い、現在までその調査対象となった寺社は二十数ヵ所に及んでいる。今年度は、昭和59年度、平成４年度に行った東長寺（博多区御供所町２－４）に所蔵される美術工芸、古文書、漢籍の各分野の資料をまとめて報告書とした。絵画127点、書跡49点、工芸品27点、彫刻24点、古文書3617点、漢籍253点を収録。東長寺は大同元年（806）、唐より帰朝した空海の開基した我が国最初の密教寺院として伝えられ、寺号は密教が東漸して長く将来に伝わることをねがったことによるといわれている。本市では最も古い由緒をもつ寺院である。重要文化財の木造千手観音立像、市指定文化財の東長寺六角堂、福岡二代藩主忠之、三代光之、八代治高の墓所などでも知られるところである。

絵画では室町時代前半以前のものと考えられるすぐれた描写の仏涅槃図、書跡では高麗時代の弥勒成仏経、鎌倉時代の理趣経、嶋井宗室が本能寺の変のとき持ち出したと伝えられる千字文、工芸品では鎌倉時代の独鈷杵、文明10年（1478）の戒体箱、彫刻では山門安置の天部像などが注目される。

戦国時代の戦火のためか残存する古文書類は近世、近代に集中している。真言宗への帰依篤く東長寺を菩提寺とした二代藩主忠之の寺領寄進の判物は散逸して見当らない。本山仁和寺が東長寺を筑前国の惣録職に任じた仁和寺御室令旨が残る。櫛田神社の神宮寺であった神護寺が末寺であった関係から200点余の櫛田神社関係史料が伝わり貴重である。同じく太宰府の戒壇院の関係史料が200点弱伝存し、近世の戒壇院を知る史料として注目される。近世地誌類がその墓所を画かないのに比べ三藩主の墓所まで画く境内図によって菩提寺としての威容を窺うことができる。

2)　平成４年度の文化財指定

木造阿弥陀如来立像

所有者・所在地　選擇寺　博多区中呉服町９－21

像高119.4㎝　桧材　寄木造　平安時代後期

旧那珂郡と博多部を結ぶ石堂橋西側、旧称石堂口に所在する浄土宗鎮西派選擇寺の本尊。広めの瞼に前方下方をみつめる彫眼、ふくよかな頬の顔立ち、浅い彫りで流れる衣文線、量感のある上腿など、中央仏師の手になると考えられる本市には数少ない平安時代の仏像彫刻。

木造大日如来坐像

所有者・所在地　池田大日堂管理組合　早良区大字脇山1678

像高80.8㎝　桧材　寄木造　室町時代後期

室見川の上流域に位置する、脊振山東門寺の別院跡と伝えられる池田の大日堂の本尊である。地誌類に記された胎内銘文から天文７年（1538）、大内氏被官の早良郡代、脇山・内野・小笠木の有力農民層、東門寺の僧侶が現世の安穏と極楽往生を願って造立したと考えられる。

飯盛神社流鏑馬行事

保存会・所在地　飯盛宮当流流鏑馬保存会　西区大字飯盛609

旧暦９月９日、飯盛・吉武・金武以下旧早良郡７ヵ村から惣社飯盛神社に奉納されてきたもの。古くは元亀４年（1573）の古文書にみえ、近世の地誌類にもみえる。天保９年（1838）の流鏑馬伝書が３代続く射手の氏子の家に伝えられている。

若八幡宮古墳

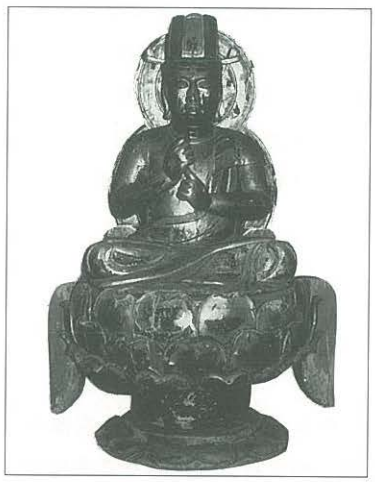
所有者・所在地　若八幡宮　西区大字徳永字下引地280－２

今宿平野の中央部に位置し、高祖山から派生した舌状丘陵上に立地する前方後円墳。全長約47m、後円部径25m、前方部長さ25m。造営時期は４世紀後半まで遡る。今宿平野に分布する12基の前方後円墳の中で最古のもの。

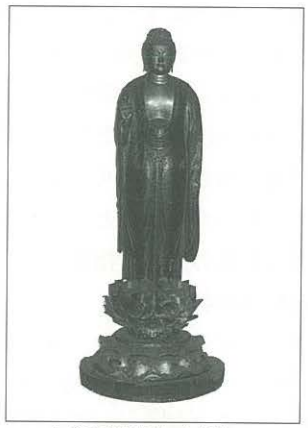
那珂遺跡

所有者・所在地　福岡大同青果株式会社　博多区那珂六丁目316・317

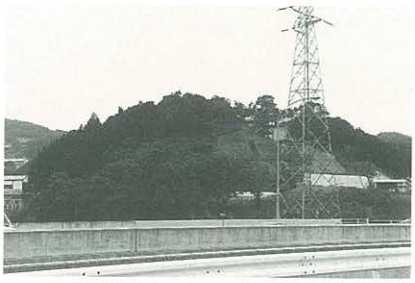
福岡平野の中央部に位置し、那珂川と御笠川に挟まれた洪積世大地上に立地する二重環濠遺跡。推定環濠規模、長径160m前後、短径140m前後。北側１号溝は幅５～４m、深さ1.8～1.5m、断面Ｖ字型、長さ25mを検出。南側２号溝は幅2.0～1.5m前後、深さ1.0～1.5m、断面逆台形、長さ38mを検出。夜臼式土器を出土し、現時点では国内最古に位置づけられる環濠（P.44参照）。



大日如来立像



木造阿弥陀如来立像



若八幡古墳

飯盛神社流鏑馬行事

附　平成４(1992)年度刊行報告書一覧

（　）内は、報告された遺跡の調査番号

第317集　「香椎Ａ遺跡」(9135)

第318集　「名島城跡」(9023)

第319集　「吉塚本町遺跡１」(9030)

第320集　「吉塚本町遺跡２」(9124)

第321集　「立花寺２」(9035)

第322集　「雀居遺跡１」(9131)

第323集　「那珂遺跡(7)」(8848)

第324集　「那珂遺跡(8)」(8906)

第325集　「比恵遺跡群(12)」(9104・9134)

第326集　「博多(34)」(8943)

第327集　「博多(35)」(8942)

第328集　「博多(36)」(8957)

第329集　「博多(37)」(9017)

第330集　「博多(38)」(9022)

第331集　「博多(39)」(9136)

第332集　「博多(40)」(9137)

第333集　「野多目拈渡遺跡４」(9121)

第334集　「干隈遺跡」(8845・9018・9119)

第335集　「タカバン塚古墳」(9107)

第336集　「飯倉Ｃ遺跡２」(9110)

第337集　「原遺跡７」(9103)

第338集　「藤崎遺跡８」(9014・9140)

第339集　「有田・小田部　第17集」(9029・9147)

第340集　「有田・小田部　第18集」(8718・8754・8815・8851・8861)

第341集　「熊本遺跡１」(9127)

第342集　「岩本遺跡」(9040)

第343集　「入部４」(9073・9102・9164)

第344集　「脇山５」(9101)

第345集　「羽根戸古墳群２」(8955)

第346集　「羽根戸古墳群３」(8837)

第347集　「羽根戸古墳群４」(9019)

第348集　「野方・久保(2)」(8301)

第349集　「拾六町平田遺跡２」(9011)

第350集　「青木遺跡２」(9013)

第351集　「相原古墳群２」(8972・9021・9105)

第352集　「飯氏遺跡群１」(8921)

第353集　「山ノ鼻２号墳」(9060)

第354集　「能古島」(9219)

第355集　「鴻臚館３」(9130)

「福岡市埋蔵文化財年報Vol.6－1991年度」

「福岡市文化財分布地図（中部・南部)」

福岡市埋蔵文化財年報Vol.7
ー平成４（1992）年度ー

発　行　日　1994年３月31日
編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
福岡市中央区天神一丁目8－1

印　　刷　栄光印刷株式会社

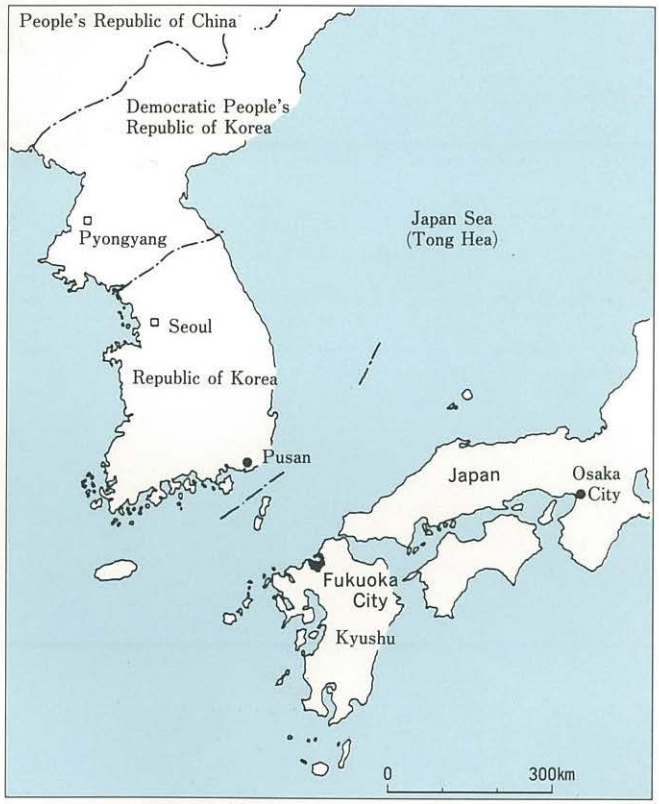
THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 7

1992



THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1994

Japan